

第 2 編 業 務

第 1 章 検査研究部門

第1節 業務の内容

概 況

当センターの検査・研究部門は、厚生労働省の制定する地方衛生研究所設置要綱に基づく地方衛生研究所として、都民の健康安全を守るため、都の保健衛生行政の科学的・技術的中核の役割を担っている。具体的には、感染症その他の疾患の予防衛生・薬事衛生・食品衛生・環境衛生・生体影響（毒性研究）・精度管理などの分野において、行政需要に応じた試験検査、調査研究を行っている。

1 試験検査

保健医療局の各部課及び都保健所等の行政機関からの依頼、特別区・市からの依頼等に基づき、感染症・食中毒等の病原体検査、医薬品・日用品・食品・大気・水等の安全性検査などの試験検査業務を実施している。

令和7度の総取扱件数は 306,161件であった。内訳は、行政検査 166,892件（54.51%）、特別区・市依頼検査 16,752件（5.47%）、一般依頼 15件（0.01%）、準依頼検査 369件（0.12%）、その他検査（開発試験等や感染症発生動向調査等）122,133件（39.89%）である（詳細は83ページ以下参照）。令和6年度検査実績と比較すると、総取扱件数は18.49%増となった。

2 調査研究

調査研究業務として、検査方法の改良・開発の研究、公衆衛生に関する基礎的・応用的な研究及び健康影響の予見される微生物や化学物質についての先行的な実態調査等を行っている。調査研究は、重点研究、課題研究、基盤研究、共同研究、受託研究、応募研究に分類される。

一方、研究の評価は、研究評価大綱に基づき実施している。具体的には、研究計画時・継続時（年度ごと）・終了時の各段階において、研究の必要性、科学的妥当性及び成果などの視点から、研究調整委員会（所内委員による評価）及び研究評価会議（所外委員による評価）が評価を行う。（詳細は61ページ以下参照）。

I 微生物部

1 食品微生物研究科

(1) 科内業務の概略

当研究科は5研究室で構成され、食中毒や感染症発生時の原因究明、被害の拡大及び再発防止等と、食品を介した健康被害の未然防止を目的として、微生物学的試験検査及びそれに関連する調査研究を実施している。

食中毒・腸内細菌研究室では、食中毒担当が都内全域を対象に食中毒事件の原因究明のための細菌学的な検査を、腸内細菌担当が、感染症法に基づく三類感染症の検査、積極的疫学調査事業による検体を対象として腸管系下痢症起因菌等の検査を行っている。食品細菌研究室及び乳肉魚介細菌研究室では、流通食品の細菌検査を、真菌研究室ではそれらの真菌（カビ・酵母）検査を実施するとともに、食品苦情に係る検査や食品製造施設等の衛生学的検査を行っている。培養基研究室では当研究科で使用する培地の作製、病原体及び各研究室で使用した培地・器具類などの滅菌、洗浄、廃棄を一括して担当している。

(2) 調査研究

重点研究、課題研究、基盤研究等として実施している主な調査研究は、以下のとおりである。

ア 食中毒起因菌の分子疫学解析とデータベース構築に向けた基礎的研究

ソネ赤痢菌を対象とした全ゲノム配列による分子疫学解析法を検討した。コア遺伝子を対象とした解析では多くの変異領域を含んでしまうため結果が安定しなかったが、コアゲノムを対象とした SNP 解析では各集団事例由来株の SNP 差は 5 SNPs 以内に収束し、安定した判定が可能となった。

腸管出血性大腸菌 0157 については、MLVA 法とコアゲノム SNP 解析を比較した。4 薬剤耐性 VT2 産生株 196 株を対象に MLVA を実施したところ、169 株 (86.2%) が 0~2 領域差で単一クラスターを形成した。このうち 38 株でコアゲノム SNP 解析を行った結果、MLVA 型が近いほど SNP 差も小さく、両手法の結果には正の相関が認められた。一方で、同一 MLVA 型でも 21~33 SNPs 差を示す外れ値が存在し、今後は要因解明とデータ蓄積による解像度向上が課題と考えられた。

イ リステリア・モノサイトゲネスの疫学解析に関する研究

2014年~2022年に都内流通食品から分離した *L. monocytogenes* 116株（血清型1/2a:49株、1/2b:34株、1/2c:12株、4b:21株）について、病原性関連遺伝子の解析を行った。その結果、血清型1/2a や1/2c の株では病原性の低下に関わる変異を持つ株が多いことが、1/2b と4b の株では病原性関連遺伝子群である *Listeria pathogenicity island 3* (LIPI-3) と LIPI-4の保有率の高いことが確認され、血清型により病原性関連遺伝子の分布が異なることが示された。一方、病原性が高い可能性のある株は様々な食品に広く分布しており、リステリア症の原因食品の特定が困難な要因になっていると考えられた。

ウ 黄色ブドウ球菌等の毒素検出に関連する新規検査法の検討

食中毒3事例、106株について FT-IR を用いた解析を行い、従来の型別法であるコアグラゼ：エンテロトキシン型と比較した。その結果、従来の型別法と FT-IR の分類が完全に一致する事例はなかった。しかし、部分的には原因と考えられる食品由来の株と患者由来株が FT-IR 解析で同一のグループに分類され、食品由来株と患者由来株の関連性を示す事例もあった。従来の型別法の代替法となるのは難しいが、引き続き検討が必要であると考えられた。

エ 好気性芽胞菌を中心とした食品の細菌学的汚染実態調査及び迅速同定法の検討

食用昆虫28検体から分離された腸内細菌科菌群、好気性芽胞菌群、嫌気性芽胞菌群について MALDI-TOF MS を用いた菌種同定を実施した。好気性芽胞菌群のうち *B. cereus* グループと同定された菌株についてセレウリドを測定した結果、すべて陰性であった。また、嫌気性芽胞菌群のうち *C. baratii* と同定された菌株について PCR 法でボツリヌス毒素遺伝子を検査した結果、陰性であった。

オ 国内流通穀粉を対象とした細菌学的汚染実態調査

穀粉およびクッキー生地（合計98検体）から分離された細菌のうち、セレウス菌（28株）および腸内細菌科菌群（*E. coli* 1株、*Cronobacter* 属菌3株）に着目し、菌種同定を含めたタイピングを行った。セレウス菌28株はいずれもセレウリド産生遺伝子を保有せず病原性は低いと考えられた。*E. coli* から病原遺伝子は検出されなかった。一方で、*Cronobacter* 属菌は *C. sakazakii* (2株) および *C. turicensis* (1株) と同定され、MLST 解析の結果、*C. sakazakii* の一部は海外において乳児用粉ミルクや患者からの分離報告があるものと同一 ST 型であった。以上より、加熱不十分な穀粉の喫食には一定のリスクが示唆された。

カ 流通食品等における *Escherichia albertii* の汚染実態調査および検査法の検討

令和7年4月～12月において、当研究室に搬入された流通食品590検体を対象に調査を行った。前年度の検討結果を基に構築したプロトコルで検査を実施し、リアルタイム PCR 法でのスクリーニングで陽性となった52検体（Ct 値25.9～43.0）のうち、鶏正肉1検体（Ct 値25.9）及び冷凍生餃子（Ct 値28.7）から *E. albertii* が分離された。さらに、夾雑菌の抑制を目的とし、二次増菌での培養時間や、分離平板の培養温度等、上記プロトコルを改良した。

キ MALDI-TOF MS 及び FT-IR(IR Biotyper)を利用した食中毒起因菌の同定及び型別に関する研究

Vibrio 属菌の迅速な菌種同定を目的として、MALDI-TOF MS の有用性を評価した。マスペクトルに基づく系統樹解析では、16S rDNA 解析において近縁であった菌種が同一クラスターを形成した。ライブラリとの照合では、一致度が最も高い第1候補で高精度に同定可能であり、ライブラリ拡充により第2候補以降の同定精度も向上した。本法を生化学的性状試験と併用することで、検査日数の短縮に寄与する可能性が示された。

ク 腸管系病原菌を対象とした薬剤耐性菌のサーベイランス調査

薬剤耐性菌の増加は、ヒトの健康危機管理として最も重要な課題の1つであり、WHO は世界

的な取り組みを推進する必要性を訴えている。今回、腸管出血性大腸菌 O157を対象に薬剤感受性試験を実施し、薬剤耐性菌出現状況を調査した。供試した17薬剤に1薬剤以上の耐性を示す株の割合は、2000年～2010年までは10.0～23.4%であったが、2023年は29.8%、2024年は43.3%と耐性率は上昇していた。中には6薬剤以上に耐性を示す株も検出されていることから今後も耐性率の動向に注視していく必要がある。

ケ 食品から分離されるデオキシニバレノール産生 *Fusarium* 属菌のスクリーニング法の検討
MALDI-TOF-MS によるデオキシニバレノールの検出条件を検討した。標準液(5～100ppm)をアセトニトリルで調製し、塩化ナトリウム及び塩化カリウムを添加してイオン付加体を作製後、分析を行った。陽性判定は m/z 297 (水素付加体)、m/z 319 (Na 付加体)、m/z 335 (K 付加体)に S/N 比が3以上のピーク検出を基準とした。その結果、100ppm では水素付加体と Na 付加体として、50ppm では水素付加体として検出されたが、10ppm 以下では検出困難であった。K 付加体は SSA 培地のマススペクトルと重複し検出困難であった。

コ 環境由来アゾール耐性 *Aspergillus* 属菌の汚染状況調査

2020年～2022年に購入したチューリップ球根(オランダ産204球、日本産209球)を対象にアゾール耐性 *A. fumigatus* (ARAF) の汚染状況を調査した。分離した187株の *A. fumigatus* のうち、ARAFはオランダ産24.0% (31/129) 及び国産51.7% (30/58) であり地域差が見られ、経年的に耐性菌が分離された。主要なアゾール耐性変異は *Cyp51A* 遺伝子の TR46/Y121F/T289A 及び TR46/Y121F/T289A/S363P/I364V/G448S であり、後者は多剤耐性傾向が強かった。全ゲノム解析の結果、日本産球根由来の耐性株はオランダの環境や臨床由来株と遺伝的に近縁であったことから、今後日本における臨床への影響を注視する必要がある。

サ *Aspergillus* 属菌及び *Penicillium* 属菌の同定法の検討

Aspergillus section *Nigri* の8菌種26株を対象に MALDI-TOF MS による同定精度を検証した。液体培養法及びビーズ破砕法で得たスペクトルからインハウスライブラリーを構築し、市販ライブラリーと併せて、両法の前処理法を比較した。その結果、ビーズ破砕法は迅速性に優れており、同定精度は液体培養法と同程度であった。しかし、両法ともに分類学的に極めて近縁な菌種の識別は困難であった。また、プベルル酸産生菌種の *Penicillium adametzioides* をライブラリーに登録し、プベルル酸産生株のスクリーニング体制を構築した。

(3) 試験検査

ア 食品細菌研究室：

大規模・高度製造業監視、食品流通拠点監視、輸入食品の監視指導、先行調査等で搬入された食品648検体、計画事業で都保健所より送付された330検体について細菌検査を行った。検査対象食品は、清涼飲料水、そう菜、麺類、菓子類、缶詰・瓶詰食品、調味料等である。広域監視部の衛生監視指導の一環で、拭き取り50検体についてリステリア等検査を行った。保健所計画事業の一環で、拭き取り58検体の検査を行った。また、食品苦情に係る検査として食品6検体の検査を行った。さらに、黄色ブドウ球菌食中毒事例の疫学調査として、黄色ブドウ球菌分

分離株88株のコアグラゼ型別試験及びエンテロトキシン産生能・型別試験を実施した。

イ 食中毒・腸内細菌研究室

食中毒担当：

都内で発生した食中毒 116 事例（患者数 1,282 名）のほか、有症苦情事例あるいは他都道府県の食中毒事例の原因解明及び拡大防止を目的として、患者等の糞便及び食品等関連材料 5,480 検体について検査を行った。都内で発生した食中毒 116 事例のうち、細菌が原因と確認されたものは 34 事例（29.3%）で、原因菌別では、カンピロバクター 20 事例（58.8%）、ウェルシュ菌 7 事例（20.6%）、腸管出血性大腸菌 3 事例（8.8%）、黄色ブドウ球菌およびサルモネラ各 2 事例（5.9%）であった。また、医療機関等で分離され東京都保菌者検索事業、積極的疫学調査を通じて当センターに搬入された腸管出血性大腸菌は 478 株であった。これら分離株を対象に薬剤耐性パターン、MLVA（Multilocus variable-number tandem-repeat analysis）、パルスフィールド・ゲル電気泳動パターン等の疫学的性状解析を行い、食中毒の原因施設特定や感染源追求のための科学的データの提供を行った。

腸内細菌担当：

三類感染症（コレラ、腸チフス、パラチフス、細菌性赤痢及び腸管出血性大腸菌感染症）の経過者・関係者検便 1,598 検体及び感染性胃腸炎集団発生時における積極的疫学調査等による検便等の検体について検査を実施した。このうち、4 検体からチフス菌が、151 検体から腸管出血性大腸菌が検出された。検出された腸管出血性大腸菌の血清型は、O157：87 株、O26：14 株、O103：17 株、O91：5 株、O128：2 株、O146：2 株、O148：1 株、O153：1 株、OUT：22 株であった。感染症発生動向調査として病原体定点医療機関から搬入された検便は 4 検体であった。菌株の同定・菌型試験、薬剤感受性試験等の疫学解析は、赤痢菌、コレラ菌、チフス菌、パラチフス A 菌及び腸管出血性大腸菌の計 393 株について実施した。

ウ 真菌研究室：

食品を対象にした試験検査では、センター広域監視部門及び都保健所の収去検体等 775 検体を対象に真菌の汚染調査を実施した。その結果、271 検体（35.0%）の検体から真菌が検出されたが、カビ毒産生菌は検出されなかった。また、都内で発生した食品苦情事例 1 事例は真菌陰性であった。動物由来感染症調査の一環として、動物取扱業者で育養されていた動物を対象に採取した被毛 74 検体の真菌検査を行った結果、皮膚糸状菌が 19 検体から検出された。さらに、都内の病院から搬入された *Cryptococcus* 属菌株について菌種同定を行ったほか、*Candida auris* 菌株の菌種同定、薬剤感受性試験及びクレード解析を行った。なお、食品等から分離された *Penicillium* 属菌を対象にプベール酸産生株のスクリーニング検査を実施したが産生菌種は分離されなかった。

エ 乳肉魚介細菌研究室：

大規模・高度製造業監視、食品流通拠点監視、輸入食品の監視指導、先行調査等で搬入され

た食品410検体について検査を実施した。その他、計画事業で都保健所より送付された75検体の検査も行った。検査対象食品は、乳、乳製品、食肉、食肉製品、魚介類、魚介類加工品、魚肉ねり製品、冷凍食品、鶏卵及びはちみつ等で、主として成分規格検査と食中毒起因菌検査を行った。また、広域監視部の衛生監視指導の一環で、拭き取り15検体についてリステリア属菌等検査を行った。

オ 培養基研究室：

上記の5研究室で試験検査に用いる約120種類の選択分離寒天培地、増菌培地及び確認培地等の調製を一括して行った。令和7年度に調製・供給した培地類は、分離用寒天平板培地：約1,500リットル（約75,000枚）、液体培地：約1,230リットル（中試験管約123,000本）、確認培地：約180リットル（小試験管約51,500本）であった。また、検査後のシャーレや試験管などの器具・器材類の滅菌と洗浄等のほか、感染性廃棄物の一括処理を担当した。

2 病原細菌研究科

(1) 科内業務の概略

当研究科では、感染症の原因となる病原微生物（細菌、寄生虫等）について、関連する試験検査と調査研究を行っている。

臨床細菌研究室では、感染症法に基づく呼吸器系感染症（ジフテリア、レジオネラ症、マイコプラズマ肺炎等）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（CRE）等の起因菌に関する試験検査・調査研究を実施している。

結核・性感染症研究室では、都の結核対策に基づく結核菌感染診断検査として、インターフェロン- γ 測定（IGRA）検査を行うと共に、結核菌の分離・同定・薬剤感受性と遺伝子型別（VNTR 検査）等の試験検査・調査研究を実施している。加えて、都の性感染症対策に基づく梅毒、淋菌感染症、性器クラミジア感染症等の試験検査・調査研究、感染症発生動向調査事業における細菌学的試験検査、及び流行予測調査事業として小児予防接種（ジフテリア、百日咳、破傷風）による抗体獲得状況を調査している。その他に狂犬病ウイルス、レプトスピラ、コリネバクテリウム・ウルセランス等を原因とする動物由来感染症の試験検査・調査研究を実施している。

寄生虫研究室では、食品衛生法に基づく寄生虫（アニサキス、粘液胞子虫、住肉胞子虫等）に関連する食中毒検査に加え、裂頭条虫や回虫などの食品媒介寄生虫卵、感染症対策に基づくマラリア、赤痢アメーバ、ジアルジア、トリコモナス等の寄生虫感染症について試験検査・調査研究を行っている。

(2) 調査研究

重点研究、課題研究として実施している主な調査研究は、以下のとおりである。

ア 東京都内における薬剤耐性菌の実態把握と分子疫学解析

2024年から2025年に当センターに搬入された *Enterococcus faecium* 9株について、NGS 解析が完了した（昨年度実施分と合わせると50株）。今年度解析した9株の ST の内訳は、ST2822 が3株、ST80と ST17が各2株、ST64と ST78が各1株検出された。ST2822、ST80、ST64は、2017年以降で一度も検出されていない ST であり、これら ST の6株は全て VanA 遺伝子を保有していた。これら ST の出現も影響し、VanA 遺伝子保有の *E. faecium* は、2019年までは2/12株（16.7%）に比べ、2020年以降は15/38株（39.5%）に増加している。各年の詳細な VanA 保有率は、2017年：33.3%（1/3株）、2018年：0%（0/3株）、2019年：16.7%（1/6株）2020年：0%（0/5株）、2021年：45.5%（5/11株）、2022年：50%（4/8株）、2023年：0%（0/4株）、2024年：33.3%（2/6株）、2025年：100%（4/4株）となっており、多少ばらつきはあるものの2020年以降は VanA 遺伝子保有率が高くなっていた。

イ 東京都内における性感染症起因菌の遺伝子解析

2018年から2022年の間にマイコプラズマ・ジェニタリウム（MG）検査陽性者から採取された都内 MSM の尿あるいは直腸スワブを対象に、nested PCR により mgpB 遺伝子を増幅し、分

子系統解析を行った。mgpB は MG において標準的に用いられる型別領域であり、231塩基のシーケンスに基づいたシーケンスタイプ (ST) が定められている。mgpB 配列を取得した115検体の ST を調べたところ、都内 MSM では ST159ならびに ST143が有力であり、いずれの系統からも23SrRNA 遺伝子におけるマクロライド耐性変異とフルオロキノロン耐性決定領域である parC における変異が検出された。

ウ 動物由来の病原細菌および薬剤耐性菌の遺伝子解析

動物由来感染症調査事業において、2025年4月から12月の期間にイヌ、及びネコから収集した *Escherichia coli* 72株の薬剤感受性試験ならびに基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ (ESBL) 産生 *E. coli* 3株の O 血清型別試験、及び ESBL 遺伝子の検出を行った。供試した *E. coli* 株の主な薬剤に対する耐性率はピペラシリン23.6%、セフトキシム8.3%、メロペネム0.0%、ゲンタマイシン5.6%、レボフロキサシン11.1%、ミノサイクリン2.8%、ホスホマイシン0.0%、ST 合剤15.3%であった。ESBL 産生 *E. coli* では O1が1株、OUT が2株認められ、ESBL 遺伝子型は CTX-M-1 group が1株、CTX-M-9 group+TEM 型が2株認められた。

エ 侵襲性感染症起因菌の型別、薬剤感受性及び遺伝子解析に関する検討

レジオネラ症集団事例の検体に対し、施設利用の有無にかかわらず同一の遺伝子型 (ST23) が検出されたことから、本事例関連患者株10株および環境由来株3株の全ゲノム SNP 解析を実施した結果、本事例株の SNP 数はすべて5SNP 以下であったことから、同一の菌による感染である可能性が高いと考えられた。また、2023年に搬入された渡航歴のある患者から分離された毒素非産生ジフテリア菌について、全ゲノム解析を実施し海外分離株と比較したところ、本株はオーストラリアで分離された毒素非産生株と近縁であることが判明し、毒素や付着等に関与する病原性遺伝子を一部欠損していることが確認された。

オ 畜水産物の喫食による健康被害のリスクがある病原寄生虫の遺伝子解析

都内で市販されているシラウオ9348尾から検出したメタセルカリア105個、線虫3個体、条虫2個体、天然アユ30尾から検出したメタセルカリア8個、サワガニ349匹から検出したメタセルカリア4個について DNA 抽出を行い、ミトコンドリア DNA *cox1*、ITS、28S rDNA 等の塩基配列を取得し遺伝子解析を行った。その結果、人体寄生性の寄生虫として、シラウオ由来メタセルカリア67個、アユ由来メタセルカリア1個が *Metagonimus miyatai* (宮田吸虫)、アユ由来メタセルカリア5個が *Metagonimus yokogawai* (横川吸虫)、サワガニ由来メタセルカリア4個が *Paragonimus westermani* (ウエステルマン肺吸虫) と同定され、これらの淡水性魚介類の加熱不十分な状態での喫食にはリスクがあると考えられた。

(3) 試験検査

ア 臨床細菌に関する試験検査

積極的疫学調査として556検体 (区依頼：6検体) (劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症などの患者由来株及び喀痰) が搬

入され、同定試験や血清型別試験、遺伝子型別検査等を実施した。感染症発生動向調査事業として病原体定点医療機関（小児科定点、ARI 定点及び基幹定点）から搬入された256検体について溶血性レンサ球菌、黄色ブドウ球菌、マイコプラズマ等の分離・同定・菌型別試験を実施した。一般行政検査では、薬事監視事業に基づく検査として、医薬品等3検体が搬入され、無菌試験および承認規格試験を実施した。一般依頼として、日本赤十字社から輸液製剤の細菌分離同定試験15件の依頼があった。

さらに、病原体レファレンス事業において34検体が搬入され、溶血性レンサ球菌や肺炎球菌、カルバペネム耐性疑い腸内細菌目細菌等の型別試験や菌株の同定検査を行った。

イ 抗酸菌感染症に関する試験検査

都の結核予防事業の一環として、臨床材料からの結核菌・抗酸菌検査を実施した。8検体の喀痰等の材料について塗抹、培養検査、結核菌群核酸同定検査を実施した。保健所から送付された結核菌264株について VNTR 型別検査を実施した。また、令和6年度から導入した VNTR 型別検査において純培養の過程を簡略化する方法を継続し実施した。これらに加え、保健所から送付された結核菌の41株について薬剤感受性検査を実施した結果、多剤耐性結核菌は8株（19.5%）であった。

結核の接触者健診に利用されている QFT 検査を、都及び特別区保健所より搬入された616検体について実施した。その結果、陽性率は5.7%であった。

ウ 百日咳・ジフテリア・破傷風の流行予測に関する試験

感染症流行予測調査事業の一環としてジフテリア、百日咳、破傷風の抗体保有状況を調査した。都内の幼児から成人までの全年齢階層を対象として、百日咳については抗百日咳毒素抗体、抗繊維状赤血球凝集抗体を、ジフテリアについては抗ジフテリア毒素中和抗体の保有状況を、破傷風については破傷風毒素抗体の保有状況を合計362検体について調べた。

エ 性感染症に関する試験検査

都及び区保健所等にて採取された検体（血液、尿）について、梅毒検査（1,598検体）、クラミジア核酸同定検査（2,186検体）、淋菌核酸同定検査（1,603検体）を実施した。また、感染症発生動向調査事業として病原体定点医療機関で採取された尿、陰部擦過物等68検体について、核酸同定検査（クラミジア、淋菌）及び細菌分離（淋菌）を行った。

オ 寄生虫に関する試験検査

食中毒事件に関連したアニサキス、粘液胞子虫など108検体の検査を実施した。また、野菜類、淡水・汽水産魚介類の寄生虫検査など合計249検体について食品媒介寄生虫症対策としての試験検査を行った。

人獣共通寄生虫症対策として、イヌ糞便51検体、ネコ糞便18検体を対象に腸管内寄生虫の感染実態調査を実施した結果、イヌ24検体（47.1%）からジアルジアが検出され、イヌ1検体（2.0%）から糞線虫が検出された。

カ 動物由来感染症に関する試験検査

積極的疫学調査として20検体（レプトスピラ症疑いの患者由来血清など）が搬入され、遺伝子検査及び抗体検査を実施した。また、動物由来感染症調査事業として、動物取扱業（販売業、展示業）調査、動物病院サンプリング調査、及び狂犬病調査を行った。動物取扱業調査において、ペットショップで販売されるイヌ、ネコの糞便70検体、及び展示施設のふれあい動物であるヒツジ、ヤギの糞便4検体について、サルモネラ属菌及び病原大腸菌の検査を実施した。動物病院を受診したイヌ、ネコの糞便から分離された大腸菌127株について、腸管出血性大腸菌の検査及び薬剤感受性試験を実施した。イヌ5頭、タヌキ2頭の脳組織について、狂犬病ウイルス検査を実施した。

3 ウイルス研究科

(1) 科内業務の概略

当研究科は2研究室で構成され、都内で発生するウイルスやリケッチアに起因する感染症を対象とした試験検査及び調査研究を行っている。主な試験検査は、感染症法に基づく積極的疫学調査、感染症発生動向調査及び感染症流行予測調査、ウイルス性食中毒関連検査、都・区からの委託事業に基づくHIV検査、東京感染症アラートに基づく緊急検査（中東呼吸器症候群：MERS及び鳥インフルエンザ等）等である。

(2) 調査研究

当科で実施している主な調査研究（重点・課題研究）は、以下の通りである。

ア 重点研究

(ア) 不明疾患の網羅的解析法の検討および大規模検査を想定したウイルス検査法の構築

パンデミック初期における検査需要の急激な拡大を想定し、多数の検体を迅速に処理可能な大規模検査系の構築について検討した。食中毒調査において搬入された検体を対象に、ノロウイルスGⅠ/GⅡ検査への適用を評価した結果、現行のリアルタイムPCR法と同等の感度を維持しつつ、検査時間の半減が可能だった。以上より、大規模検査系による多検体処理は、感染症流行初期における検査対応に有用であることが示された。

(イ) 環境水を利用したウイルスモニタリング法・遺伝子解析法の検討

都内20地点を対象に下水中のウイルス定量モニタリング及び変異サーベイランス解析を実施した。さらに、環境水を対象とした、磁気ビーズ濃縮・核酸抽出法及びデジタルPCR法による高精度な定量試験法を構築した。過去分離株（エンテロウイルス）検体を対象に、リアルタイムPCR法によるウイルス量の確認及びConventional RT-PCR法による塩基配列の取得を行った。

イ 課題研究

(ア) 感染性胃腸炎起因ウイルスに関する分子疫学解析とウイルス分離法の検討

都内で検出されたノロウイルス(NoV)の遺伝子解析を実施した。2023/24シーズンと比較して2024/25シーズンではGⅡ.4[P16]型の検出割合が大幅に減少し、GⅡ.17[P17]型のNoVが急増していた。またヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞を用いたNoV培養系により、75℃・5分以上の加熱条件でNoV増殖が抑制されることが明らかとなった。

(イ) 東京都内における急性呼吸器感染症起因ウイルスの遺伝子解析に関する研究

ヒトメタニューモウイルス(hMPV)のConventional RT-nested PCR法を新たに構築し、2025年4月7日から6月27日までに搬入されたhMPV陽性16検体の遺伝子解析を行ったところ、最も多かったのは遺伝子型B2で13検体、次いでA2b2が2検体、A2b1が1検体であり、系統樹解析では、都内で検出された株は欧米やオーストラリア、中国などで検出された株と近縁な関係を示した。

(ウ) 東京都内におけるウイルス性発疹症の分子疫学解析・動向把握に関する検討

2023年以降に検出された水痘・帯状疱疹ウイルスについて SNP 解析を実施したところ、過去見られなかった遺伝子型を検出した。全長解析では、SNP 解析の判定と異なり判定不能となる株を検出した。また、エムボックスウイルスの全長解析を実施し、2025年検出株はこれまでの検出株と遺伝的距離が離れたものであることを確認した。

(エ) 都内つつが虫病原体の分子疫学解析とダニ媒介性感染症の起因検査系の整備に関する検討

都内生息マダニにおいて、オズウイルス、エゾウイルス、SFTS ウイルス、紅斑熱群・発疹熱群リケッチア、及びボレリア属病原体について保有状況を調査した。その結果、一部のマダニから現在病原性は明らかとなっていない紅斑熱群リケッチアの遺伝子が検出されたものの、いずれの病原体遺伝子も検出されなかった。

ウ 基盤研究

(ア) 薬剤耐性変異を持つウイルスの遺伝子解析と疫学調査に関する研究

都内の公的検査機関で採取された HIV-1 陽性検体を用いて遺伝子解析を行った結果、逆転写酵素領域に薬剤耐性変異 (T215E) を有する株が 1 件、プロテアーゼ領域に薬剤耐性変異 (E138G) を有する株が 1 件検出された。

また、国際データベース (GISAID) を活用して東京都内で検出された新型コロナウイルスの全ゲノム配列データを解析した結果、2025 年に都内で流行した NB. 1. 8. 1 系統では、3CLpro 阻害薬 (エンシトレルビル) に対する感受性低下が懸念される G671S 変異を有する株の流行が認められた。

(イ) ウイルス性感染症の簡易検査法の評価に関する研究

2025 年度に分離されたインフルエンザウイルス A 型および新型コロナウイルスの変異株について、それぞれ 3 種類の抗原定性キットによる検出感度について検討を行った。インフルエンザ A 型 H3 亜株については、サブクレード K 系統分離株を、新型コロナウイルスについては XEC、NB. 1. 8. 1、XFG 分離株を使用した。その結果、いずれのウイルスについても、すべての検査キットにおいて従来株との感度差は認められず、臨床現場における有効性が確認された。

(3) 試験検査

ア 食中毒疑いの胃腸炎起因ウイルス検査

食中毒関連調査 (有症苦情を含む) 353 事例、4, 311 検体について胃腸炎起因ウイルスの検索を行い、181 事例 (51. 3%)、1, 067 検体 (24. 8%) から胃腸炎起因ウイルスを検出した。その内訳はノロウイルス (NoV) G I が 7 事例、NoV G II が 166 事例、A 群ロタウイルスが 2 事例、複数ウイルスの混合感染が 6 事例であった。ノロウイルスの遺伝子解析依頼があった 25 事例の遺伝子型は、G I . 1、G I . 3、G II . 3、G II . 7 が各 1 事例、G II . 4 が 2 事

例、GⅡ.17が17事例であり、これら23事例では患者と調理従事者等から検出されたウイルスの遺伝子型が一致した。また、2事例では患者および調理従事者から検出された遺伝子型が複数混在した。

イ 積極的疫学調査

感染症法による積極的疫学調査として患者や関係者の臨床検体（咽頭拭い液、糞便等）についてウイルス検査を実施した。

(ア) インフルエンザ検査

集団発生事例への対応として、クラスタ（集団発生）サーベイランス及び依頼検査として搬入された7件の患者検体について遺伝子検査を行った。その結果、インフルエンザウイルスAH3亜型が6件検出された。これらの結果は、東京都感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（K-net）により直ちに感染症対策課及び当該保健所へ報告した。

(イ) 感染性胃腸炎集団発生のウイルス検査

保育園や学校等における胃腸炎集団発生4事例（24検体）の検査では、3事例（75.0%）、12検体（50.0%）から胃腸炎起因ウイルスを検出した。遺伝子型の内訳は、3事例全てがNoV GⅡであった。

(ウ) 麻しん及び風しんを疑う患者のウイルス検査

麻しん、風しんを疑う患者から採取された528検体を対象に遺伝子検査を実施した。99検体から麻しんウイルスが検出され、風しんウイルスは検出されなかった。

(エ) 蚊媒介感染症患者のウイルス検査

デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、ウエストナイル熱を疑う患者から採取された53検体について遺伝子検査を行った。27検体からデングウイルスが検出された。遺伝子型はそれぞれ1型が6検体、2型が13検体、3型が6検体、4型が1検体、型別不能が1検体であった。また、1検体からチクングニアウイルスを検出した。

(オ) A型肝炎ウイルス検査

医療機関においてA型肝炎と診断された患者から採取された20検体について検査を実施した。19検体からA型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型はそれぞれⅠA型が14検体、ⅠB型が3検体、ⅢA型が2検体であった。

(カ) E型肝炎ウイルス検査

医療機関でE型肝炎と診断された患者から採取された117検体について検査を実施した。68検体からE型肝炎ウイルスが検出され、遺伝子型は3型が67検体、4型が1検体であった。

(キ) エムボックスウイルス検査

医療機関でエムボックスを疑う患者から採取された142検体について遺伝子検査を行い、87検体からエムボックスウイルスが検出された。そのうちクレードⅡが86検体、型別不能が1検体であった。

ウ 感染症発生動向調査事業

小児科、眼科、性感染症、急性呼吸器感染症(ARI)、基幹病原体定点より 3,306 検体（咽頭拭い液、糞便等）が搬入され、2,457 検体でインフルエンザウイルス、エンテロウイルス、ノロウイルス等のウイルス遺伝子が検出された。ウイルス分離試験では、インフルエンザウイルス、エンテロウイルス等が 953 株分離された。また、新型コロナウイルス陽性検体のうち 226 検体についてゲノム解析を行った。

エ 感染症流行予測調査事業

感染症の流行を予測することを目的として感受性調査を実施している。令和 7 年度は、0 歳から 70 歳までの健康な都民の血清 359 検体を対象に、以下の疾患に対する抗体調査を実施した。

(ア) 日本脳炎

日本脳炎ウイルスに対する中和抗体保有率（10倍以上）は、65.7%であった。抗体保有者の平均抗体価を算出すると、中和抗体価は143.9倍であった。

(イ) ポリオ

ポリオウイルス 1 及び 3 型に対する中和抗体価を測定した。中和抗体保有率（4 倍以上）は 1 型 96.7%、3 型 94.8%であり、その平均抗体価は各々 70.1 倍、30.3 倍であった。

(ウ) インフルエンザ

HI 試験による 40 倍以上の抗体保有率は、A（H1N1）型（A/Victoria/4897/2022）株抗原に対し 18.4%、A（H3N2）型（A/Perth/722/2024）株抗原に対し 13.9%、B 型山形系統（B/Phuket/3073/2013）株抗原に対し 20.9%、B 型ビクトリア系統（B/Austria/1359417/2021）株抗原に対し 11.4%であった。なお、山形系統は 2025/2026 シーズンのワクチン株には含まれていないため、当該結果は参考として扱う。

(エ) 麻しん及び風しん

麻しんウイルスに対する抗体価を EIA 法により測定し、風しんウイルスに対する抗体価を HI 法により測定した。麻しんウイルス抗体保有率（4.0 EIA 価以上）は 89.7%、風しんウイルス抗体保有率（8 倍以上）は 95.8%であった。

(オ) ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症

20 歳以上の男女の血清 187 件を対象とし、HPV に対する ELISA 法抗体価を測定した。HPV 抗体陽性（4.0 IU/mL 以上）は 32.6%であった。

(カ) 水痘

水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）に対する EIA 抗体価を測定した結果、VZV 抗体陽性（4.0 EIA 価以上）は 73.8%であった。

(キ) B 型肝炎

B 型肝炎ウイルス表面抗体（HBs 抗体）価を EIA 法により測定した結果、HBs 抗体陽性（10 mIU/mL 以上）は 47.1%であった。

(ク) ポリオ感染源調査（環境水調査）

病原体の潜伏状況及び潜在流行の把握を目的としてポリオ感染源調査を実施した。都内の下水処理場の放流水及び流入水について、令和7年4月から令和8年3月の期間においてポリオウイルス検査を実施した。毎月各1検体を検査した結果、全て陰性であった。

(ケ) 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスオミクロン株 JN.1 に対する中和抗体価を測定した結果、93.6%が5倍以上の抗体を保有していた。

(コ) 日本脳炎感染源調査（ブタ血清調査）

令和7年7月及び9月に東京都産のブタから血清を採取し、抗体価を測定した結果、7月の14検体の抗体陽性率は0%、9月の14検体の抗体陽性率は14.3%であった。

(サ) 新型コロナウイルス感染源調査（環境水調査）

都内の下水処理場の流入水について、令和7年4月から令和8年3月の期間において新型コロナウイルス遺伝子試験を実施した。毎週各1検体を検査した結果、全ての検体において新型コロナウイルス遺伝子が検出された。

オ HIV・エイズ検査

都及び区保健所等より搬入された血液1,658件について HIV 検査を実施した。スクリーニング検査検体18件について確認検査（確認 IC 法・NAT 法）を実施し、17件の陽性が確認された。

カ 感染症媒介蚊サーベイランス

(ア) 広域サーベイランス

6月から10月まで、都内16施設において捕集された蚊について、デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルスの遺伝子検査を各273件、ウエストナイルウイルスの遺伝子検査を488件、計1,307件実施した。結果はすべて陰性であった。

(イ) 重点サーベイランス

4月上旬から11月上旬まで、都内9か所の公園50地点において捕集された蚊の幼虫及びヒトスジシマカ群等の媒介蚊の成虫について、デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルスの遺伝子検査を各664件、計1,992件実施した。結果はすべて陰性であった。

キ 東京感染症アラート検査

本年度、MERS疑いや鳥インフルエンザ疑いの緊急検査依頼はなかった。

ク 新型コロナウイルス検査

都内下水処理施設（20ヶ所）の流入下水を用いてSARS-CoV-2遺伝子検査を実施した。

Ⅱ 食品化学部

1 食品成分研究科

(1) 科内業務の概略

都内に流通する食品の安全性と都民の食に対する安心を確保するため、当研究科は各種食品（清涼飲料水、乳・乳製品等）の成分規格、有害成分、カビ毒、放射性物質、遺伝子組換え食品、栄養成分及びアレルゲンについて、食品衛生法、食品表示法又は健康増進法に基づいた試験検査及びそれらに関する調査研究を行っている。また、水銀・カドミウム等重金属の有害化学物質による食品の汚染実態調査を実施している。加えて、都内で発生する化学物質及び自然毒による食中毒の原因物質解明や、都民から寄せられる異物等の食品苦情についても対応している。

(2) 調査研究

ア マリントキシンの高感度機器分析法に関する研究

シガトキシン CTX1B 及び CTX3C について、昨年度検討した分析条件にて添加回収試験を実施したが、既存の前処理法では測定不能であった。そのため、前処理方法を中心に検討を行ったところ、夾雑物の影響を受けずに中毒量を検出できる感度で測定が可能となった。また、研究内容を活用し実際のシガテラ疑いの検体に対応した。

イ 食用昆虫における栄養成分分析法の開発

昨年度検討したアミノ酸分析法について、昆虫に多く含まれるキチン・キトサン由来物質の影響がないことを確認した。その後、コオロギの各アミノ酸を測定し、アミノ酸組成によるたんぱく質量を求めた。また、ケルダール法を用いてコオロギの総窒素量を測定し、求めたたんぱく質量と総窒素量から、コオロギにおける窒素-たんぱく質換算係数を算出した。

ウ 食物アレルギーにおける食用昆虫の検査法に関する研究

食用コオロギ由来成分を対象に、質量分析法及び遺伝子検査法を用い、タンパク質及びDNAをそれぞれ指標とする検査法を検討した。その結果、両手法の併用により偽陽性の低減に寄与する可能性が示唆された。さらに、昆虫食製品の大豆アレルゲン検査を実施し、混入リスクを明らかにした。

エ 食用昆虫に含まれる重金属等に関する調査研究

確立した試験法を用い、市場に流通する昆虫食の重金属含有実態調査を実施することで11種類の重金属元素の測定結果を示した。加えて、実態調査の結果から特にコオロギ製品間の総水銀濃度のばらつきに注目し、餌とコオロギの総水銀濃度の関係について生体内蓄積調査も実施した。

オ キノコ由来自然毒食中毒の最適な検査体制の確立に関する研究

食中毒事例の多いものを中心に、10種類のキノコ毒成分（イルジンS、ムスカリン、イボテン酸、ムシモール、アリルグリシン、プロパルギルグリシン、 α -アマニチン、 β -ア

マニチン、ファロイジン、サトラトキシニン H) について、LC-MS/MS 分析におけるカラム及び移動相等の各種条件を検討した。その結果、分析法の選択性及び測定感度が向上し、子実体への適用が可能であることを確認した。

カ 食事由来の化学物質ばく露量推計調査

健康安全部からの依頼で、マーケットバスケット方式により総水銀、メチル水銀、カドミウム、鉛及び放射性物質 4 核種（ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137、カリウム 40）を測定した。

キ 健康食品に係る安全確保事業

食品監視課からの依頼で、発酵や濃縮工程のある健康食品 20 検体について、総水銀、カドミウム、ヒ素及び鉛を検査した。また、そのうち 5 検体については、アフラトキシン B₁、アフラトキシン B₂、アフラトキシン G₁ 及びアフラトキシン G₂ を検査した。

(3) 試験検査

令和 7 年度の試験検査件数は総計 15,367 件で、食品に表示されている栄養成分、遺伝子組換え食品、カビ毒等の有害物質、放射性物質、食品中のアレルゲン、水銀、カドミウム等重金属、各種食品の成分規格試験等、多岐に渡る試験検査を実施した。また、化学物質及び自然毒による食中毒や異物をはじめとする食品苦情等の依頼検体についても対応した。

ア 食品表示法及び健康増進法に基づく食品の栄養成分検査

小売り店舗から収去した 50 検体について、たんぱく質、脂質、ミネラル、ビタミン等 463 項目の栄養成分検査を行った結果、4 検体が許容差の範囲から外れて要調査となった。内訳は、清涼飲料水 希釈用（ナトリウム）、清涼飲料水（カリウム）、食塩（炭水化物）、清涼飲料水（ナトリウム）であった。

イ 遺伝子組換え食品の検査

当センター広域監視部、多摩地区保健所及び市場衛生検査所より搬入された大豆穀粒、大豆加工品、トウモロコシ加工品、コメ加工品、さけ加工品及びパパイヤ等、計 99 検体について組換え遺伝子の検査を行ったところ、違反はなかった。

ウ カビ毒及び有害化学物質の検査

都内で製造された食品及び流通食品についてカビ毒の検査を行った。乳、果実加工品及び穀類加工品 44 検体について、食品に対する基準値があるアフラトキシン、パツリン及びデオキシニバレノールを検査し、いずれも検出しなかった。基準値のないカビ毒のうち、オクラトキシンを酒類 19 検体について検査し、1 検体から検出した。

食品中の有害化学物質では、酒類 32 検体についてカルバミン酸エチルを検査したところ、4 検体から検出した。

エ 食品中の放射性物質検査

都内流通食品の放射性物質検査では、福島第一原子力発電所事故及び旧ソ連原子力発電所事故による放射性物質の食品汚染対策として、ヨウ素 131、セシウム 134 及びセシウム

137 について、ヨウ化ナトリウム(タリウム)シンチレーションスペクトロメータによるスクリーニング検査及びゲルマニウム半導体核種分析装置による確定検査を実施した。国産品 800 検体及び輸入品 70 検体でいずれも基準値を超えたものはなかった。

オ アレルゲンを含む食品の検査

都内流通食品 39 検体について、牛乳、小麦、卵、そば及びくるみのいずれか 1 品目または 2 品目を対象とした特定原材料検査を実施したところ、全て陰性であった。

カ 食品中の重金属検査

魚介類及びその加工品 36 検体について総水銀及びメチル水銀を検査した結果、食品衛生法における規制値を超えるものはなかった。また、都内搬入米のカドミウムによる汚染調査として、国内産玄米 135 検体を検査したところ、食品衛生法における基準値を超えるものはなかった。

キ 化学物質及び自然毒による食中毒事例

10 件の化学物質及び自然毒による食中毒疑い事例(有症苦情含む)について検査を行った。内容はヒスタミンに関するものが 6 件、ふぐ毒に関するものが 1 件、スイセンに関するものが 1 件、バイケイソウに関するものが 1 件、シガテラに関するものが 1 件であった。そのうち、ぶり大根、いわしのつみれ汁及び鯖の味噌煮からヒスタミンを検出した。また、スイセンではリコリンを検出した。

ク 食品苦情への対応

5 件の食品苦情について検査を行った。苦情内容は異物混入に関するものが 4 件、異臭に関するものが 1 件であった。

(4) 精度管理

令和 7 年度外部精度管理調査に参加した。プロテインバー中の栄養成分(熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、水分、灰分、ナトリウム、食塩相当量、食物繊維)、遺伝子組換え食品(遺伝子組換え小麦)、特定原材料(乳、卵)及び玄米(粉末)中カドミウムについて実施し、いずれも良好な結果を得た。

2 食品添加物研究科

(1) 科内業務の概略

都民の食の安全・安心を確保するため、食品衛生法に基づき、食品中の食品添加物試験、輸入かんきつ類の防かび剤試験、パン・菓子類の膨張剤試験、食品添加物の品質規格試験及び食品用器具・容器包装・おもちゃの規格試験等を行っている。いずれの試験検査も GLP（食品検査における適正業務管理）の基準に従い実施し、検査の信頼性を担保している。特に、令和6年3月に通知された「食品中の食品添加物分析法の妥当性確認ガイドライン」（ガイドライン）に則り、主要な検査項目及び違反事例に関する検査項目の分析法について、妥当性確認を実施している。また食品用器具・容器包装においてもポジティブリスト制の完全施行等の法改正に適切に対応している。

調査研究業務についても積極的に推進している。食品中の食品添加物の試験法開発、輸入食品中の指定外添加物の試験法開発、規格基準に係る基礎的な調査研究、社会のニーズに沿った食品用器具・容器包装に関する調査といった幅広い課題に取り組んでいる。

(2) 調査研究

ア 食品中の食品添加物検査方法の性能評価-1（甘味料）

使用基準の設定されている3種の甘味料の各分析法について、ガイドラインに基づき性能評価（2名、2併行、3日間）を実施した。対象食品は検査実績及び食品特性を踏まえて選定した5種類の食品とし、分析法は当科で開発した日常分析法及び国から示された通知法とし、添加濃度は定量限界及び使用基準とした。さらに、各分析法について異なる機器、機種又は測定条件を設けてデータを採取した。その結果、真度73～119%、併行精度0.2～9%、室内精度0.7～13%であり、いずれの食品、分析法及び測定条件においてもガイドラインの基準に適合した。これにより、複数の分析法及び測定条件において、一貫した性能が確認され、多様な検査条件下における柔軟な検査体制を構築した。最終年度は、対象とする甘味料の種類を拡張して性能評価を実施する。

イ 食品中の食品添加物検査方法の性能評価-2（保存料）

昨年度報告した9種保存料を対象とする開発法について、検査実績及び食品特性を踏まえて選定した10種類の食品を用い、ガイドラインに基づき性能評価（2名、2併行、3日間）を実施した。その結果、真度、併行精度及び室内精度はいずれも基準に適合し、本法が幅広い食品に適用可能であることを示した。さらに、天然由来の安息香酸を含有する食品については、定量値補正を考慮した性能評価手法を検討し、ガイドラインの基準に適合する結果を得た。これにより、対象物質が元来含まれる食品における性能評価の実施のための有用な知見を取得した。最終年度は、行政検査への導入に向けて対象食品の追加による評価の拡充に加え、現行法との同等性確認を実施する。

ウ 銅クロロフィル及び銅クロロフィリンナトリウムの新規試験法開発

現在の分析法では、抽出・液液分配・灰化等の工程が煩雑で時間を要し、確認法がない等

の課題があり、LC-MS/MS を用いた試験法の開発に取り組んだ。昨年度に測定対象として決定した Cu Pyropheophytin a 及び Cu Chlorin e4 について、本年度は山菜水煮に添加し、簡便な前処理法の構築と測定時における試験溶液中の妨害物質等による影響を検証した。抽出法は QuEChERS 法をベースに、5 % ギ酸を加えて酸性条件で行い、塩化ナトリウム 2 g を加えて 2 回抽出することで十分な回収率が得られた。さらに HLB カラムによる固相精製を行い、マトリックスによる影響を大きく低減した。回収率は Cu Pyropheophytin a 86%、Cu Chlorin e4 99% であり、精度も良好であった。本法により、有機溶媒量の削減と時間短縮、操作性向上が図られ、実用性の高い分析法であることを確認した。最終年度は、対象食品をさらに拡大し、市販食品を用いた実態調査を行う。

エ 多様な素材からなる食品用器具・容器包装の溶出物に関する検討

金属類（カドミウム、鉛等、全10元素）について、添加回収試験を実施した。合成樹脂塗装された木製スプーンの水及び 4 % 酢酸溶出液を、誘導結合プラズマ発光分光装置を用いて昨年度に最適化した条件で分析した。その結果、良好な回収率が得られ、分析法の性能が担保されることを確認した。有機物については、メラミン樹脂に竹粉を混合したバンブーメラミン製食器から溶出されるメラミン及びホルムアルデヒドの HPLC 分析法を検討した。当該品の繰り返し使用時には、わずかではあるが持続的な溶出が認められることを確認した。無塗装及び個別規格のない合成樹脂で塗装された木製・竹製の調理器具については、総溶出物試験を実施し溶出傾向に関する基礎データを収集した。最終年度は、対象とする食品用器具・容器包装をさらに拡大し、金属類の溶出について市販品を用いた実態調査を行う。

オ 市販食用タール色素と食品添加物公定書標準品の同等性についての検討

食品中の食品添加物分析法における食用タール色素分析法は、TLC による定性試験法であり、「食品添加物公定書標準品」を標準品と規定している。一方、公定書標準品以外の市販食用色素も同等であれば使用可能とされているが、その判断基準は明確ではない。そこで、市販品が標準品として同等に使用可能かを確認するため、令和 6 年度に 2 社製品を検討し、令和 7 年度はさらに 1 社の製品を追加して、計 3 社の製品について TLC 及び HPLC 測定による基礎データを収集した。TLC パターンを比較した結果、主スポットの Rf 値と濃さは同程度であり、入手した計 36 製品（12 色 × 3 社）は、15 か月間、TLC を用いた定性試験に安定して使用できることが示された。最終年度は、標準溶液の保存性や副成色素等の評価を含め、総合的な判断を行う。

カ 輸入食品対策に係る試験法開発

輸入食品対策事業の一環として、次の 2 項目について分析法を改良した。パラレッドについては、固相抽出を用いない簡便な分析法とした。さらに、通知法及び開発法について、香辛料、菓子及びソースの 3 食品を対象にガイドラインに基づき性能評価（1 名、2 併行、5 日間）を実施し、真度、併行精度及び室内精度がいずれも基準に適合することを確認した。

パラオキシ安息香酸ヘプチルについては、透析法を用いた抽出精製法及び HPLC による定

量法について各条件の検討を行った。この分析法について果汁飲料、麦芽発酵飲料の2食品を対象にガイドラインに基づき性能評価（1名、2併行、5日間）を実施し、真度、併行精度及び室内精度がいずれも基準に適合することを確認した。また、LC-MS/MSによる確認法も構築した。

(3) 試験検査

令和7年度の試験検査件数は19,705件であり、その内訳は食品中の食品添加物試験19,171件、輸入果実中の防かび剤試験273件、食品添加物の品質規格試験45件及び食品用器具・容器包装・おもちゃの規格試験216件であった。

これらの検査は、広域監視部食品監視第一課及び第二課、多摩地区及び区保健所からの依頼に基づき実施した。

(4) 精度管理

GLPに基づき、日常検査の信頼性確保のため、実施要領に則って内部精度管理試験を実施した。また、食品衛生外部精度管理調査に参加し、着色料及びソルビン酸について実施した。

(5) 特記事項

ア 食品中の食品添加物の試験検査における違反事例

トルコ産のオリーブ水煮缶詰から使用が認められていない安息香酸とソルビン酸を、パキスタン産のクッキーから指定外添加物 *tert*-ブチルヒドロキノンを検出した。また、国産のポークソーセージ、韓国産のマッコリ及び中国産の冷凍カットたこから、表示にない添加物として、それぞれソルビン酸、スクラロース及びエリソルビン酸を検出した。

イ 食品用容器包装における苦情事例

容器包装3検体について、苦情内容を踏まえてピンホールの有無を確認した。ピンホール試験を実施した結果、いずれの検体においても、ピンホールは認められなかった。

3 残留物質研究科

(1) 科内業務の概略

残留物質研究科は、輸入青果物、冷凍野菜・果実、農産加工食品中の残留農薬及び乳、食肉、魚介類等の畜水産食品中の残留動物用医薬品、残留農薬、残留有害化学物質（ポリ塩化ビフェニル(PCB)、有機スズ化合物（TBT0 及び TPT）等）の試験検査を実施している。また、これら食品の安全性確保と都民の健康被害の未然防止あるいは食生活の安全性評価に関する情報提供を目的とし、調査研究として、様々な残留物質を対象とした試験法開発・改良及びその信頼性確保の検証、「食品からの農薬、ダイオキシン類の一日摂取量調査」等を進めている。

(2) 調査研究

ア 食品中の残留農薬に関する研究

(ア) 食品中の残留農薬試験法

農産物中の残留農薬検査の分析方法を、玄米を対象として一部改良した。農薬抽出時に添加する塩化ナトリウムの量を増量し、精製時に使用する固相抽出カラムの充てん剤をグラファイトカーボン及びアミノプロピルの二層とすることで一部の農薬の回収率が改善した。この改良法で、2 台の測定条件の異なる LC-MS/MS 及び GC-MS/MS で妥当性評価を実施し、標準作業書を新たに作成した上で令和 7 年度の重金属汚染米調査の残留農薬検査を実施した。

(イ) 輸入農産物中の農薬残留実態

野菜、果実、穀類、豆類等農産物及びその加工品等 85 種 404 検体について調査した。

有機リン系、カルバメート系、ネオニコチノイド系及び防カビ剤他、31 種類の農薬を 28 種 104 検体から 0.01～1.1 ppm 検出した。そのうち以下の 3 検体が基準値を超過した。

メキシコ産アボカドからピラクロストロビンが一律基準 0.01 ppm を超過して 0.02 ppm、ウズベキスタン産緑豆からシプロコナゾールが一律基準 0.01 ppm を超過して 0.04 ppm、中国産にんじんからクロチアニジンが残留基準 0.2 ppm を超過して 0.29 ppm 検出した。それ以外はいずれも食品衛生法の残留基準値以下であった。

(ロ) 国内産野菜及び果実中の農薬残留実態

野菜及び果実 32 種 80 検体を調査し、ネオニコチノイド系及びピレスロイド系他、農薬 16 種類を 11 種 18 検体から 0.01～0.17 ppm 検出した。いずれも食品衛生法の残留基準値以下であった。

(ハ) ベビーフード中の農薬残留実態

輸入品 5 検体及び国産品 20 検体について、有機リン系、含窒素系及びカルバメート系等約 40 種類の農薬を調査した。いずれも定量下限値以下であった。

(ニ) 都内流通米中の農薬残留実態

国内産玄米 19 検体について 50 種類の農薬を調査し、含窒素系農薬及び臭素の 8 種類を 11 検体から 0.01～1 ppm 検出した。いずれも食品衛生法の残留基準値以下であった。

(カ) 畜水産食品中の農薬残留実態

輸入及び国内産の畜水産食品 158 検体（牛肉、豚肉、鶏肉等の食肉 96 検体、生乳等 16 検体、鶏卵 25 検体、魚介類及びその加工品等 21 検体）について、有機塩素系化合物等（BHC、DDT、アルドリノ及びディルドリン、クロルデン、ヘキサクロロベンゼン、ヘプタクロル、エンドリン、クロルピリホス）の残留調査を実施した。その結果、いずれからとも検出されなかった。

イ 食品中の残留有害化学物質に関する研究

(ア) 食品中の汚染実態調査

PCB、TBT0 及び TPT の汚染実態調査を実施した。PCB は魚介類、食肉等 352 検体を、TBT0 及び TPT は魚介類 24 検体を調査したところ、規制値等を超える値を検出しなかった。

魚介類 164 検体のうち 40 検体について、ドリノ類 3 種類及びクロルデン類 5 種類の農薬を調査したところ、*t*-ノナクロルを 1 検体から 0.002 ppm 検出したが、食品衛生法の一斉基準値 0.01 ppm を参考にしても低い値であった。

(イ) 東京湾産魚介類汚染調査

東京湾で採取したホンビノスガイ、ボラ、スズキ、マアナゴ及びマゴチの計 38 検体について PCB 及び TBT0 及び TPT の汚染状況調査を実施したところ、規制値等を超える値を検出しなかった。

(ウ) 食事由来の化学物質ばく露量推計調査

マーケットバスケット方式による都民の食事を介した PCB 及び農薬の一日摂取量を調査したところ、PCB は 0.014 µg/kg 体重/日、農薬は 0.012~0.078 µg/kg 体重/日であり、いずれの摂取量も一日摂取許容量等を下回っていた。

ウ 畜水産食品中の残留動物用医薬品に関する研究

(ア) 畜水産食品中に残留する動物用医薬品の試験法

国際整合性の確保に伴い動物用医薬品の規制で新たな対象薬剤の設定、基準値の変更等が実施されている。さらに、ワンヘルスアプローチに基づく薬剤耐性菌対策として抗生物質等の検査が必須である。そこで、効率的な分析法が少ないアミノグリコシド系抗生物質について新規試験法の開発を行い、食肉で一斉分析が可能な前処理法を確立した。また、薬剤耐性菌の最後の砦とされる抗生物質のコリスチンについて、乳、牛、豚肉で妥当性確認を行うとともに、実態調査を実施したところ検出されなかった。

(イ) 畜水産食品中の動物用医薬品の残留実態

輸入及び国産の食肉、魚介類、鶏卵、はちみつ及び乳類等 199 検体について抗生物質、合成抗菌剤及び寄生虫駆除剤等、計 7,339 検査項目の検査を実施した。国産鶏肉 3 検体からラサロシド 0.002~0.023 ppm、ブラジル産鶏肉 1 検体からナイカルバジン 0.01 ppm をそれぞれ検出した。さらに、国産豚肉 1 検体からドキシサイクリン 0.01 ppm を検出した。また、国産はちみつ 7 検体からアミトラズ 0.01~0.13 ppm をそれぞれ検出した。こ

れらはいずれも食品衛生法の残留基準値以下であった。

エ 水産食品におけるハザードの新規試験法に関する研究

近年、世界的な人口増加や経済発展に伴う新興国での食文化の変化により、タンパク質の供給が不足し、国際的な問題となっている。そのため、持続可能なタンパク源として養殖魚介類が注目されており、流通のグローバル化や流通量の増加が予想されている。そこで、魚介類に関する危害要因（ハザード）の実態を解明するための新規試験法の開発と実態調査に取り組んでいる。

酸化防止剤に関する研究では、前処理法を検討し、高感度かつ夾雑成分の影響を低減可能な試験法を確立した。有機汚染物質に関する研究では、養殖魚介類のPCB、TBT0 及び TPT の実態調査を実施した。水産用医薬品に関する研究では、色素系殺菌剤に関して3種類の魚介類で分析可能な前処理法を確立した。

オ 輸入食品対策に係わる試験法開発

輸入食品対策事業の一環として、農産物中のピリメタニル、クロラントラニリプロール、デルタメトリン試験法及び畜水産食品中のスルファジアジンについて試験法を開発した。

カ 消費者庁残留農薬等試験法開発事業に係わる試験法開発

畜産物中のクロルピリホスについて告示分析法を検討した。試料からアセトンで抽出し、ケイソウ土カラムでの脱脂及び GC/PSA ミニカラムでの精製後、LC-MS/MS で測定する方法を確立した。開発した試験法を6食品（牛の筋肉、牛の脂肪、牛の肝臓、牛乳、鶏卵及びさけ）に適用した結果、0.001 mg/kg 添加で真度 81~111%、併行精度は5~20%の良好な結果が得られた。

(3) 試験検査

令和7年度の試験検査総件数は88,209件で、広域監視部食品監視第一課及び第二課から送付された検体の他、食品監視課、環境保健衛生課、市場衛生検査所、都保健所依頼の検体について実施した。

(4) 精度管理

GLPに基づき、日常検査の信頼性確保のため、実施要領に則って内部精度管理試験を実施した。また、令和7年度食品衛生外部精度管理調査に参加し、残留農薬検査ではクロルピリホス及びフェニトロチオンについて精度管理試験を実施し、当該項目について評価基準を満たさず、不適との判定を受けた。後日試験試料を購入し再試験を行った結果は良好だった。不適となった要因は、試験期間前及び期間中の緊急検体検査の汚れの蓄積による装置の不調と考えられた。

動物用医薬品検査ではスルファジミジンについて精度管理を実施し、良好な結果を得た。

ISO/IEC17025に基づく業務管理要領改定を見据えて、国際整合性を踏まえた試験検査体制の構築を図った。科内勉強会やオンデマンド教材等を活用し、試験・校正プロセスの管理、実施についての関連知識の定着と確実な実践を促した。また、計量トレーサビリティとして天秤及びピペットの校正、日常検査における管理図を用いた内部品質管理に科員全員で取り組んだ。

さらに、検査の基となる標準作業手順書等について、新たに作成した要領を基に、改定・作成を進め、より信頼性の確保された文書管理の整備を進めた。また、化合物の同定、定量の指標である標準品についても新要領を基に、適切な管理、違反時の対応等を図り、検査の信頼性を高める取り組みを進めた。妥当性評価試験実施方法に関して科内共通の標準作業書を新たに作成し、妥当性評価試験の着実な実施に取り組んだ。

Ⅲ 薬事環境科学部

1 医薬品研究科

(1) 科内業務の概略

医薬品及び医薬品原料、生薬、無承認無許可医薬品（医薬品成分を含有する健康食品、危険ドラッグ等）、大麻草由来製品（CBD製品）、化粧品、医薬部外品、医療機器、家庭用品並びに毒物劇物に関して、調査研究並びに保健医療局の薬事衛生関連の指導取締り業務に必要な理化学試験及び植物鑑別試験を行っている。また、後発医薬品の品質確保のための基礎資料となる溶出試験、法定受託事務である医薬品、医薬部外品の製造販売承認に伴う規格及び試験方法の審査、医薬品等製造業者に対する製造及び品質管理に関わる技術的な助言や製品の試験検査等を行っている。

なお、薬用植物園は、医薬品研究科に所属し、大麻・ケシのほか、健康食品及び危険ドラッグに含有される植物について、鑑別試験を担当しているが、独自の事業を展開しているため、当該独自部分について別項において述べる。

(2) 調査研究

令和6年度から開始した重点研究1題、基盤研究1題の成果は、以下のとおりである。

ア 重点研究：不正薬物の化学分析法及び生体影響試験法に関する研究

(ア) 大麻由来製品中の麻薬成分の分析法に関する研究

大麻草由来製品（カンナビジオール（CBD）製品）中に微量に残留する麻薬成分分析法について、妥当性確認及び製品区分判定のための試験法の検討を行った。

(イ) 大麻草の成長過程におけるカンナビノイド類の含有量の変化等に関する研究

大麻草の基礎的調査として、HPLC/MS/MS分析法を用いて採取時期及び部位並びに年次差による含有量の変動について比較検討を行った。あわせて、成分の安定性を評価し、適切な保存条件について検討した。

(ウ) 危険ドラッグに含有される薬物の異性体識別に関する研究

超臨界流体クロマトグラフ（SFC）を用い、第一種向精神薬 phenmetrazine の構造類似体である 3-chlorophenmetrazine（3-CPM）のキラル分析法を確立した。

イ 基盤研究：家庭用品にかかわる試験法の改良等に関する研究

家庭用品規制法に規定されている有機水銀化合物の試験法について、実験者の安全性に配慮した抽出溶媒への変更を検討した。塩酸溶液との分配時に試料を吸引ろ過することで、回収率が向上し、抽出操作の有効性を確認することができた。

(3) 試験検査

令和7年度は、薬用植物園の担当分も含め、17,963件の試験検査を行った。

ア 医薬品等一斉監視指導において、薬局及び医薬品販売業等への立入検査に伴い収去された一般用医薬品、医療用医薬品及び配置薬59検体について、製造販売承認書等に準じ試験を行った。

- イ 化粧品及び医薬部外品の試験検査では、歯みがき、クリーム、ファンデーション、化粧水、乳液、頬紅、石鹸、エナメルリムーバー、シャンプー、トリートメント、整髪剤、洗顔料、浴用剤、染毛剤、てんか粉類及び制汗剤、116検体について、化粧品基準や承認規格に基づき試験を行った。
- ウ 危険ドラッグ対策事業に伴い、ケミカル系及び植物系危険ドラッグ99検体について、成分検査を行った結果、23検体から医薬品医療機器等法指定薬物3種（Etomidate、4-OH DET、1S-LSD）を、1製品からタダラフィルを検出した。そのほか、新規検出薬物8種（1Bz-LSD、4F-4-MAR、4HO-McPT、Isopropoxate、2me-PiHP、NBoc-DMT、1SB-LSD、1T-AL-LAD）を検出した。
- エ 健康食品対策事業において、健康食品72検体の成分検査を行った。その結果、3製品からシルデナフィルを、1製品からタダラフィルを、1製品からシルデナフィル、タダラフィル及びジクロフェナクを、1製品からウィザフェリンAを検出した。
- オ 後発医薬品の品質試験として、国の実施する「後発医薬品品質確保対策事業」において指定されたオメプラゾール錠の先発1製剤及び後発5製剤について、溶出規格試験及び溶出曲線測定を実施した結果、溶出規格はすべて適合したものの、後発3製剤は先発品またはオレンジブック収載値との溶出挙動が非類似と判定された。
- カ シアン指導取締事業において、電気めっき業及び金属熱処理工場の廃水86検体を試験した結果、17検体からシアンを検出したが、そのうち基準値（1 mg/L）を超えるものは0検体であった。
- キ 医薬品及び指定医薬部外品の製造販売承認申請書の規格及び試験方法について、医薬品20検体及び指定医薬部外品9検体の計29検体の審査を行い、試験方法改良の指示や、記載不備の指摘等を行った。医薬部外品の製造販売承認申請に係る審査では、染毛剤（310検体）、薬用歯みがき類（15検体）及び浴用剤（15検体）合計340検体のうち、計275検体について試験方法改良の指示や、記載不備の指摘等を行った。
- ク 健康安全部の監視計画に基づく医療機器の試験検査では、電子体温計、生理用タンポン、医療脱脂綿、鼻用洗浄器、単回使用穿孔器、家庭用永久磁石磁気治療器、救急絆創膏、家庭用創傷パット、粘着型義歯床安定用糊剤、家庭用温熱パック、汎用注射筒、医薬品・ワクチン注入用針、天然ゴム製手術用手袋等27検体について性能及び安全性に関する規格等の確認検査を行い、不適になるものがないことを確認した。
- ケ 健康安全部の監視計画に基づく家庭用品の試験検査では、住宅用及び家庭用洗浄剤、家庭用エアゾル製品、接着剤、乳幼児用及び大人用繊維製品、寝具、敷物、クレオソート油で処理された木材製品等271検体を対象に、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」（家庭用品規制法）で指定されたホルムアルデヒド、メタノール、ベンゾ[a]ピレン等44種の有害物質の検査を実施した結果、1検体の家庭用洗浄剤に係る落下試験で、容器から漏れを認めた。また、先行調査として、家庭用品規制法の規制対象外製品であるインターネット通

信販売で外国から直接購入できる繊維製品（乳幼児用）20検体について、ホルムアルデヒド含有量の検査を実施した。区保健所から依頼された36検体についても家庭用品規制法に基づく検査を行った結果、不適となるものはなかった。

コ 大麻草由来製品の試買事業において8検体の試験検査を実施した。また、濫用等の恐れのある医薬品のインターネット試買監視事業で購入された医薬品17検体について、濫用等の恐れのある医薬品成分に係る試験検査を実施した。

(4) 特記事項

ア 「東京都薬物情報評価委員会」に、16種の未規制薬物(Cyputylone、N-Desethyl etoniyazene、1T-AL-LAD、1Bz-LSD、NBoc-DNT、4F-4-MAR、ortho-Methylfentanyl、5-Methyl etodesnitazene、4-Pro-DMT、4HO-McPT、N-Pyrrolidino-isotonitazene、Ethyleneoxynitazene、1SB-LSD、3Cl-PCP、2me-PiHP、Isopropoxate)の審議資料を提出した。

イ 事故・苦情に関わる検体として、14検体について試験を実施した。強壯を標榜する健康食品7検体からタダラフィルを検出した。一般用医薬品1検体中の有効成分含量について試験を実施した。クソニンジン様の植物片からアルテミシニンを検出した。化粧品2検体からホルマリンを検出し、化粧品1検体からシステアミンを検出した。

2 薬用植物園

(1) 業務の概略

薬用植物園は、大麻、ケシをはじめ、麻薬原料植物、薬用植物、ハーブ等を栽培、整備し、栽培研究を通じて医薬品の品質、有効性及び安全性を図ることにより、薬事行政の適正な執行及び都民の医療水準の向上に寄与してきた。平成15年度の組織再編により医薬品研究科所属となり、試験研究機関として位置付けられた後は、従来業務に加え、大麻・ケシの鑑別試験、健康食品や危険ドラッグに含有される植物の鑑別試験を中心とした試験検査及びこれらに関する調査研究の充実を図っている。

また、都内唯一の「麻薬原料植物、大麻及びケシを栽培研究する施設」として、麻薬取締員、薬事監視員等に対する研修を実施している。そのほか、都内で抜去した大麻及びケシの処分場として園内で埋立処分を行うとともに、これらの植物について鑑別相談に対応するなど、薬物乱用防止対策に貢献している。

なお、園が栽培する薬用植物種を薬事監視等に必要不可欠な約750種に整理し、植物の鑑定鑑別業務及び大麻・ケシ等麻薬植物に関連する栽培、研修等の業務を除き、平成22年度から、園の運営業務を公益社団法人東京生薬協会に全面委託している。

(2) 調査研究及び試験検査

上記の1 医薬品研究科に、まとめて記載した。

なお、令和7年度の試験検査実績は2,782件であった。(健康食品に関する植物鑑別試験等43件、危険ドラッグに関する植物鑑別試験等0件、大麻・ケシの鑑別試験等2,739件)

(3) 研修及び啓発活動

取締機関、行政機関及び薬物乱用防止関係団体等を対象に大麻・ケシ等違法植物の研修(31回、749名)を行った。

また、園内において、薬草教室(8回、734名)を含む普及啓発事業(30日、2,098名)を行い、薬用植物に関する知識の普及啓発を図った。

(4) 特記事項

ア 麻薬取締員等及び警察が抜去し、園内で埋立処分したケシは105箇所分、2,416本、大麻は0箇所分、0本であった。また、大麻・ケシ等に関する鑑別相談は125件であった。

イ 危険ドラッグに含有される規制植物等の入手困難な種子を導入するため、国内外の植物園や研究機関と種子のリストの交換を行った(種子交換リストの収受16箇所、種子の収受2箇所)。

ウ 来園者数は93,543名、植物に関する相談・問い合わせは2,328件であった。

エ 植物の譲渡を6件(試験用15種、教育用2種)行った。

3 環境衛生研究科

(1) 科内業務の概略

環境衛生研究科は、空気、水及び衛生動物等に係る生活環境の安全性確保とそれらの質的向上を目標として、理化学及び生物・微生物学的側面から以下のような調査研究と試験検査を行っている。

(2) 調査研究

ア 課題研究：レジオネラ症に係る環境水中レジオネラ属菌の新規検査法及び分子疫学的解析に関する研究

(ア) MALDI-TOF-MS及びIRバイオタイパーによるレジオネラ属菌の新規検査法の検討

IRバイオタイパー（IRBT）を用い、*Legionella pneumophila* (*Lp*) のレジオネラ属菌推定（SG1、2-15及び*L. spp.*）及び血清群識別モデルの有用性を検討した。まず、*Lp*（SG1、4、6、10及び12）について、異なる寒天培地（BCYE α 、WY0 α 及びGVPC α ）で培養し、さらにBCYE α で48時間培養しIRBTで測定した結果、培地の種類にかかわらず血清群ごとに明確なクラスター形成が認められ、再現性の高い識別が可能と示唆された。次に、IRBTのAI学習機能を用いた属レベル推定モデルでは、学習株数を増やすことで精度が大幅に向上し、最大99.6%の高精度でレジオネラ属菌の推定が可能であった。また、学習に使用していないレジオネラ属菌の株に対しても、適切に*L. spp.* と分類するなど高い汎用性を示した。一方、血清群識別モデルでは、学習株数及び学習回数を増やしてもエラー率や分類失敗率が依然として高いため、精度は約58%までしか改善されず属レベルに比べ識別能は限定的であった。

(イ) 環境水中レジオネラ属菌培養時における非結核性抗酸菌の抑制方法の検討

非結核性抗酸菌（NTM）の発育を抑制するエタンブトール濃度について、画線培養及び環境水検査を想定した条件で検討を行った。画線培養では、NTM 8 種及び*Legionella pneumophila* (*Lp*) を用い、異なる寒天培地（BCYE α 、WY0 α 及びGVPC α ）に濃度が異なるエタンブトール水溶液を250 μ L添加して培養した。その結果、NTMの菌種によって発育が抑制される濃度が異なり、0.01～10 mg/mLでNTMの増殖が確認されなくなった。一方、*Lp*の発育抑制は、検討した全ての濃度において認められなかった。環境水検査を想定した酸処理条件下においても、NTM 9 種で同様に発育が抑制される濃度が異なり、0.2～10 mg/mLでコロニー形成が確認されなくなった。両手法に共通して、培地へのエタンブトール添加時には溶液分布の偏りが生じ、シャーレ周縁部でNTMの発育が抑制されにくい傾向がみられた。以上により、エタンブトールによるNTMの発育抑制効果は菌種依存性があり、実務での適用においては対象菌の推定が重要と考える。

(ウ) レジオネラ症発生時の感染源調査のための分子疫学的解析法の検討

レジオネラ属菌における分子疫学解析手法には、パルスフィールドゲル電気泳動

(PFGE) 法、Sequence-Based Typing (SBT) 法、及び Multiple-Locus Variable number tandem repeat Analysis (MLVA) 法がある。本研究では、当研究室に MLVA 法を導入し、PFGE 法、SBT 法、及び MLVA 法の 3 法の結果を比較した。対象菌株には、2 ヶ所の入浴施設から分離された浴槽水由来の菌株と 2 つの地域に所在する複数の冷却塔から分離された菌株の計 69 株を用いた。なお、これらの入浴施設及び冷却塔が存在する地域は、どれも地理的に近接していない。全 69 株を解析した結果、PFGE 法で 23 のバンドパターン、MLVA 法で 13 の MLVA 型を示した。SBT 法は、PFGE 法の全 23 パターンを各 1 株ずつ実施し、10 の ST 型に分類された。MLVA 法による minimum spanning tree を作成した結果、一部を除き、clonal complex 内の菌株の PFGE 法による類似度は 80% 以上であった。また、MLVA 法で clonal complex を形成する株は、SBT 法でも clonal complex を形成したため、両法は相関関係にあることが明確となった。また、分離地域や検体由来も異なる菌株において、各手法で同一遺伝子型を示す株が存在したことから、感染源調査の際は 3 法を用いた総合的判断が必要と考える。

イ 基盤研究

(ア) 新型タバコより発生する化学物質の受動喫煙に係る分析システムの構築

紙巻きタバコに比べ副流煙ばく露のリスクが低い新型タバコ（加熱式たばこ及び E-リキッド）が普及しているが、受動喫煙についての情報はまだ少ない。そこで、令和 7 年度は受動喫煙の一つである副流煙を採取するためのシステムを構築し、新型タバコ 5 製品（7 条件）の副流煙を分析した。採取システムは、吸引鐘を用いた方法を採用し、タバコスティック 2 本当たり、又は 30 パフ当たりの副流煙を採取して化学物質濃度を算出した。リキッド成分由来加熱分解生成物は加熱式たばこで合計濃度が高く、アセトアルデヒドの濃度も高かった。また、リキッド成分の一つであるプロピレングリコールは、E-リキッドからの濃度が最も高く、リキッドを併用していない製品からも検出された。なお、副流煙中化学物質濃度は主流煙と比べて約 1/20~1/1000 と低く、受動喫煙における副流煙の影響は小さいと考える。

(イ) 環境水中未規制物質の分析法確立及び浄水処理等による挙動解明

抗微生物薬であるポリペプチド系薬剤（コリスチン）及びカルバペネム系薬剤、また浄水処理対応困難物質である有機フッ素化合物及びスチレンについて多摩川水系河川 11 地点で実態調査（令和 7 年 9 月及び 11 月の各月 1 回）を行った。コリスチンは、下水処理場の流入水及び放流水における実態調査（河川水調査と同時期）も行った。なお、コリスチンの分析法として固相抽出—LC/MS/MS 法を検討し、河川水及び下水試料を用いて妥当性評価を行ったところ評価基準を満足したことから、本法を用いて分析を行った。河川水の実態調査では、令和 8 年 4 月から水質基準項目に位置付けられる「ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペルフルオロオクタン酸（PFOA）」が全調査時

において 11 地点中 10 地点で検出が認められ、最大値は 0.00002 mg/L（目標値 0.00005 mg/L）であった。また、コリスチン、カルバペネム系薬剤及びスチレンは、調査時の全地点で検出されなかった。下水試料におけるコリスチンは、全調査時で流入水及び放流水共に定量下限値（0.01mg/L）未満であった。

(ウ) 都内で発生する衛生動物の同定及び発生状況調査

平成 28 年から実施しているヒトスジシマカ、アカイエカ群、マダニ、ノシメマダラメイガ、タバコシバンムシ及びマダニの調査を継続した。また、令和 7 年度から、ネッタイトコジラミにおけるピレスロイド系殺虫剤の作用点に関与する電位依存性ナトリウムチャネル（VGSC）のアミノ酸（L899V、M918I、D953G、Y/L995H、V1010L、I1011F、L1014F、V1016E 及び L1017F/S）を含む遺伝子領域を増幅し、塩基配列の解析を行った。試料は、東京系統 2 系統及び沖縄系統 6 系統について各系統 5～10 個体とした。今回用いた全系統の個体について V899、G953、H995 及び F1014 の箇所は、ホモ接合体の抵抗性型の塩基配列であり、M918I は 3 系統で数個体にヘテロ接合体が見られた（ヘテロ接合体以外の個体はホモ接合体の抵抗性型の塩基配列）。それ以外の座位はホモ接合体の感受性型の塩基配列であった。

(3) 試験検査

令和 7 年度に当研究科が実施した主な試験検査のあらましを示す。

ア 東京湾産魚介類に対する重点監視・指導

東京湾産魚介類について、ダイオキシン類並びに内分泌かく乱作用が疑われる化学物質としてジクロロジフェニルトリクロロエタン（DDT）及びその代謝物、アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル（DEHA）、ベンゾフェノン（BZP）、アルキルフェノール類（APs）、ペンタクロロフェノール（PCP）、2,4-ジクロロフェノール（2,4-DCP）の汚染状況調査を行った。検体数は、スズキ 8 検体、ボラ 8 検体、マアナゴ 8 検体、マゴチ 8 検体及びホンビノスガイ 6 検体であった。マゴチは令和 7 年度から対象とした。分析の結果、ダイオキシン類、DDT 及びその代謝物の検出濃度は前年度並みであり、DEHA、BZP、APs、PCP 及び 2,4-DCP は不検出であった。また、マゴチからダイオキシン類及び p,p'-ジクロロジフェニルエチレン（p,p'-DDE）が検出された。

イ 大気汚染等保健対策に係る基礎的実験的研究

昭和 62 年度から大気汚染保健対策に係る基礎的実験的研究を実施している。令和 7 年度は亜硝酸を対象とし、大気中濃度実態調査及び細胞ばく露実験を行った。令和 7 年 7 月、10 月及び令和 8 年 1 月に、自動車排出ガス測定局の松原橋測定局及び亀戸測定局、一般環境大気測定局の晴海測定局の 3 局において、24 時間（4 回）及び 72 時間（1 回）の連続測定を行った。その結果、全ての測定回で亜硝酸は定量下限値以上で検出され、また、各月の平均濃度はいずれも松原橋測定局が 0.9 ppb、0.9 ppb 及び 0.7 ppb と最も高く、

亀戸及び晴海測定局は0.5～0.7 ppbと同程度であった。ヒト肺胞上皮由来 A549 細胞を用いて約4 ppm 亜硝酸、又は4.1 ppm 二酸化窒素をばく露したところ、細胞増殖能力、炎症因子、酸化ストレスマーカーに影響は見られなかった。

ウ 島しょ及び多摩地区の小規模水道施設を対象とした水質検査

東京都水道水質管理計画に基づき、当該施設の原水20件、浄水19件及び給水栓水3件を対象として、農薬類を含む水質管理目標設定項目（原水：129項目、浄水及び給水栓水：133項目）及び要検討項目（原水：20項目、浄水及び給水栓水：30項目）を検査した。浄水及び給水栓水の水質管理目標設定項目では、水道水が有すべき性状に関する項目である蒸発残留物、カルシウム・マグネシウム等（硬度）、腐食性（ランゲリア指数）及び有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）で目標値を超過している施設が見られた。なお、放射性物質は全て不検出であった。

エ 多摩地域の専用水道、飲用井戸水等の水質検査

有機フッ素化合物であるPFOS及びPFOAについて、令和8年4月1日から「水質基準項目」への格上げが見込まれていたため、地下水等を原水とする専用水道の原水159件、浄水107件を対象として有機フッ素化合物の水質検査を実施した。浄水では、PFOS及びPFOAで目標値（0.00005 mg/L）を超過している施設が9件あった。東京都の飲用に供する井戸等の衛生管理指導要綱に基づき、飲用井戸72件を対象として水質検査を実施した。水質基準項目である一般細菌、大腸菌、鉛及びその化合物、亜鉛及びその化合物、アルミニウム及びその化合物、銅及びその化合物、色度及び濁度で基準値を超過している箇所が見られ、管理目標設定項目であるPFOS及びPFOAで目標値を超過している箇所が10件あった。また、クリプトスポリジウム汚染指標細菌である大腸菌及び嫌気性芽胞菌で指針値を超過している箇所が見られた。なお、放射性物質は全て不検出であった。

オ プール水の水質検査

多摩地域及び島しょのプール水551件について検査し、pHで5件、濁度で2件、過マンガン酸カリウム消費量で6件、一般細菌で13件、大腸菌定性で2件が不適となった。

カ 生活用水・都市環境水におけるレジオネラ属菌の汚染状況等に関する検査

冷却塔水、浴槽水及びプール水等、計921件について、レジオネラ属菌の検査を行った。レジオネラ属菌は、冷却塔水68件中21件（30.9%）、浴槽水633件中101件（16.0%）から検出され、浴槽水のうち32件は、公衆浴場・旅館業法に係る都条例の基準を超過した。また、プール水220件中34件（15.5%）からレジオネラ属菌が検出され、このうち6件でプール等取締条例の基準を超過した。

キ 水道等における原虫類及び汚染指標細菌類に関する検査

島しょ及び多摩地区の水道並びに簡易水道施設の原水14件及び浄水14件について、原虫類（クリプトスポリジウム、ジアルジア）とクリプトスポリジウム汚染指標細菌（大腸菌及び嫌気性芽胞菌）を調査した。汚染指標細菌は、原水12件から検出され、原虫類汚

染のおそれがあることが示された。

ク レジオネラ症患者発生時における積極的疫学調査

レジオネラ症の患者発生に伴い、浴槽水、給湯水、シャワー水、冷却塔水、ふき取り等の遺伝子検査及び培養検査を各 48 件実施した。このうち培養検査において 8 件（16.7%）からレジオネラ属菌を検出した。

ケ 感染症媒介蚊サーベイランス（広域サーベイランス）

蚊が媒介する感染症発生の拡大防止を図る一環として、6月から10月までの期間に、都内16か所で全10回実施した。合計5,669匹、18種の蚊成虫を同定した。ヒトスジシマカとアカイエカ群が優占し、両種で総数の91.3%を占めた。

コ 感染症媒介蚊サーベイランス（重点サーベイランス）

デング熱等の発生の拡大防止を図る一環として、4月から11月までの期間に、都内の人が集まる公園等の施設 9 か所で全14回実施した。合計9,014匹、13種の蚊成虫を同定した。ヒトスジシマカとアカイエカ群が優占し、両種で総数の94.5%を占めた。蚊幼虫及び蛹の調査は全 8 回実施し、雨水枡等の貯留水各100 mL中から合計2,511匹を検査した。

サ 八王子市保健所感染症媒介蚊の同定

年間で5回検査し、蚊174匹 2 種（状態の悪い個体を除く）を同定した。

シ 新宿区保健所感染症媒介蚊の同定

年間で2回検査し、蚊69匹 1 種（状態の悪い個体を除く）を同定した。

(4) 環境放射能モニタリング

ア 環境放射能水準調査（原子力規制庁委託事業）

令和6年度に引き続き、都内8か所のモニタリングポスト（原子力規制庁委託5台のほか都独自2台と東京都立産業技術研究センター1台）による空間放射線量率の測定結果を常時オンラインでホームページに公表した。また、降水ごとの全β線測定、大気浮遊じん、月間降下物、土壌、陸水、牛乳及びムロアジについて放射性核種分析を行った。

イ 原発事故に伴う環境放射能モニタリング（東京都独自事業）

原発事故に伴う環境放射能モニタリングとして、降下物及び蛇口水の放射性核種分析を毎日実施し、結果をホームページで公表した。

4 生体影響研究科

(1) 科内業務の概略

生体影響研究科では、主に化学物質の安全性を評価するために、実験動物や培養細胞を用いて、一般毒性試験、細胞毒性試験、発がん性試験及び次世代影響試験などを行っている。

(2) 調査研究

ア 重点研究：不正薬物の化学分析法及び生体影響試験法に関する研究

(ア) 培養細胞を用いた危険ドラッグに含まれる薬物の細胞毒性に関する研究

昨年度の結果において、生存率の顕著な低下、カスパーゼ3/7活性の顕著な上昇が見られた5薬物を HEK293細胞、HepG2細胞、及び SH-SY5Y 細胞に適用し、カスパーゼ3/7、8、9の活性及び生存率についてより詳細に調べた。

(イ) Nitazene 類の精神依存性と発現機序に関する研究

新規合成オピオイドである Nitazene 類の精神依存性はほとんど知見が無い。本研究では、指定薬物の一つを用いて、その発現機序を検討している。今年度は、行動・神経症状観察試験を実施した。オピオイドでよく観察される、反復動作、痛反応、自発運動及び挙尾反応に着目し、用量依存的に症状の継続時間が延長した。高用量では作用が長時間持続することを考慮し、次年度以降の本試験に適用する投与量を決定した。また、CPP 試験およびマイクロダイアリシス試験（側坐核の細胞外ドパミン量測定）を実施したところ、CPP スコアおよび側坐核の細胞外ドパミンレベルはいずれも有意に上昇し、本薬物が精神依存性を有することが示唆された。

イ 基盤研究

(ア) マグネトメーター法を用いた幻覚性薬物のマウス首振り反応の基礎的研究

首振り反応（HTR）の感受性の異なる C57BL/6J 及び DBA/2J の2系統を用い、幻覚剤の重要な作用部位である前頭前野(PFC)の網羅的遺伝子発現解析を目的として、今年度は、RNA-seqを行った後、発現変動遺伝子を探索し、リアルタイム PCR を実施した。C57BL/6J は DBA/2J と比べて HTR 感受性が低いものの、既知の最初期遺伝子 (IEG) の発現が再現された。一方、DBA/2J は低用量で HTR のピークが観察されるなど感受性は高いが、HTR が観察可能な用量で既知の IEG 発現変化が捉えづらかった。これらのことから、既知の IEG 発現と HTR は関連性が低いことが示唆された。

(イ) 浸透性農薬とその共力剤の混合曝露がマウス次世代に及ぼす影響

ネオニコチノイド系殺虫剤であるジノテフラン(DIN)と共力剤であるピペロニルブトキシド(PBO)の混合曝露が次世代マウスの行動発達に及ぼす影響を調査するため、混餌法により 0%（対照群）、DIN 0.005%+PBO 0.03%、DIN 0.01%+PBO 0.03%、DIN 0.02%+PBO 0.03%となるように調製してマウスに2世代にわたって投与した。授乳期間中の行動発達については、雄仔では DIN 0.02%+PBO 0.03%群で、生後4日の正向反射及び生後14日の嗅覚指向反応の経路において有意に高いスコアを示した。雌仔では、DIN 0.02%+PBO 0.03%群で、生後14日の嗅

覚指向反応の経路及び所要時間が有意に高いスコアを示した。F₁ 世代仔の探索行動については、雄及び雌仔でいくつかの変数が有意な影響を示した。F₁ 世代雄の自発行動では、対照群および投与群における経時パターンは、総移動距離、移動時間、及び立ち上がり回数において有意な距離を示した。以上のとおり、今回用いたピペロニルブトキシドを併用したジノテフランの用量レベルは、ジノテフラン単独よりも低用量レベルで、F₁ 世代マウスの神経行動パラメーターにいくつかの有害な影響を及ぼした。

(ウ) 多層カーボンナノチューブの慢性曝露により誘発されるラット中皮腫の血清マーカーの探索

多層カーボンナノチューブ (MWCNT) はアスベストに類似する性質を持ち、動物実験では肺がんや胸膜中皮腫などの呼吸器系への毒性が報告されている。昨年度に、肺と胸膜に対する発がん性が異なる 3 種類の MWCNT を週 1 回、13 週間にわたってラットに気管内投与した。実験開始から 52 週目 (1 年後) に全動物を解剖した。

(エ) 大気降下物としてのケイ素及びチタン酸化物粒子の観察

本年度はチタン酸化物について着目したが、チタンと酸素だけからなる粒子は観察されなかったものの、カルシウムを含有する粒径 1 μm 以下の細かいチタン酸化物粒子および有機物中にチタン酸化物が分散していると思われる粒子が観察できた。その他に得られた知見として、酸化鉄粒子は海外で採取された大気降下物中にも観察出来たこと、ケイ素酸化物の由来について食品添加物・エタノール蒸散剤ではないかと推察したこと、チタン酸化物粒子の由来の一つとしてプラスチック材料が挙げられたこと、希土類元素であるランタンとセリウムから構成される粒子が観察出来たことを付記しておく。

(オ) 6-PPD キノンの気管内投与によるマウス呼吸器への影響調査

6-PPD キノンはタイヤなどのゴム製品の劣化防止剤である 6-PPD の酸化物であり、大気中でも検出されている。ヒトの尿中からも検出され、吸入経路などにより生体内に入る可能性が指摘されていることから、呼吸機能への影響を調査している。今年度は、既報 (He ら, 2024, Sci.Total Environ. 922, 171220 他) の再現性確認実験を行った結果、精巣における毒性発現が再現された。また、気管支肺胞洗浄液中でマクロファージの性質に変化が生じていることが示唆され、さらに、気管内投与実験においても同様の変化が認められた。また、肺組織のリアルタイム PCR ではケモカインの一種の発現変動が認められた。

(3) 試験検査

ア 危険ドラッグに関する生体影響試験

健康安全部薬務課からの試験依頼により、19物質の未規制薬物等について、ヒト胎児腎臓由来の培養細胞株 HEK293を用いた神経伝達物質トランスポーターの阻害試験、マイクロダイアリシス法によるマウス線条体内神経細胞外神経伝達物質濃度の変動分析試験、行動観察、中枢・自律神経症状観察、自発運動量測定、病理組織学的観察試験、カタレプシー試験、首振り試験及び体温測定などを合計19,297項目行った。得られた結果は、東京都薬物情報評価委員会へ報

告し、令和7年度は、以下の(ア)から(タ)の16物質が知事指定薬物として指定された。

(ア) Cypuylone、(イ) N-Desethyletonitazene、(ウ) 1T-AL-LAD、(エ) 1Bz-LSD、(オ) NBoc-DMT、(カ) 4F-4-MAR、(キ) o-Methylfentanyl、(ク) 5-Methyletonitazene、(ケ) 4-PrO-DMT、(コ) 4HO-McPT、(サ) N-Pyrrolidino-isotonitazene、(シ) Ethyleneoxynitazene、(ス) 1SB-LSD、(セ) 3Cl-PCP、(ソ) 2me-PiHP、(タ) Isopropoxate

イ 大気汚染等保健対策に係る基礎的実験的研究

健康安全部環境保健衛生課からの依頼により、PM2.5等大気汚染物質についての基礎的な研究を実施している。令和6年度から4か年計画で、亜硝酸の生体影響を調べている。今年度は、正常マウスへ亜硝酸を2週間ばく露し、一般毒性試験及び呼吸機能を測定する予備試験を実施した。一般毒性試験では、雄の高濃度群で、ばく露期間中の体重減少と、解剖時に胸腺の小型化及び肺の相対重量の増加が認められた。さらに、肺組織を用いたリアルタイムPCRにおいて、雌の高濃度群で酸化ストレスマーカーの発現が対照群に対して有意に上昇した。雄では、粘液産生マーカー及び酸化ストレスマーカーの用量依存的な発現増加傾向が認められた。一方、呼吸機能測定については、個体差が大きく、統計学的有意差は無かったものの、亜硝酸ばく露群においてすべてのパラメーターの抵抗値が上昇する傾向を認めた。さらに、ヒト気道上皮3D培養組織への亜硝酸ばく露の予備試験を実施した。顕著な変化は無かったものの、亜硝酸ばく露群は対照群と比較して有意に酸化ストレスマーカーの発現が増加していた。これらの結果を令和7年度東京都環境保健対策専門委員会の大気汚染保健対策分科会に報告した。

ウ 医療機器の生物学的安全性試験

収去により得られたコンタクトレンズ10検体について細胞毒性試験を実施した。結果は、すべて陰性であった。

IV 精度管理室

1 室内業務の概略

精度管理室では、東京都食品衛生検査施設（当センター、都保健所、市場衛生検査所、食肉衛生検査所）の「食品衛生法」、当センター水質部門の「水道法」、医薬品部門の「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、及び病原体検査施設の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく検査業務管理（GLP）における信頼性確保部門としての業務を行っている。また、「臨床検査技師等に関する法律」に基づき、東京都内の衛生検査所の精度管理調査及び監視指導を、「医療法」に基づき、都内の医療機関への外部精度管理調査を行っている。

(1) GLP に関する業務

精度管理室では、内部点検により検査の精度と妥当性を検証し、透明性と信頼性の確保を図っている。また、検査を実施する部門の検査担当者の技能水準の確保及び日常検査の精度を適正に保つことを目的として、検査施設が自ら行う内部精度管理の結果及び厚生労働省等が認可した機関の行う外部精度管理調査結果について確認を行っている。改善が必要な場合は検査部門責任者へ文書により改善措置要請を行う。

(2) 衛生検査所に関する業務

精度管理室では、保健医療局医療政策部医療安全課と協力して、病院から委託された血液や微生物等の検査を行う衛生検査所に対して、精度向上と検査業務に対する信頼性の確保を図っている。衛生検査所に試料と調査票を直接配付するオープン方式と、試料を調査であることを伏せて日常の検体として東京都医師会選定の協力医療機関から衛生検査所へ委託依頼するブラインド方式の2つの方式により、精度管理調査を実施している。

ここで得られた生化学的検査、血液学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査、細胞診検査、病理学的検査、遺伝子検査及び寄生虫学的検査の結果を集計し解析することで、各衛生検査所の検査精度を評価して年1回報告書にまとめている。その結果、検査精度に問題のある衛生検査所に対しては、23区並びに2政令市と共同で、翌年、特別監視指導を行っている。また、東京都が管轄する衛生検査所に対して2年に1回、定例監視指導を実施している。

(3) 医療機関への外部精度管理調査

精度管理室では、保健医療局感染症対策部と協力して、医療措置協定を締結した医療機関におけるPCR等の検査精度の維持及び向上を目的に外部精度管理調査及び調査結果に基づく技術支援を日本臨床検査薬協会の協力により実施している。都と医療措置協定を締結した医療機関のうち、自院内で検体の採取から検査の実施までが可能である検査措置協定を兼ねて締結している医療機関を対象として医療法に基づいた管理体制の確認と調査試料を用いたPCR等検査の技能試験の結果により検査結果の妥当性や再現性について評価し、年1回報告書にまとめている。検査精度に問題ある医療機関に対しては医療機関で使用している測定試薬メーカー（日本臨床検査薬

協会員)が実地にて支援を行っている。

2 令和7年度業務実績

(1) GLP に関する業務

ア 東京都食品衛生検査施設に対する内部点検を実施した。点検した施設は、当センター19施設、都保健所9施設、市場衛生検査所4施設、及び食肉衛生検査所1施設であった。GLP 関連書類を点検し、適切な業務管理が行われ、検査の信頼性が保たれているかの確認を行った。また、内部精度管理の実施計画書及び実施結果報告書と外部精度管理の結果報告書を点検し、検査精度が担保されていることを確認した。

イ GLP システムについての理解を深め、精度の向上を図るため、東京都食品衛生検査施設の職員を対象に GLP 講習会を開催した。

ウ 当センター水道水検査部門及び病原体検査部門に対して、内部点検を実施した。また、内部精度管理の実施計画及び実施結果と外部精度管理調査結果を点検し、検査精度が担保されていることを確認した。

エ 当センター医薬品検査部門に対して、自己点検（内部点検に相当）を実施した。

オ 当センター病原体検査担当者を対象に、GLP 講習会を開催した。

(2) 衛生検査所に関する業務

ア オープン方式及びブラインド方式による精度管理調査を実施した。調査結果は、オンラインで収集した。オープン方式の調査では、遺伝子検査として新型コロナウイルスの病原体核酸検査の調査を実施した。また、寄生虫学的検査で赤痢アメーバのシストを配布し、回答を求めた。ブラインド方式の調査では、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの病原体核酸検査、及び免疫学的検査で前立腺特異抗原(PSA)の調査を実施した。これらの結果は、「第44回 東京都衛生検査所精度管理事業報告書」にて報告するとともに、ホームページへの掲載を行った。（詳細は第5節 精度管理調査事業の第1項 東京都衛生検査所精度管理調査）

イ 特別監視指導対象施設は10施設、定例監視指導対象施設は54施設、臨時監視指導対象は2施設であった。このうち精度管理室は、特別監視対象と臨時監視対象の全施設、定例監視対象施設のうち東京都管轄7施設の監視指導を担当した。

(3) 医療機関への外部精度管理調査業務

ア 令和7年4月1日までに都と医療措置協定を締結した医療機関のうち、自院内で検体採取から検査の実施までが可能である検査措置協定を兼ねて締結している医療機関1311施設（病院362施設および診療所949施設）を対象として、調査に同意した計771施設（病院253施設および診療所518施設）に実施した。SARS-CoV-2遺伝子の調査結果は、オンラインで収集した。調査は、検査関連の遵守すべき法令等を確認する「文書調査」と都が配付する調査試料を測定する「技能試験」を併せて実施した。文書調査は遺伝子検査機器を対象として、医療法施行規則や感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、廃棄物の処理及び

清掃に関する法律等に基づき項目を設定・評価し、技能試験は遺伝子検査機器を対象に実施した。これらの結果は、「令和7年度医療機関に対するPCR等検査の精度管理事業報告書」にて報告するとともに、ホームページへの掲載を行った。

イ 調査結果を踏まえて、日本臨床検査薬協会による技術支援（訪問支援）を実施した。支援対象施設は61施設であった。

ウ 精度管理調査に参加した医療機関及びその他参加を希望する医療機関、保健所等関係機関を対象に「令和7年度医療機関に対するPCR等検査の精度管理講習会」（YouTubeにて限定公開）を実施した。

2 令和7年度調査研究

(1) 生化学的検査試料の作製に関する研究

精度管理室では、都内の登録衛生検査所に対して立入検査の際に既知検体を持参し技能評価を行っているが、近年、プール血清の調達が困難になってきた。市販の人工試料は試薬の測定原理により値が異なることが知られており、独自の試料作製を検討する必要性が求められている。本研究では、新鮮血を材料に用い、安定した試料の作製方法を確立することを目的とし、試料作製日から一定間隔で保存日数を変えた試料を用いて、総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、総コレステロール等の生化学的検査22項目別に測定を行った。

検討の結果、一部の酵素系を除き測定値に大きな変動はなく、容器と保存条件については特に影響がなかったことが確認された。また、昨年度目標値の値付けを行ってから1年後に再度、複数の特定機能病院で測定した値を比較したが変動はほぼ見られなかった。

V 中央機器室

1 機器の整備状況と管理運営体制

中央機器室は、当センター全体で使用する共用性の高い高精度な大型機器を中心とした各種分析装置が設置された共同利用施設である。核磁気共鳴装置（NMR）、高速液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）、Q-ToF 型質量分析システム、分取液体クロマトグラフ、蛍光 X 線分析装置、X 線回折装置、誘導結合プラズマ発光分析装置、誘導結合プラズマ質量分析装置、アミノ酸分析装置、電子顕微鏡（透過型、走査型）、プロテオーム解析システム、DNA シークエンサー、次世代シークエンサー、リアルタイム PCR 装置、DNA 画像解析装置、フローサイトメーター、全自動凍結乾燥機、デジタルマイクロスコープ、大型プリンター等を含む、計 35 項目の機器が整備されている。

管理及び運営は、担当の管理職、特命委員及び各研究科委員で構成された中央機器室管理運営委員会の下、行われている。委員会は、運営に関する取り決め、機器の機種選定に関する事項等の調整を図るとともに、各機器の利用者を中心とした複数名に管理を依頼している。管理担当者は、各機器の維持管理を行い、機器の取扱い説明、保守やトラブル対応、機種の選定等、円滑な機器の共同利用を支えている。

2 試験検査、調査研究及び研修等への活用

中央機器室が保有する機器は、微生物部、食品化学部、薬事環境科学部の各研究科において、微量化学物質の同定や定量及び構造解析、病原微生物の同定や型別、毒性発現機序の解明等を目的として、共同利用されている。

令和 7 年度における、主な機器の使用事例は次のとおりである。

NMR は危険ドラッグ及び健康食品中の新規検出化合物等の構造解析、食品中の合成着色料、サプリメント中のカビ産生物質等の同定確認等に使用されている。

LC-MS/MS は、試料中の目的物質の定性・定量あるいは確認試験として、食品中のマリントキシン、かび毒、食物アレルギー、残留農薬及び動物用医薬品、食品添加物、健康食品中の医薬品成分や危険ドラッグ、食中毒原因菌が産生する毒素、家庭用品中の防炎加工剤、水道水中の消毒副生成物等の試験検査・調査研究に使用されている。

Q-ToF 型質量分析システムは、対象物質の精密質量を測定することで化合物やペプチド等の構造推定に使用している。さらに取得したデータは、調査研究等において、多岐にわたるサンプル群の差異分析や代謝物分析といった網羅的解析により、混入毒性物質の発見・構造推定に活用されている。

分取液体クロマトグラフは、危険ドラッグ成分や健康食品中の医薬品成分、食品添加物中の副生成物等の分取に使用している。

蛍光 X 線分析装置は、農産物中の残留臭素の分析、食品中の二酸化チタンの分析、容器包装

中の金属成分の同定、医薬部外品の規格試験、家庭用品中の金属類の検査等に使用されている。また、食品や飲料水の異物苦情検体の検査にも活用されている。

X線回折装置は、建材や医薬部外品中の成分の確認、並びに建材やタルカンプウダーに含まれるアスベストの実態調査等に使用されている。

誘導結合プラズマ発光分析装置及び誘導結合プラズマ質量分析装置は、食品中の有害元素に関する成分規格試験、食事由来の重金属のばく露量推計調査、食品及びサプリメント中のミネラル成分の分析、食品添加物・器具・容器包装・おもちゃに含まれる金属類の規格試験や実態調査、医薬品成分の規格試験、排水中の各種金属含有量調査等に使用されている。

アミノ酸分析装置は、甘味料の分析、食品及び食品添加物製剤中の含有アミノ酸の分析、医薬品の承認規格試験、医薬部外品の規格試験等に使用されている。

電子顕微鏡は透過型と走査型の2種類があり、透過型ではウイルスや細菌あるいは培養細胞の形態観察及び画像データの広報への活用に使われている。一方、走査型では生体試料の微細構造変化の観察による安全性評価、多層カーボンナノチューブの計測、大気中の微小物質の粒子形状の観察、苦情食品中の異物鑑定等に使用されている。

プロテオーム解析システムは、多層カーボンナノチューブや、危険ドラッグのタンパク質等の分子レベルでの生体影響の評価等に使われている。

DNA シークエンサーは、各種微生物の同定や型別試験、薬剤感受性の判別や感染及び汚染経路の推定に資する遺伝子解析のほか、化学性食中毒や食品苦情に関連する植物や魚介類等の種鑑別ならびに衛生害虫等の鑑別や推定等にも使用されている。

次世代シークエンサーは、新型コロナウイルスをはじめとするウイルスや細菌等病原体の全ゲノム系統解析を中心に使用されている。

リアルタイムPCR装置は、新型コロナウイルス等のウイルスや細菌等、病原体の検出や変異型解析に使われている。

DNA 画像解析装置は、菌型試験、細菌同定試験、核酸検出検査、結核菌型別検査及び研究開発試験等に使われている。

フローサイトメーターは、生体から採取した臓器、血液及び腹腔洗浄液等の細胞集団の免疫表現型解析に使われている。

全自動凍結乾燥機は、各研究部門において、検査試料の前処理や保存用試料の作成に用いられている。

デジタルマイクロスコープは、食品用容器包装のピンホールの観察、食品の異物苦情検体の検査、医療機器分野でのコンタクトレンズの表面観察等に使われている。

大型プリンターは、研修や施設見学、施設公開及び子供セミナー等の所内の広報活動及び各職員の業績発表にあたり、ポスターを作成するのに活用している。

中央機器のみが保有している機器も複数あり、各機器は効果的に利用され、各研究科の試験検査及び調査研究を支えるとともに、研修や広報を始めとした当センターの様々な事業にも活

用されている。また健康危機事案発生時の緊急事態への対応に備え、機器の維持管理に努めている。

3 ケミカルハザード室

ケミカルハザード室は、ダイオキシン類をはじめとする微量有害化学物質を取り扱う共同利用の特殊実験施設であり、有害物質安全管理委員会による使用許可を受けた職員が作業にあっている。室内は常に負圧に保たれ室内の空気が外に漏れ出ない構造となっており、室内及び室外への給排気は HEPA フィルター及び活性炭等のフィルターを通してしている。実験室は高濃度実験室と低濃度実験室があり、それぞれ排気型実験台、ドラフトチャンバー、ソックスレー抽出装置、濃縮装置等を備え、種類や濃度レベルの異なる試料を安全に前処理することが可能となっている。分析室には二重収束型ガスクロマトグラフ質量分析計（HRGC/HRMS）及びデータ処理用コンピュータを備え、抽出からデータ解析までの全ての作業を同室内で実施している。

第2節 調査研究課題

(令和7年度実績)

1 重点研究

研究課題	研究科
統括課題1 東京都感染症予防計画に即した微生物検査体制・解析技法の開発	微生物部
個別 東京都内における薬剤耐性菌の実態把握と分子疫学解析	病原細菌研究科
東京都内における性感染症起因菌の遺伝子解析	病原細菌研究科
環境水を利用したウイルスモニタリング法・遺伝子解析法の検討	ウイルス研究科
不明疾患の網羅的解析法の検討および大規模検査を想定したウイルス検査法の構築	ウイルス研究科
食中毒起因菌の分子疫学解析とデータベース構築に向けた基礎的研究	食品微生物研究科
統括課題2 水産食品におけるハザードの新規試験法に関する研究	食品化学部
個別 マリントキシンの高感度機器分析法に関する研究	食品成分研究科
養殖魚介類における飼料由来酸化防止剤試験法開発及び残留実態調査	残留物質研究科
水産食品中残留性有機汚染物質の残留実態に関する研究	残留物質研究科
養殖魚介類及び加工魚介食品に残留する水産用医薬品の試験法開発	残留物質研究科
統括課題3 不正薬物の化学分析法及び生体影響試験法に関する研究	薬事環境科学部
個別 大麻由来製品中の麻薬成分の分析法に関する研究	医薬品研究科
大麻草の成長過程におけるカンナビノイド類の含有量の変化等に関する研究	医薬品研究科
危険ドラッグに含有される薬物の異性体識別に関する研究	医薬品研究科
培養細胞を用いた危険ドラッグに含まれる薬物の細胞毒性に関する研究	生体影響研究科
Nitazene類の精神依存性と発現機序に関する研究	生体影響研究科

2 課題研究

研究課題	研究科
統括課題1 食品の細菌学的安全性の評価と新規検査法の構築に関する研究	食品微生物研究科
個別 リステリア・モノサイトゲネスの疫学解析に関する研究	
黄色ブドウ球菌等の毒素検出に関連する新規検査法の検討	
好気性芽胞菌を中心とした食品の細菌学的汚染実態調査及び迅速同定法の検討	
統括課題2 人・動物および畜水産物を介して感染する細菌及び寄生虫の遺伝子解析	病原細菌研究科
個別 侵襲性および呼吸器等感染症起因菌の解析	
動物由来の病原細菌および薬剤耐性菌の遺伝子解析	
畜水産物の喫食による健康被害のリスクがある病原寄生虫の遺伝子解析	
統括課題3 ウイルス性感染症・ダニ媒介性感染症等の病原体の分子疫学解析に関する研究	ウイルス研究科
個別 感染性胃腸炎起因ウイルスに関する分子疫学解析とウイルス分離法の検討	
東京都内における急性呼吸器感染症起因ウイルスの遺伝子解析に関する研究	
東京都内におけるウイルス性発疹症の分子疫学解析・動向把握に関する検討	
都内つつが虫病病原体の分子疫学解析とダニ媒介感染症の検査系の整備に関する研究	
統括課題4 食用昆虫に係る栄養学的・衛生学的調査に関する研究	食品成分研究科
個別 食用昆虫における栄養成分分析法の開発	
食物アレルギーにおける食用昆虫の検査法に関する研究	
食用昆虫に含まれる重金属等に関する調査研究	

統括課題 5 食品中の食品添加物及び食品用器具・容器包装をめぐる国際的変化に対応するための検査品質に関する研究	食品添加物研究科
個別 食品中の食品添加物検査方法の性能評価-1（甘味料） 食品中の食品添加物検査方法の性能評価-2（保存料） 銅クロロフィルおよび銅クロロフィリンナトリウムの新規試験法開発 多様な素材からなる食品用器具・容器包装の溶出物に関する検討	
統括課題 6 食品中残留化学物質試験法の開発・改良に関する研究	残留物質研究科
個別 農作物の残留農薬検査における新規スクリーニングー斉分析法の開発 窒素キャリアGC-MS/MSを用いた畜水産物中残留農薬試験法の検討 水産食品中に残留するPCB及び有機スズ化合物の同時前処理法の開発 食肉中アミノグリコシド系抗生物質の新規試験法開発	
統括課題 7 レジオネラ症に係る環境水中レジオネラ属菌の新規検査法及び分子疫学的解析に関する研究	環境衛生研究科
個別 MALDI-TOF-MS及びIRバイオタイパーによるレジオネラ属菌の新規検査法の検討 環境水中レジオネラ属菌培養時における非結核性抗酸菌の抑制方法の検討 レジオネラ症発生時の感染源調査のための分子疫学的解析法の検討	

3 基盤研究

研究課題	研究科
国内流通穀粉を対象とした細菌学的汚染実態調査	食品微生物研究科
流通食品等におけるEscherichia albertiiの汚染実態調査および検査法の検討	食品微生物研究科
MALDI-TOF MS及びIR Biotyperによる食中毒起因菌の同定及び型別に関する研究	食品微生物研究科
腸管系病原菌を対象とした薬剤耐性菌のサーベイランス調査	食品微生物研究科
食品から分離されるデオキシニバレノール産生Fusarium属菌のスクリーニング法の検討	食品微生物研究科
環境由来アゾール耐性Aspergillus属菌の汚染状況調査	食品微生物研究科
Aspergillus属菌及びPenicillium属菌の同定法の検討	食品微生物研究科
食品媒介寄生虫症に関わる食品の寄生実態調査	病原細菌研究科
電子顕微鏡による病原微生物の観察法の研究	病原細菌研究科
薬剤耐性変異を持つウイルスの遺伝子解析と疫学調査に関する研究	ウイルス研究科
ウイルス性感染症の簡易検査法の評価に関する研究	ウイルス研究科
キノコ由来自然毒食中毒の最適な検査体制の確立に関する研究	食品成分研究科
市販食用タール色素と食品添加物公定書標準品の同等性についての検討	食品添加物研究科
乳および牛筋肉中コリスチンの分析法開発と残留実態調査	残留物質研究科
窒素キャリアGC-MS/MSを用いた食用昆虫における残留農薬試験法開発	残留物質研究科
家庭用品にかかわる試験法の改良等に関する研究	医薬品研究科
新型タバコより発生する化学物質の受動喫煙に係る分析システムの構築	環境衛生研究科
環境水中未規制物質の分析法確立及び浄水処理等による挙動解明	環境衛生研究科
都内で発生する衛生動物の同定及び発生状況調査	環境衛生研究科
マグネトメーター法を用いた幻覚性薬物のマウス首振り反応の基礎的研究	生体影響研究科
浸透性農薬と共力剤の混合曝露がマウス次世代に及ぼす影響	生体影響研究科
多層カーボンナノチューブの慢性曝露により誘発されるラット中皮腫の血清マーカーの探索	生体影響研究科
大気降下物としてのケイ素及びチタン酸化物粒子の観察	生体影響研究科
6-PPDキノンの気管内投与によるマウス呼吸器への影響調査	生体影響研究科
生化学的検査試料の作製に関する研究	精度管理室

4 共同研究

研究課題	研究科
食品及び製造環境におけるカビ毒産生菌及びカビ毒のTOF-MSによる簡易迅速検査同定法の開発と社会実装	食品微生物研究科
食品および環境由来薬剤耐性真菌の分離状況と疫学解析に関する研究	食品微生物研究科
野生鳥獣における保有病原菌およびRhodococcus属菌のゲノム解析	病原細菌研究科
動物用医薬品検査の外部精度管理調査に関する研究	残留物質研究科
生薬レンギョウ（連翹）の基原植物レンギョウ <i>Forsythia suspensa</i> とその近縁植物の生薬学的研究	医薬品研究科
危険ドラッグ試験に用いる薬物の標準品の合成に関する研究	医薬品研究科
医薬品成分等のスクリーニング用検知管に関する研究	医薬品研究科
天然物医薬品等の品質評価法の開発と最適化に関する研究	医薬品研究科
病院排水における薬剤耐性の分布と特性の包括的精査	環境衛生研究科
衛生動物の分子生物学的手法を用いた同定手法の検討等に関する研究	環境衛生研究科
衛生動物の分子生物学的手法を用いた同定手法の検討等に関する研究	環境衛生研究科
衛生動物の分子生物学的手法を用いた同定手法の検討等に関する研究	環境衛生研究科
衛生動物の分子生物学的手法を用いた同定手法の検討等に関する研究	環境衛生研究科
衛生動物の分子生物学的手法を用いた同定手法の検討等に関する研究	環境衛生研究科
都内大気中の亜硝酸濃度実態調査	環境衛生研究科

5 受託研究

研究課題	研究科
下痢性ウイルスの分子疫学を基盤にした流行制御にかかる研究	所長
食品取扱現場における効果的なウイルス汚染対策の策定のための研究	所長
革新的モダリティを基盤とした次世代ムンプスワクチンの開発と分子疫学的評価による予防戦略の確立	微生物部
ワンヘルス・アプローチに基づく食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスと伝播機序解明のための研究	微生物部
腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症等の病原体に関する解析手法及び共有化システム構築のための研究	微生物部
エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究	微生物部
食品及び製造環境におけるカビ毒産生菌及びカビ毒のTOF-MSによる簡易迅速検査同定法の開発と社会実装	食品微生物研究科
ストレス型バンコマイシン耐性腸球菌が持つ新規van遺伝子の性質解明と臨床リスク評価	病原細菌研究科
原虫類の実践的検査法の普及による検査体制の強化	病原細菌研究科
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	ウイルス研究科
日本におけるHIV感染症の動向把握に関する研究	ウイルス研究科
特定原材料等検査方法の試験室間バリデーション	食品成分研究科
安全性審査済みの遺伝子組換え食品検査（定性検査）の試験室間共同試験	食品成分研究科
安全性審査済みの遺伝子組換え食品検査（定量検査）の試験室間共同試験	食品成分研究科
法規制薬物の分析と鑑別等の手法の開発に向けた研究	医薬品研究科
天然物医薬品等の品質評価法の開発と最適化に関する研究	医薬品研究科
加熱式たばこなど新たなたばこ製品の成分分析と生体影響研究を組み合わせた能動喫煙・受動喫煙の健康影響評価	医薬品研究科
危険ドラッグ等の乱用薬物に関する最新の分析情報の収集及び危害影響予測のための研究	医薬品研究科
家庭用品中有害物質の試験法及び規制基準設定に関する研究	医薬品研究科
公衆浴場等におけるレジオネラ発生防止及び衛生管理推進のための研究	環境衛生研究科
室内空気汚染化学物質対策の推進に資する総合的研究	環境衛生研究科
感染症を媒介する節足動物に関する研究	環境衛生研究科

6 応募研究

研究課題	研究科
地方衛生研究所におけるゲノム検査等に係る人員体制及び人材育成法を確立するための研究	微生物部
薬剤耐性IncX3プラスミドの宿主菌への影響評価-遺伝子型と表現型の観点から-	病原細菌研究科
In vitro再現に基づいたFRI型カルバペネマーゼ遺伝子拡散様式のモデル構築	病原細菌研究科
自己接合性を欠いたカルバペネム耐性プラスミドにおける伝達メカニズムの解明	病原細菌研究科
農産食品に残留する抗菌薬の分析法確立と実態調査から迫る細菌の薬剤耐性化機構	残留物質研究科
ウェルシュ菌エンテロトキシンの高精度な分析法開発から目指す毒素産生量の解明	残留物質研究科
生薬の鏡検に関する研究	医薬品研究科

＜研究の区分について＞

研究の区分	説 明	課題数
重 点 研 究	行政施策として緊急かつ重点的に取り組むべき課題で、所が取り組む必要のある研究	3
課 題 研 究	行政施策との関連において、研究成果が短期的に活かされると見込まれる研究。研究課題は原則として研究科単位の業務に対応	7
基 盤 研 究	行政施策との関連において、研究成果が中長期的観点から活かされると見込まれる研究で、今実施する必要性の高い研究	25
共 同 研 究	所以外の研究者と共同で行う調査研究	14
受 託 研 究	国又は地方公共団体等から依頼を受けて行う調査研究	22
応 募 研 究	国、財団又は基金などが研究の奨励のために行う公募研究に応募して行う調査研究	7
合 計		78

第3節 研究年報、著書、論文、総説・解説、行政報告、学会発表

検査研究部門で実施している調査研究の成果は、当所の研究年報を通じて広く内外に周知するほか、研究者による活発な論文投稿や学会発表により、外部の公衆衛生行政関係者、研究者に紹介されている。（実績は指定の無い場合は分野別掲載（微生物・食品化学・医薬品・環境保健・精度管理））

1 研究年報

調査研究業務の周知及び学術交流のため、研究年報を発行している。研究年報は、東京都立衛生研究所年報（旧組織）として昭和24年度の第1号以来、令和7年度発行分で76号を数え、広く内外の行政関係者、研究者に好評を得ている。

第76号では、「総説」「事業報告」「感染症等に関する調査研究」「医薬品等に関する調査研究」「食品等に関する調査研究」「生活環境に関する調査研究」「生体影響に関する調査研究」の7部門において29編の論文を掲載した（以下、第76号での著者名及び題名のみ掲載）。

総 説

木下輝昭：東京都における水道水質検査精度管理事業への取組み（平成24年度～令和6年度）

事 業 報 告

貞升健志：地方衛生研究所における次世代シーケンサー解析から検査導入までの育成段階

論文Ⅰ 感染症等に関する調査研究

<原著>

熊谷遼太，岡田若葉，高橋久美子，和田紀乃，天野有紗，豊田奈々佳，磯貝まや，長島真美，三宅啓文，貞升健志，千葉隆司：都内下水中の定量的新型コロナウイルスモニタリングとヒー

トマップ評価法の構築

黒木絢士郎，熊谷遼太，九澤香織，小泉美優，北村有里恵，浅倉弘幸，林 志直，高橋久美子，和田紀乃，岡田若葉，天野有紗，豊田奈々佳，長島真美，三宅啓文，貞升健志，千葉隆司：東京都内ARIサーベイランスにおけるヒトメタニューモウイルスの検出とConventional RT-nested PCR法の構築による遺伝子解析（2025年4月～6月）

<資料>

西野由香里，下島優香子，畠山 薫，福井理恵，黒田寿美代，山崎華恵子，木下輝昭，新開敬行，貞升健志，千葉隆司：都内河川水から分離された大腸菌の薬剤感受性および基質特異性拡張型βラクタマーゼ（ESBL）産生株の分離状況

安中めぐみ，久保田寛頭，長谷川乃映瑠，伊藤仁，小林甲斐，森 功次，貞升健志，千葉隆司：結核菌における薬剤耐性遺伝子変異検出の有用性の検討

久保田寛頭，小林甲斐，安中めぐみ，伊藤仁，森 功次，貞升健志，千葉隆司：狂犬病ウイルスの迅速検査を目的としたリアルタイム逆転写PCR法の検討

高橋久美子，岡田若葉，天野有紗，熊谷遼太，
長島真美，三宅啓文，貞升健志，千葉隆司：手
足口病患者から検出されたエンテロウイルスの
遺伝子解析（2022 年～2024 年）

浅倉弘幸，横田翔太，岩崎直哉，三関詞久，磯
貝まや，黒木絢士郎，根岸あかね，小泉美優，
北村有里恵，林 志直，九澤香織，長島真美，
三宅啓文，貞升健志，千葉隆司：東京都内で発
生した食中毒事例におけるノロウイルスの遺伝
子解析（2024 年度）

和田紀乃，上原さとみ，高橋由美，岩越一之，
増淵珠子，横山敬子，新開敬行，三宅啓文，貞
升健志，千葉隆司：TLC 分析によるデオキシ
ニバレノール産生 *Fusarium* 属菌の検出方法の
検討

九澤香織，黒木絢士郎，林 志直，浅倉弘幸，
三宅啓文，貞升健志，千葉隆司：東京都感染症
発生動向調査事業における呼吸器ウイルス検出
状況（2024 年度）

岡本彩奈，葛西秀美，小林甲斐，久保田寛頭，
村田理恵，神門幸大，上原さとみ，高橋由美，
和田紀乃：都内動物取扱業（販売業及び展示
業）における取扱動物の動物由来感染症起因病
原体保有実態調査（令和 5 年度～令和 6 年度）

論文Ⅱ 医薬品等に関する調査研究

<資料>

成瀬敦子，立川 孟，中村 絢，寺岡大輔，
稲葉涼太，橋本秀樹，観 公子，岸本清子，鈴
木俊也，猪又明子：化粧品における配合成分の

検査結果（令和 5 年度～令和 6 年度）

小川麻萌，小峯宏之，吉田正雄，罇 正弘，鈴
木俊也，猪又明子：革製スマートフォン用ケー
スおよび首・肩掛けストラップの特定芳香族ア
ミン含有量に関する調査

論文Ⅲ 食品等に関する調査研究

<原著>

小林麻紀，大町勇貴，森田有香，平石勇樹，田
口貴章，田原正一：LC-MS/MS による農産物中
フリラゾール分析法

<資料>

松島陽子，酒井奈穂子，飯田憲司，岩波英恵，
平山いずみ，高梨麻由，田中智哉，大河内聡
子，相田祐介，濱田文香，松沢聡美，大野祐
美，中島尚子，岡 優香，長谷川恵美，観 公
子，田原正一，貞升友紀：食品中の放射性物質
の検査結果（令和 4 年度～令和 6 年度）

長谷川恵美，小田真悠子，木本佳那，嶋谷真
希，萩野賀世，貞升友紀：遺伝子組換え食品の
検査結果（令和 5 年度～令和 6 年度）

林 真輝，中村理奈，羽石奈穂子，塩澤 優，
石井悦子，高木優子，牛山慶子，大塚健治：液
体クロマトグラフ - 質量分析計による食品中ス
テビオシド及びレバウジオシド A のスクリー
ニング分析法の検討

羽石奈穂子，林 真輝，牛山慶子，磯野真彩，
山嶋裕季子，大塚健治：粉末状の栄養機能食品
からの非表示グリチルリチン酸の検出事例

磯野真彩，山嶋裕季子，武森真由美，佐藤絵里，大塚健治：食品中の二酸化硫黄及び亜硫酸塩類試験法に関する検討

—アルカリ滴定法における留意事項について—

佐藤絵里，伊藤彩子，安井明子，中村理奈，大塚健治：食品中のフェノール系酸化防止剤分析法の検討と性能評価

大町勇貴，小林麻紀，齋藤友里，森田有香，平石勇樹，田原正一：窒素キャリアガスを用いた大気圧ガスクロマトグラフタンデム型質量分析装置による畜水産物中残留有機塩素系農薬試験法の妥当性評価

森田有香，小林麻紀，大町勇貴，平石勇樹，田原正一：畜水産物中の残留有機塩素系農薬実態調査（令和6年度）

平石勇樹，小林麻紀，大町勇貴，森田有香，田原正一：東京都における食品中残留農薬一日摂取量調査（令和5年度）

上條恭子，富澤早苗，藤原卓士，山本和興，齋藤友里，高田朋美，小鍛冶好恵，大澤佳浩，野口舞子，田原正一：LC-MS/MSを用いた農薬残留分析における検査部位変更の影響
—メロン，キウイ—の妥当性評価及び残留実態調査—

論文Ⅳ 生活環境に関する調査研究

<原著>

角田徳子，大久保智子，小林乗時，牧 倫郎，高橋佳代子，木下輝昭，猪又明子：培養細胞を

用いた硫酸水素アンモニウム液相ばく露による炎症関連遺伝子の発現挙動

富士栄聡子，角田徳子，相原三菜子，木下輝昭，猪又明子：東京都におけるセシウム 134 及びセシウム 137 の空間放射線量率の長期的推移

<資料>

立石恭也，飯田春香，山崎貴子，小杉有希，塩田寛子，木下輝昭，猪又明子，山根啓佑，鈴木健，杉本 恵，大川将司，鈴木翔太，伊藤喜教，松井隆和，渡邊博史，笠倉賢治，垣 弘一：東京都における建築物飲料水水質検査業の精度管理

（令和3年度～令和6年度）

論文Ⅴ 生体影響に関する調査研究

<原著>

中村麻里，河合礼果，平松恭子，長澤明道，篠岡恭子，野村紗希子，生嶋清美，前野 愛，吉田正雄，山崎貴子，寺岡大輔，田中一絵，市川瑤子，坂本美穂， 葉 貴寿，遠藤直幸，齊藤祐介，弦間 格，梅沢 誠，渡辺大介，牧野宏章，高橋秀依，鈴木俊也，北條 幹，猪又明子：危険ドラッグ対策事業における幻覚剤のマウス首振り反応による評価法の導入及びその評価事例

2 著書

3 他誌発表論文

(代表執筆者(先頭に氏名を記載)が所外研究者の場合は、当該研究の共同研究者となっている所内研究者にアンダーラインを記した。)

【微生物】

上原さとみ：講座カビ検査の失敗と成功(19) 菌株保存法の答え合わせ，*かびと生活*，18(2)，31-34，2025.

村田理恵，神門幸大，森 功次，鈴木 淳，貞升健志：東京都内で発生したヒツジ肉に寄生する住肉胞子虫が原因と疑われた有症事例，*Clinical Parasitology*，36，41-43，2025.

神門幸大，村田理恵，森 功次，鈴木 淳，貞升健志：東京都内で発生した粘液胞子虫による有症事例（2016年～2024年），*Clinical Parasitology*，36，44-46，2025.

武藤沙起里，小林あいり，清水裕次郎，豊田千奈美，山内悠子，有吉 司：海外から帰国後に発症した *Neisseria meningitidis* による化膿性膝関節炎の一症例，*臨床微生物*：35(3)，237-242，2025.

【食品】

木本佳那，堀田彩乃，小田真悠子，大貝真実，嶋谷真希，神田真軌，貞升友紀，笹本剛生：LC-MS/MSによる乳，卵，そばおよび落花生アレルギー定性分析法の開発，*食品衛生学雑誌*，66(4)，74-79，2025.

稲垣江梨，富上香澄，山下賀容子，前島 希，小林まなみ，渡邊 淳，小田真悠子，木本佳

那，穂山 浩：LC-MS/MSを用いたモデル加工食品の食物アレルギー一斉検査法の検討と複数試験機関による検証，*食品衛生学雑誌*，66(4)，84-93，2025.

大須賀愛幸，宮川弘之，岩越景子，長谷部恵美，吉川光英，鈴木綾菜，八巻ゆみこ，大塚健治：割りばしの防かび剤一斉分析法についての検討，*日本食品化学学会誌*，32，170-177，2025.

高田朋美，富澤早苗，藤原卓士，上條恭子，山本和興，齋藤友里，小鍛冶好恵，大澤佳浩，野口舞子，田原正一：LC-MS/MSを用いた緑茶葉中残留農薬一斉分析法の妥当性評価，*食品衛生学雑誌*，66，56-60，2025.

【医薬品】

小峯宏之，久保田領志，吉田正雄，鈴木俊也，五十嵐良明，猪又明子，河上強志：有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律（家庭用品規制法）における有機水銀化合物試験の改良法：*薬学雑誌*，145(5)，469-477，2025.

【生活環境】

大久保智子，角田徳子，五十嵐 剛，大貫 文，齋藤育江，小林乗時，牧 倫郎，高橋佳代子，木下輝昭，猪又明子：ヒト呼吸器由来培養細胞を用いた硫酸アンモニウム，硫酸水素アンモニウムの気相ばく露実験，*大気環境学会誌*，60(5)，67-75，2025.

富岡康浩，福島秀，蟹沢祐多，鹿糠駿平，井口智義，木村悟朗：青森県におけるモリチャバネ

ゴキブリ *Blattella nipponica* Asahina の捕獲記録, 衛生動物, 76(4), 169-172, 2025.

【微生物】

Uehara, S., Takahashi, H., Nishino, Y., Takahashi, Y., Chiba, T., Yokoyama, K., Miyake, H., Sadamasu, K., Hagiwara, D.: Genetic analysis of azole-resistant *Aspergillus fumigatus* isolated from domestic and imported tulip bulbs in Japan. J. Glob. Antimicrob. Resist. 44: 306-313, 2025.

Kobayashi, K., Kubota, H., Ariyoshi, T., Suzuki, Y., Mori, K., Suzuki, J., Ochiai, Y., Sadamasu, K., Chiba, T.: Differential Copy Number of Chromosomal *bla*_{CTX-M-14} in *Escherichia coli* Sequence Type ST38 from Companion Dogs and Cats, Curr. Microbiol. 83, 189, 2026.

Kubota, H., Okuno, R., Kenri, T., Uchitani, Y., Ariyoshi, T., Yoshida, I., Kobayashi, K., Mitobe, M., Suzuki, J., Sadamasu, K.: Multiplex amplicon sequencing for the comprehensive genotyping of *Mycoplasma pneumoniae*, Microbiol. Spectr. 13, e0271924, 2025.

Takemoto, N., Ogura, K., Gao, Y., Okuno, R., Yamaguchi, M., Hirose, Y., Ono, M., Kawabata, S., Ikebe, T., Hamabata, T., Miyoshi-Akiyama, T.: GAS-J, a User-Friendly Browser Application for Genome Assembly, emm-Typing, MLST Typing, and Virulence Factor Gene Detection of *Streptococcus pyogenes*, Microbiology and Immunology. 69, 384-388, 2025.

Ishitsuka, T., Sugiyama, M., Kubota, H., Takai, S., Kakuda, T., Suzuki, Y.: Isolation of *Rhodococcus equi* bacteriophage ReT1 and investigation of its bactericidal effect. Microb. Pathog. 207, 107868, 2025.

Aoki, W., Uwamino, Y., Niida, N., Kubota, H., Kamoshita, Y., Inose, R., Nagata, M., Ishihara, O., Uno, S., Yoshifuji, A., Namkoong, H., Hasegawa, N., Matsushita, H.: Cefiderocol susceptibility of *Stenotrophomonas maltophilia* species complex and carbapenem-resistant *Pseudomonas aeruginosa* isolates from blood cultures at a university hospital in Tokyo, Japan.: J. Glob. Antimicrob. Resist. 44, 251-255, 2025.

Aoki, W., Uwamino, Y., Kubota, H., Kamoshita, Y., Inose, R., Nagata, M., Namkoong, H., Matsushita, H.: Evaluation of in vitro efficacy of aztreonam-nacubactam and cefepime-nacubactam against clinical isolates of *Stenotrophomonas maltophilia*. Antimicrob. Agents. Chemother. 69, e0075525, 2025.

Murakami K, Ida M, Suzuki Y, Kobayashi M, Konishi N, Kato R, Ariyoshi T, Kobayashi K, Mitobe M, Kubota H, Yokoyama K, Suzuki J, Miyake H, Sadamasu K.: Plasmid-encoded FRI-10 carbapenemase harboured by non-*Enterobacter* species isolated in Tokyo, Japan. J. Antimicrob. Chemother. 81, dkag133, 2026.

【食品】

Iwakoshi, K., Miyakawa, H., Hasebe, M., Matsuda,

A., Otsuka, K.: A confirmatory analytical method for post-harvest fungicides in perishable vegetables and fruits using liquid chromatography tandem mass spectrometry. Food Additives & Contaminants: Part A., 42, 1229–1244, 2025.

Koike, H., Yoshikawa, S., Nakajima, T., Hayashi, H., Ohba, Y., Shiradoh, H., Hayashi, M., Nagano, C., Matsushima, Y., Kanda, M., Tahara, S., Robust monitoring, risk assessment, and environmental impact of antibacterial residues in animal and fishery products collected in Tokyo from 2020 to 2024, Journal of Environmental Science and Health, Part B. 60, 447-455, 2025.

【医薬品】

Moriuchi, R., Inaba, R., Nagano, M., Oda M., Shinkai, T., Noguchi, T., Sugishita, Y., Nishizuka, I., Ishii, Y. : The Tokyo Metropolitan Government External Quality Assessment of SARS-CoV-2 Nucleic Acid Amplification Tests for Clinics in 2023. Jpn. J. Infect. Dis, 78, 125-134, 2025.

【生活環境】

Kobayashi, N., Tsuchiya, Y., Nakamura, S., Nohara, K., Yamazaki, T., Oda, T., Kinoshita, T.: Comparative study of pesticide analysis in river water by gas chromatography/mass spectrometry screening and standard methods. Journal of Chromatography Open 8, 2025.

Onuki, A., Tahara, M., Sakai, S., Takagi, M., Tanaka, R., Muraki, S., Saito, I., Chiba, M., Oizumi, S., Ohno,

H., Wakayama, T., Jinno, H. : Validation Study for Establishing a Standard Test Method for Phthalate in Indoor Air in Japan using Thermal Desorption. BPB Reports. 8, 138-142, 2025.

【生体影響】

Ono, Y., Tayama, K., Makino, K., Sakamoto, M., Suzuki, J., Takahashi, H., Inomata, A.:Assessment of μ -opioid receptor signaling responses for fentanyl analogs using luciferase complementation assay. Biol. Pharm. Bull., 48, 1769-1774, 2025.

Ahmed OHM, Saleh DM, Alexander WT, Takase H, Taquahashi Y, Hojo M, Maeno A, Fukamachi K, Gi M, Hirose A, Tsuruoka S, Takahashi S, Tsuda H, Naiki-Ito A. Comparative carcinogenicity of double-walled carbon nanotubes of different lengths administered by intratracheal installation into rat lungs. Nanomaterials (Basel). 2025 Sep 11;15(18):1402.

Tanaka, T., Inomata, A. Reproductive and neurobehavioral effects of combined exposure to dinotefuran and piperonyl butoxide in an F1 generation of mice. Birth Defects Res. 118, e70035, 2026.

【精度管理】

Moriuchi R., Inaba R., Nagano M., Oda M., Shinkai T., Noguchi T., Sugishita Y., Nishizuka I., Ishii Y., The Tokyo Metropolitan Government external quality assessment of SARS-CoV-2 nucleic acid amplification tests for clinics in 2023, Jpn J Infect

4 総説・解説

（代表執筆者（先頭に氏名を記載）が所外研究者の場合は、当該研究の共同研究者となっている所内研究者にアンダーラインを記した。）

5 行政報告

【微生物】

奥野ルミ，内谷友美，有吉 司，吉田 勲，森功次，貞升健志，千葉隆司：東京都における A 群溶血性レンサ球菌感染症由来株の型別及び薬剤感受性状況，IASR, 46, 180-182, 2025.

【医薬品】

河上強志，大嶋智子，森 葉子，西以和貴，菅谷なえ子，小峯宏之，足立有佳里，吉田ひとみ，小山真捺美，田中優樹，田原麻衣子：家庭用品中有害物質の試験法及び規制基準設定に関する研究 家庭用品中のトリス（1-アジリジニル）ホスフィンオキシド分析法の妥当性に関する研究，厚生労働行政推進調査事業費補助金（化学物質リスク研究事業）R7 年度終了報告書，2025.

鈴木俊也，植村望美，寺岡大輔，宮本淳矢，久保花織，西山 麗：法規制薬物の分析と鑑別等の手法の開発に向けた研究，大麻草由来製品中 $\Delta 9$ -THC の分析法の妥当性評価および製品区分の指標・粘度の測定法に関する研究，厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）R7 年度分担研究報告書，2025.

【生活環境】

淀谷雄亮，工藤剛，中川佳子，近真理奈，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，長埜朗夫，本宮恵子，小野田早恵，鈴木史恵，高橋美穂，西里恵美莉，湯澤栄子，泉山信司：レジオネラ属菌の新規検査法の検討，厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」令和 6 年度分担研究報告書，2024.

淀谷雄亮，山口友美，工藤剛，中川佳子，近真理奈，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，長埜朗夫，本宮恵子，小野田早恵，鈴木史恵，高橋美穂，西里恵美莉，湯澤栄子，泉山信司：レジオネラ属菌の新規検査法の検討，厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」令和 4～6 年度 総括・分担研究報告書，2024.

黒木俊郎，小坂浩司，前川順子，陳内理生，金谷潤一，枝川亜希子，中西典子，田栗利紹，倉文明，五十嵐日菜，大森恵梨子，武藤千恵子，大橋美至，中嶋直樹，平塚貴大，尾崎淳朗，烏谷竜哉，木村千鶴子，平井真太郎，浅野由紀子，尾崎吉純，佐々木麻里，杉本貴之，緒方喜久代，中臣昌広，小森正人，藤井 明，縣 邦雄，石森啓益，福田隆志，泉山信司：入浴施設の衛生管理の手引きの改定，厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」令和 6 年度分担研究報告書，2024.

黒木俊郎，小坂浩司，前川順子，陳内理生，金谷潤一，枝川亜希子，中西典子，田栗利紹，倉文明，水戸智文，五十嵐日菜，大森恵梨子，武

藤千恵子，中嶋直樹，大橋美至，磯部順子，平塚貴大，尾崎淳朗，烏谷竜哉，木村千鶴子，平井真太郎，浅野由紀子，尾崎吉純，佐々木麻里，杉本貴之，緒方喜久代，中臣昌広，斉藤利明，小森正人，藤井 明，縣 邦雄，石森啓益，福田隆志，泉山信司：入浴施設の衛生管理の手引きの改定，厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」令和 4～6 年度総括・分担研究報告書，2024.

黒木俊郎，枝川亜希子，中西典子，前川順子，工藤剛，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，鍋田信吾，小松頌子，烏谷竜哉，佐々木麻里，緒方喜久代，太田奈保美，泉山信司：浴槽水の糞便汚染指標細菌の変更の妥当性の検討，厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」令和 6 年度分担研究報告書，2024.

黒木俊郎，枝川亜希子，中西典子，前川順子，工藤剛，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，鍋田信吾，小松頌子，烏谷竜哉，佐々木麻里，緒方喜久代，太田奈保美，泉山信司：浴槽水の糞便汚染指標細菌の変更の妥当性の検討，厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合事業「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」令和 6 年度総括・分担研究報告書，2024.

中西典子，小松頌子，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，佐々木麻里：浴槽水における大腸菌検査法の検討，厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合事業「公衆浴場の衛

生管理の推進のための研究」令和 6 年度分担研究報告書，2024.

【精度管理】

東京都保健医療局医療政策部，令和 7 年度第 44 回東京都衛生検査所精度管理事業報告書

東京都保健医療局感染症対策部，令和 7 年度医療機関に対する PCR 等検査の精度管理事業報告書

6 学会発表等

（代表執筆者（先頭に氏名を記載）が所外研究者の場合は、当該研究の共同研究者となっている所内研究者にアンダーラインを記した。）

<一般学会>

【微生物】

市川めぐみ，尾畑浩魅，西野由香里，三橋華子，黒田寿美代，山崎華恵子，齊木 大，永田真理菜，新開敬行，千葉隆司：都内流通食品からの *Escherichia albertii* の検出及び分離菌株の性状，第 46 回日本食品微生物学会学術総会（神奈川），2025 年 9 月．

西野由香里，福井理恵，市川めぐみ，三橋華子，黒田寿美代，山崎華恵子，新開敬行，貞升健志，千葉隆司：都内流通食品から分離された *Listeria monocytogenes* の病原性関連遺伝子の解析，第 46 回日本食品微生物学会学術総会（神奈川），2025 年 9 月．

西野由香里，尾畑浩魅，市川めぐみ，三橋華子，黒田寿美代，山崎華恵子，横山敬子，三宅啓文，貞升健志：食品及び河川水における基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (ESBL) 産生大腸菌の解析，第 98 回日本細菌学会総会（金沢），2025 年 5 月。

岡田由美子，西田智子，山本詩織，李謙一，泉谷秀昌，西野由香里，井田美樹，下島優香子，都丸亜希子：国内で分離された患者及び食品由来 *Listeria monocytogenes* の分子疫学的解析，第 98 回日本細菌学会総会（金沢），2025 年 5 月。

糟谷 文，小西典子，河上麻美代，小野明日香，尾畑浩魅，齊木 大，村上 昂，大谷彩恵，三関彩乃，畠山 薫，河村真保，鈴木愛，新開敬行，貞升健志，千葉隆司：東京都で分離された CTX 耐性腸管出血性大腸菌検出状況と分離株の細菌学的特徴，第 37 回日本臨床微生物学会総会・学術集会（千葉），2026 年 2 月。

上原さとみ：MALDI-TOF MS によるアスペルギルス症原因菌種と類縁菌種の識別精度，第 69 回日本医真菌学会総会・学術集会（高知），2025 年 5 月。

下島優香子，小田みどり，中江優貴，小野田伊佐子，久永崇宏，茂木啓陽，小野亜矢子，土屋響己，上原さとみ，岡田由美子，森田幸雄：と畜場・食鳥処理場の環境モニタリングアンケート調査とフィルム培地妥当性確認，第 168 回日本獣医学会学術集会，（宮崎），2025 年 9 月。

下島優香子，土屋響己，佐藤睦月，上原さと

み，五十君静信：香辛料の汚染実態調査と加熱条件による好気性芽胞数の比較，第 46 回日本食品微生物学会学術総会（神奈川），2025 年 9 月。

小林甲斐，久保田寛顕，奥野ルミ，内谷友美，森 功次，貞升健志，千葉隆司：病変部および常在部由来 *Streptococcus suis* の分子疫学解析，第 55 回レンサ球菌研究会（東京），2025 年 6 月。

山本香織，田丸亜貴，康 史郎，小向 潤，浅野瑞穂，岩本朋忠，有川健太郎，安中めぐみ，和田崇之，下内 昭：外国出生若年者を発端とした結核感染伝播事例，第 100 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会（東京），2025 年 6 月。

小林甲斐，久保田寛顕，神門幸大，有吉 司，森 功次，落合由嗣，貞升健志，千葉隆司：イヌおよびネコ由来大腸菌の耐性傾向ならびに基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ産生株の分子疫学解析，第 168 回日本獣医学会学術集会（宮崎），2025 年 9 月。

有吉 司，内谷友美，奥野ルミ，吉田 勲，久保田寛顕，森 功次，貞升健志，千葉隆司：都内医療機関から分離されたバンコマイシン耐性 *Enterococcus faecium* の分子疫学解析，第 37 回日本臨床微生物学会総会・学術集会（千葉），2026 年 2 月。

内谷友美，奥野ルミ，有吉 司，吉田 勲，森功次，貞升健志，千葉隆司：東京都における溶血性レンサ球菌感染症由来株の検査について，

第 37 回日本臨床微生物学会総会・学術集会
(千葉)，2026 年 2 月.

内谷友美，奥野ルミ，有吉 司，吉田 勲，武
藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，森川隆斗，桑
波田悠子，森 功次，鈴木 淳，貞升健志，千
葉隆司：東京都内で発生したレジオネラ症集積
事例由来株の分子疫学解析，第 37 回日本臨床
微生物学会総会・学術集会（千葉），2026 年 2
月.

村田理恵，神門幸大，森 功次，鈴木 淳，貞
升健志：東京都内で発生したヒツジ肉に寄生す
る住肉胞子虫が原因と疑われた有症事例，第
36 回日本臨床寄生虫学会大会（東京），2025
年 6 月.

神門幸大，村田理恵，森 功次，鈴木 淳，貞
升健志：東京都内で発生した粘液胞子虫による
有症事例（2016 年～2024 年），第 36 回日本臨
床寄生虫学会大会（東京），2025 年 6 月.

三橋華子，西野由香里，尾畑浩魅，上原さと
み，齊木 大，市川めぐみ，黒田寿美代，山崎
華恵子，下島優香子，新開敬行，千葉隆司：
Listeria monocytogenes 汚染源調査における IR
Biotyper の有用性の検討，第 46 回日本食品微
生物学会学術総会（神奈川），2025 年 9 月.

久保田寛顕，小林甲斐，水戸部森歌，上養義典，鈴
木康規，鈴木 淳，貞升健志：FRI 型カルバペネ
マーゼ遺伝子搭載プラスミドの F 因子依存的
な可動性，第 98 回日本細菌学会総会（石
川），2025 年 5 月.

安藤尚克，水島大輔，高野操，久保田寛顕，小
林甲斐，水戸部森歌，三宅啓文，森 功次，青
木孝弘，湯永博之：MSM コホートにおける高
度耐性 *Mycoplasma genitalium* の流行，日本性
感染症学会第 38 回学術集会（愛知），2025 年
12 月.

Ando, N., Mizushima, D., Takano, M., Aoki, T.,
Kuwata, R., Kawashima, A., Kubota, H., Kobayashi,
K., Mitobe, M., Miyake, H., Sadamasu, K.,
Gatanaga, H.: Trends in *Mycoplasma genitalium*
resistance from 2019 to 2024 in Tokyo, Japan,
IDWeek 2025（アメリカ），2025 年 10 月.

横田翔太，浅倉弘幸，黒木絢士郎，三関詞久，岩
崎直哉，磯貝まや，三宅啓文，貞升健志，千葉隆
司：市販のヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞を用
いたヒトノロウイルス不活化条件の検討，第
72 回日本ウイルス学会学術総会（静岡）2025
年 10 月.

岩崎直哉，横田翔太，浅倉弘幸，三宅啓文，長
島真美，千葉隆司，貞升健志，調恒明，吉村和
久，地衛研ノロウイルス遺伝型サーベイランス
ネットワーク：地方衛生研究所におけるノロウ
イルス等の検出状況についての全国調査（2023
年度），第 66 回日本臨床ウイルス学会（北海
道），2025 年 9 月.

北村有里恵，小泉美優，河上麻美代，黒木絢士
郎，浅倉弘幸，三宅啓文，長島真美，千葉隆
司，貞升健志，西塚 至，城所敏英，吉村和
久：HIV-1 陽性例を用いた感染初期検体に関す
る検討，第 39 回 日本エイズ学会学術集会・総
会（熊本）2025 年 12 月.

【食品】

岩越一之, 安井明子, 松野郁子, 佐藤佑亮, 神田真軌, 貞升友紀, 鈴木 仁: Puberulic acid 類縁体の検出に関する検討, 日本食品化学学会第 31 回総会・学術大会 (滋賀), 2025 年 6 月.

佐藤佑亮, 松野郁子, 岩越一之, 安井明子, 森内裕香, 貞升友紀, 鈴木 仁: 食用昆虫に含まれる重金属元素に関する検討, 第 121 回日本食品衛生学会学術講演会 (東京), 2025 年 10 月.

平山いずみ, 飯田憲司, 松島陽子, 濱田文香, 大野祐美, 岩波英恵, 酒井奈穂子, 貞升友紀: 食用昆虫におけるたんぱく質定量法の検討, 日本薬学会第 146 年会 (大阪), 2026 年 3 月.

大須賀愛幸, 岩越景子, 吉川光英, 宮川弘之, 長谷部恵美, 神田真軌: バンブーメラミンカップからのメラミン溶出傾向についての調査, 第 121 回日本食品衛生学会学術講演会 (東京), 2025 年 10 月.

小林麻紀, 大町勇貴, 森田有香, 平石勇樹, 田原正一: LC-MS/MS による畜産物中クロフェンテジン分析法, 第 121 回日本食品衛生学会学術講演会 (東京), 2025 年 10 月.

尾崎麻子, 水口智晴, 岸 映里, 浅川大地, 佐藤 環, 大野浩之, 小澤敦揮, 風間貴充, 竹田美穂, 石井進之輔, 岩越景子, 宮川弘之, 牛山温子, 片岡洋平, 藤原恒司, 阿部 裕, 六鹿元雄: 合成樹脂製器具・容器包装における NIAS 文献調査及びデータベース構築, 第 121 回日本食品衛生学会学術講演会 (東京), 2025 年 10 月.

黒原 崇, 多田敦子, 建部千絵, 佐々木隆宏, 熊坂謙一, 櫻井 光, 本田俊一, 寺見祥子, 五十嵐友希, 山嶋裕季子, 山本信次, 原 貴彦, 吉田美佳: 食品添加物試験法: 9 種保存料の簡易溶媒抽出—高速液体クロマトグラフィーによる定性及び定量, 日本薬学会第 146 年会 (大阪), 2026 年 3 月.

尾崎麻子, 六鹿元雄, 阿部智之, 阿部 裕, 岩越景子, 中西 徹, 松井秀俊, 渡辺一成: 生活用品試験法 器具・容器包装および玩具試験法着色料の溶出試験, 日本薬学会第 146 年会 (大阪), 2026 年 3 月.

中島崇行, 永野智恵子, 吉川聡一, 林洋, 大場由実, 小池裕, 志良堂裕子, 林もも香: 乳, 牛肉および豚肉中ポリペプチド系抗生物質コリスチンの分析法開発, 第 121 回日本食品衛生学会学術講演会 (東京), 2025 年 10 月.

【医薬品】

寺岡大輔, 西山 麗, 植村望美, 宮本淳矢, 久保花織, 梅田綾子, 岸本清子, 鈴木俊也, 猪又明子: 大麻草由来製品 (CBD 製品) の製品区分に係る粘度測定法の検討, 日本薬学会第 146 年会 (大阪), 2026 年 3 月.

稲葉涼太, 中村 絢, 立川 孟, 成瀬敦子, 橋本秀樹, 観 公子, 寺岡大輔, 鈴木俊也, 猪又明子, 内山奈穂子: 医薬部外品原料規格 d-カンフル及び dl-カンフルのキャピラリーガスクロマトグラフィーを用いた定量法の検討, 日本薬学会第 146 年会 (大阪), 2026 年 3 月.

【生活環境】

原田幸子，井口智義，川寄大志，山口綾太，駒形 修，糸川健太郎，横尾愛虹，秦 和寿，木下輝昭，猪又明子，葛西真治：リアルタイム PCR を用いたアカイエカ群の種の同定，第 76 回日本衛生動物学会東日本支部大会（千葉），2025 年 11 月．

井口智義，矢口 昇，橋本知幸，数間 亨，皆川恵子，木村悟朗，佐々木 健，足立雅也，山口綾太，川寄大志，木下輝昭，猪又明子：国内のトコジラミにおけるピレスロイド抵抗性遺伝子保有状況（第 1 報），第 77 回日本衛生動物学会本大会（長崎），2025 年 4 月．

橋本知幸，小松謙之，井口智義，皆川恵子，数間 亨：トコジラミとネッタイトコジラミのガラス面上での行動性に関する相違，第 77 回日本衛生動物学会本大会（長崎），2025 年 4 月．

井口智義，橋本知幸，数間 亨，皆川恵子，小松謙之，駒形 修，糸川健太郎，原田幸子，川寄大志，山口綾太，木下輝昭，猪又明子，葛西真治：国内のネッタイトコジラミにおけるピレスロイド抵抗性遺伝子保有状況（第 1 報），第 76 回日本衛生動物学会東日本支部大会（千葉），2025 年 11 月．

井口智義，秦 和寿，原田幸子，川寄大志，山口綾太，伊賀千紘，高橋久美子，木下輝昭，猪又明子：都内における屋外でのタバコシバンムシ捕集状況（2019～2024），第 41 回日本ペストロジー学会大会（新潟），2025 年 11 月．

山口綾太，原田幸子，井口智義，川寄大志，糸川健太郎，駒形 修，木下輝昭，猪又明子，葛西真治：都内臨海部におけるヒトスジシマカのピレスロイド系殺虫剤抵抗遺伝子の解析，第 41 回日本ペストロジー学会大会（新潟），2025 年 11 月．

川寄大志，井口智義，原田幸子，山口綾太，横尾愛虹，秦 和寿，小林 巧，堀内詩歩，滝澤賢，長島真美，木下輝昭，猪又明子：東京都感染症媒介蚊サーベイランスにおける蚊幼虫等調査結果（令和 6 年度），第 41 回日本ペストロジー学会大会（新潟），2025 年 11 月．

田原麻衣子，村木沙織，松本幸一郎，吉富太一，西以和貴，市村 天，千葉真弘，大貫文，小澤敦揮，若山貴成，六鹿元雄，高木規峰野，酒井信夫：LC/MS を用いた室内空気中 SVOC の標準試験法の開発（第 3 報），2025 年室内環境学会学術大会（北九州），2025 年 12 月．

林 知奈，矢野一成，岩城舞子，村松 哲，森田徳子，内谷友美，有吉 司，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，田中和良，坂野知子，村上邦仁子，渡辺裕之：夏季に半径 5km 圏内に地域集積を認めたレジオネラ症事例の対応（2024 東京都集団発生報告 第 1 報），第 84 回日本公衆衛生学会総会（静岡），2025 年 10 月．

森川隆斗，桑波田悠子，伊藤 研，佐藤恭子，山下 公平，内谷 友美，有吉 司，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，田中和良：レジオネラ症の地域集積事例 43 例に対する保健所の対応と連携（2024 東京都集団発生報告 第 2 報），第 84 回日本公衆衛生学会総会（静岡），2025 年 10 月．

芋川有希，鈴木 薫，堀元 海，内谷友美，奥野ルミ，有吉 司，武藤千恵子，梅津萌子，高久靖弘，田中和良，村井やす子，渡部ゆう，高橋愛貴，西塚 至：急増したレジオネラ症への健康危機管理対応と課題（2024 東京都集団発生報告 第 3 報），第 84 回日本公衆衛生学会総会（静岡），2025 年 10 月．

【生体影響】

篠岡恭子，野村紗希子，佐伯祐樹，中川好男，中村麻里，河合礼果，生嶋清美，前野愛，坂本美穂，川瀬泰司，宮脇俊文，佐藤太，鈴木俊也，北條幹，猪又明子：新規合成オピオイド“nitazene”類の一種 metonitazene のマウスにおける報酬効果，日本薬学会第 146 年会（大阪）2026 年 3 月．

田中豊人，長澤明道，猪又明子．ジノテフランと共力剤の混合曝露によるマウスを用いた次世代行動発達毒性試験：ピペロニルブトキシドの共力効果，第 52 回日本毒性学会学術年会（宜野湾）2025 年 7 月．

【公衆衛生】

菊地 省大，岩下 裕子，鈴木 祐子，西塚 至，吉村 和久：東京都における侵襲性髄膜炎菌感染症の概況（2013 年 4 月 1 日から 2025 年 5 月 25

日），第 84 回日本公衆衛生学会（静岡県），2025 年 10 月．

＜一般学会以外＞

【微生物】

＜地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部研究部会＞

第 37 回細菌研究部会総会・研究会

（宇都宮市，2026）

村上 昂，小西 典子，糟谷 文，三関 彩乃，大谷彩恵，小野 明日香，鈴木 愛，齊木 大，尾畑 浩魅，河村 真保，畠山 薫，三宅 啓文，新開 敬行，千葉 隆司：都内で増加している 4 薬剤耐性腸管出血性大腸菌 O157 の特徴と分子疫学解析

三関 彩乃，小西 典子，村上 昂，糟谷 文，大谷彩恵，小野 明日香，鈴木 愛，河村 真保，畠山 薫，齊木 大，尾畑 浩魅，新開 敬行，千葉 隆司：東京都内で分離された腸管出血性大腸菌血清型別不能株の O 抗原遺伝子解析と疫学的検討

永田真理菜，小林真紀子，山梨敬子，高林晃子，河上麻美代，樋口容子，齊木 大，新開敬行，千葉隆司：フィルターバッグを活用した好気性芽胞菌検査法の検討

山梨敬子，小林真紀子，高林晃子，河上麻美代，永田真理菜，樋口容子，齊木 大，新開敬行，千葉隆司：ISO16140-3 を参照した代替法による食品の一般生菌数定量試験の検証

小林甲斐，久保田寛顕，安中めぐみ，伊藤仁，森 功次，貞升健志，千葉隆司：レプトスピラ特異的遺伝子陽性のヒト臨床検体を用いたMultilocus Sequence Typing 解析.

＜衛生微生物技術協議会＞

第 45 回研究会（北海道，2025）

奥野ルミ：東京都における溶血性レンサ球菌感染症由来株の状況

＜地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 研究部会＞

第 39 回ウイルス研究部会総会・研究会 （静岡，2025）

黒木絢士郎，熊谷遼太，九澤香織，小泉美優，北村有里恵，浅倉弘幸，林 志直，高橋久美子，和田紀乃，岡田若葉，天野有紗，豊田奈々佳，長島真美，三宅啓文，貞升健志，千葉隆司：東京都内 ARI サーベランスにおけるヒトメタニューモウイルスの検出状況と新規Conventional RT-nested PCR 法による遺伝子解析

岡田若葉，熊谷遼太，和田紀乃，天野有紗，豊田奈々佳，磯貝まや，高橋久美子，長島真美，三宅啓文，貞升健志，千葉隆司：東京都における最近の水痘・带状疱疹ウイルス検出状況

【食品】

＜全国衛生化学技術協議会＞

第 62 回年会（群馬，2025）

木本佳那：LC-MS/MS による食物アレルギー分析

小田真悠子，木本佳那，長谷川恵美，萩野賀世，神田真軌，貞升友紀，鈴木 仁：昆虫と甲

殻類の交差反応性が甲殻類アレルギー検査法に及ぼす影響について

五十嵐友希，八巻ゆみこ，佐々木隆宏，山嶋裕季子，渡邊趣衣，鈴木綾菜，鈴木理央，伊藤彩子，馬場糸子，森川麻里，下井俊子，大塚健治，神田真軌：保存料分析法の性能評価：10 種食品における開発法の妥当性確認と実践的課題

杉木幹雄，北原久美子，佐々木隆宏，下井俊子，小林千種，大塚健治，神田真軌：食品中 EDTA 分析法の回収率改善に関する検討

齋藤友里，小林麻紀，大町勇貴，森田有香，平石勇樹，田原正一：東京都における食品中残留農薬一日摂取量調査（令和 5 年度）

寺見祥子，小野澤実玲，村越早織，関根百合子，三浦奈那美，眞壁祐樹，草薙俊和，大塚健治，中村理奈，安永 恵，三好淳子，中島安基江，河野敏己，馬場勇志，船本洋二，大城聡子，古謝あゆ子，久保田浩樹，太田亜紀子，建部千絵，高田翔平，多田敦子，杉本直樹：令和 6 年度マーケットバスケット方式による食品添加物の一日摂取量調査

多田敦子，内山陽介，栗田史子，羽石奈穂子，林 真輝，杉浦 潤，大槻 崇，河野敏己，池野恵美，建部千絵，高田翔平，黒原 崇，日置冬子，久保田浩樹，佐藤恭子，杉本直樹：食品中の食品添加物分析法改正に向けた検討（令和 6 年度）

＜地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部

研究部会＞

第 38 回理化学研究部会総会・研究会

(埼玉, 2025)

中村理奈, 石井悦子, 高木優子, 羽石奈穂子, 高橋夏生, 小林千種, 大塚健治, 神田真軌: 当センターで開発したグリチルリチン酸分析法と検査への導入のための妥当性確認

＜東京都公衆衛生獣医師協議会調査研究発表会＞令和 7 年度 (東京, 2025)

吉川聡一, 富澤早苗, 藤原卓士, 上條恭子, 高田朋美, 横山知子, 田原正一, 鈴木仁: 外部精度管理試料を用いた不確かさの評価

【医薬品】

坂本美穂: 危険ドラッグに含有される未規制薬物の構造解析, 文部科学省・先端研究基盤共用促進事業 (先端研究設備プラットフォームプログラム) NMR プラットフォーム シンポジウム 2025 (東京), 2026 年 1 月.

＜全国衛生化学技術協議会＞

第 62 回年会 (群馬, 2025)

丸山祐可, 小杉有希, 鈴木淳子, 清水聖子, 茂木友里, 高橋美佐子, 中村 耕, 鈴木俊也, 猪又明子: LC/MS/MS による大麻草中のカンナビノイド類の分析法[第 2 報]

中村 絢, 橋本秀樹, 稲葉涼太, 観 公子, 成瀬敦子, 寺岡大輔, 立川 孟, 鈴木俊也, 猪又明子, 河上強志, 内山奈穂子, 五十嵐良明: LC/MS/MS による化粧品及びその原料中に含有されるアクリルアミドの定量法の検討

久保田領志, 小峯宏之, 菅谷なえ子, 高居久義, 元谷達矢, 藪谷充孝, 山本直美, 若山貴成, 五十嵐良明, 河上強志: 有害物質含有家庭用品規制法における有機水銀化合物試験法改定に係る検討

＜第 62 回全国薬事指導協議会＞

(佐賀, 2025)

清水聖子, 小杉有希, 鈴木淳子, 丸山祐可, 高橋美佐子, 浦出朋子, 鈴木俊也, 猪又明子: 健康食品中のオニノダケ指標成分の分析について

【生活環境】

＜全国衛生化学技術協議会＞

第 62 回年会 (群馬県, 2025)

高木規峰野, 大嶋直浩, 酒井信夫, 内山奈穂子, 千葉真弘, 西堀祐司, 涌井玲, 大槻良子, 熊谷貴美代, 草原紀子, 大竹正芳, 角田徳子, 上村仁, 田中礼子, 高居久義, 三宅崇弘, 堀井裕子, 望月映希, 羽田好孝, 山本優子, 若山貴成, 和田拓樹, 吉田俊明, 古市裕子, 吉野共広, 伊達英代, 別役由香, 島田友梨, 出口雄也, 田崎盛也: 令和 6 年度 室内空気環境汚染に関する全国実態調査

金崎隆宏, 立石恭也, 渡邊喜美代, 鈴木淳也, 山崎貴子, 大貫 文, 木下輝昭, 猪又明子: 令和 5 年度東京都水道水質外部精度管理調査結果-塩素酸, ジクロロ酢酸-

塩田寛子, 立石恭也, 渡邊喜美代, 鈴木淳也, 大貫 文, 木下輝昭, 猪又明子: 令和 6 年度東京都水道水質外部精度管理調査結果-臭素酸,

トリクロロエチレン-

＜地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部
研究部会＞

第 37 回細菌研究部会総会・研究会
(栃木県, 2026)

高久靖弘, 武藤千恵子, 梅津萌子, 矢尾板優,
田中和良, 木下輝昭, 猪又明子: 環境水中のレ
ジオネラ属菌検査における IR Biotyper の活用
方法の検討

【食品監視】

＜東京都食品衛生監視員協議会研究発表会＞
令和 7 年度 (東京, 2025)

新井和恵, 林 洪太, 玉根知美, 香取佳子, 島
本航輔, 齋藤智子: 大規模製造業における効率
的・効果的な監視手法の検討

渡部敦美, 内田 忍: 食肉製品製造業における
効果的な監視手法の検討～一般衛生管理の視点
から～

奥村千絵, 内田 忍, 井上久美子, 清水永之,
小川恭正, 中島あゆみ: 生鮮食品中の安息香酸
の含有実態調査について

阿久澤圭子, 佐藤 愛, 村本愛奈: 穀粉類の細
菌学的実態調査及び SNS 調査手法について

細田有稀, 安達有美, 池田菜美: 茶葉中の重金
属等の含有実態調査

渡部彩花, 清水節子, 赤瀬晴子, 竹下茜里, 中
島あゆみ, 岩越景子, 吉川光英, 大須賀愛幸:

おもちゃ類の重金属等溶出量実態調査

＜全国食品衛生監視員協議会＞
第 65 回関東ブロック研修大会
(新潟, 2025)

新井和恵, 林 洪太, 玉根知美, 香取佳子, 島
本航輔, 齋藤智子: HACCP に基づく衛生管理
を行う大規模製造業施設における効率的・効果
的な監視手法の検討

渡部敦美, 内田 忍: 食肉製品製造業における
効果的な監視手法の検討～一般衛生管理の視点
から～

奥村千絵, 内田 忍, 井上久美子, 清水永之,
小川恭正, 中島あゆみ: 生鮮食品中の安息香酸
の含有実態調査について

阿久澤圭子, 佐藤 愛, 村本愛奈: 穀粉類の細
菌学的実態調査及び SNS 調査手法について

＜令和 7 年度全国食品衛生監視員協議会研修
会＞

(東京, 2025)

渡部敦美, 内田 忍: 食肉製品製造業における
効果的な監視手法の検討～一般衛生管理の視点
から～

奥村千絵, 内田 忍, 井上久美子, 清水永之,
小川恭正, 中島あゆみ: 生鮮食品中の安息香酸
の含有実態調査について

新井和恵, 林 洪太, 玉根知美, 香取佳子, 島
本航輔, 齋藤智子: HACCP に基づく衛生管理
を行う大規模製造業における効率的・効果的な

監視手法の検討

Have IncX3 Plasmid Harboring blaNDM in Tokyo,
The 20th Asia Pacific Congress of Clinical
Microbiology and Infection (APCCMI 2025),
Bangkok, Thailand, November 2025.

阿久澤圭子, 佐藤 愛, 村本愛奈: 穀粉類の細菌学の実態調査及び SNS 調査手法について

<第 21 回東京都福祉保健医療学会>

令和 7 年度

安達梨果, 木村智香子, 谷 真由美, 澁谷
緑, 渡部敦美: 指定成分等含有食品 (プエラリ
ア・ミリフィカ) 中のミロエストロール含有実
態調査

[建築物監視]

<第 52 回建築物環境衛生管理全国大会>

研究集会 (東京, 2025)

濱名風花: 東京都における建築確認申請時審査
の課題 (令和 6 年)

<第 53 回建築物環境衛生管理全国大会>

研究集会 (東京, 2026)

山根啓祐: 連続測定から考えるビルの衛生管理
(令和 7 年)

浜崎美奈: 飲料水貯水槽等維持管理状況報告の
デジタル化 (令和 7 年)

<国際学会など>

[微生物]

Ariyoshi, T., Uchitani Y., Okuno R., Yoshida I.,
Kubota H., Mori K., Sadamasu K., Chiba T. :
Molecular Characterization of *Enterobacterales*

第4節 試験検査取扱件数

1 総 覧（令和7年度）

項目	総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	そ の 他						
						サーベ	流行予測	病レ	開発試験	保菌者	TBTO等	放射能
微生物部	84,959	27,248	15,290	15	0	32,467	6,522	821	2,137	459	0	0
食品微生物	22,942	16,306	5,625	0	0	35	0	218	299	459	0	0
病原細菌	11,142	3,987	4,080	15	0	890	1,820	91	259	0	0	0
ウイルス	50,875	6,955	5,585	0	0	31,542	4,702	512	1,579	0	0	0
食品化学部	137,728	69,418	41	0	0	0	0	0	68,221	0	48	0
食品成分	15,367	7,593	28	0	0	0	0	0	7,746	0	0	0
食品添加物	34,152	19,692	13	0	0	0	0	0	14,447	0	0	0
残留物質	88,209	42,133	0	0	0	0	0	0	46,028	0	48	0
薬事環境科学部	83,474	70,226	1,421	0	369	0	0	0	9,524	0	0	1,934
医薬品	17,963	15,998	1,366	0	369	0	0	0	230	0	0	0
環境衛生	41,967	30,684	55	0	0	0	0	0	9,294	0	0	1,934
生体影響	23,544	23,544	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	306,161	166,892	16,752	15	369	32,467	6,522	821	79,882	459	48	1,934

（注1）行政検査・・・行政上必要とするもの

特別区・市依頼検査・・・特別区、八王子市及び町田市から依頼され、手数料を徴収するもの

一般依頼検査・・・都民等から依頼され、手数料を徴収するもの

準依頼検査・・・保健医療局各部を通じ依頼され、当該各部が手数料を徴収するもの

サーベ・・・感染症発生動向調査

流行予測・・・感染症流行予測調査

病レ・・・病原体レファレンス事業

開発試験・・・開発試験等

保菌者・・・保菌者検索事業

T B T O 等・・・TBTO（トリブチルスズオキシド）等調査

放射能・・・原子力規制庁委託による環境放射能水準調査

（注2）手数料条例施行規則別表第一に項目の無い検査についても計上している。

2 受託事業等実績

事業名	行政主管課・委託機関	件数
感染症発生動向調査	感染症対策部防疫課	32,467
感染症流行予測調査	感染症対策部防疫課	6,522
病原体レファレンス事業	東京都健康安全センター病原体レファレンス事業実施要綱	821
保菌者検索事業	健康安全部食品監視課	459
TBTO（トリブチルスズオキシド）等調査	健康安全部食品監視課	48
環境放射能水準調査	原子力規制庁	1,934
合 計		42,251

【事業の説明】

1 感染症発生動向調査

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて行う調査。感染症の流行状況を常時監視し、感染症対策の基本である感染症発生情報の正確な把握と分析を行い、その結果を住民や医療関係者等に速やかに公開し、還元することによって、感染症に対する有効かつ適切な予防対策の確立に資することを目的としている。

2 感染症流行予測調査

厚生労働省健康・生活衛生局長通知（毎年）に基づいて行う調査。感染症に関する感受性（集団免疫）の現状（感受性調査）及び、病原体の検索等の調査（感染源調査）を行い、予防対策の効果的な運用を図るとともに、長期的視野に立ち感染症の流行を予測する。

3 病原体レファレンス事業（東京都健康安全研究センター独自事業）

都内で発生している感染症の病原体を積極的に収集し、当該病原体を分析して遺伝子変異や薬剤耐性などを解明することで、有効な感染拡大防止や予防措置に資する情報を都民、医療機関等に提供するとともに、当センターの病原体レファレンス機能を強化する。

4 保菌者検索事業

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく事業。感染力が強く、少菌量で感染することが知られている腸管出血性大腸菌O157及びサルモネラを原因とする散発型の食中毒の発生要因を究明し、集団発生を未然に防止する。

5 TBTO（トリブチルスズオキシド）等調査

昭和60年厚生省環境衛生局長通知に基づいて行う魚介類中のTBTO調査、並びに各種有害化学物質（TPP（トリフェニルスズ化合物）等）による魚介類等の汚染を把握する調査。

6 環境放射能水準調査

環境中の人工放射能の経年的監視を目的とした原子力規制庁からの受託事業

3 食品微生物研究科検査実績表

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	保菌者	サーベ	病レ	開発試験
細腸菌内	腸管病原細菌 1 項目 ふん便培養	1,645	964	649	0	0	0	32	0	0
	海外旅行者検便	0	0	0	0	0	0	0	0	0
試験型	菌型試験 複雑でないもの	521	120	315	0	0	0	0	73	13
	菌型試験 複雑なもの	1,288	506	109	0	0	459	3	145	66
	菌型試験 特に複雑なもの	9	9	0	0	0	0	0	0	0
ペロ毒素産生性大腸菌検査 (ヒトふん便由来に限る)		173	113	58	0	0	0	0	0	2
食中毒試験	ふん便培養 (吐物を含む)	3,190	671	2,519	0	0	0	0	0	0
	飲食物培養 (水を含む)	662	49	613	0	0	0	0	0	0
	拭き取り培養	1,649	295	1,354	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス菌毒素検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス菌培養 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス菌培養 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1 項目 ふん便培養 (吐物を含む)	41	15	1	0	0	0	0	0	25
	1 項目 飲食培養 (水を含む)	7	0	7	0	0	0	0	0	0
	1 項目 拭き取り培養	2	2	0	0	0	0	0	0	0
計		5,551	1,032	4,494	0	0	0	0	0	25
一般食品	細菌学的検査 複雑でないもの	8,748	8,584	0	0	0	0	0	0	164
	細菌学的検査 複雑なもの	4,007	3,997	0	0	0	0	0	0	10
	ボツリヌス菌培養 複雑でないもの	23	23	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス菌培養 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定性分析 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定量分析 複雑でないもの	63	63	0	0	0	0	0	0	0
	定量分析 複雑なもの	59	59	0	0	0	0	0	0	0
	定量分析 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		12,900	12,726	0	0	0	0	0	0	174
真菌	培養試験	772	753	0	0	0	0	0	0	19
	かび毒産生試験	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	菌型試験	23	23	0	0	0	0	0	0	0
	落下菌検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	顕微鏡検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		796	777	0	0	0	0	0	0	19
薬剤感受性 (耐性) 検査 ア. 1 菌種		59	59	0	0	0	0	0	0	0
その他抗原抗体 (ウイダール反応)		0	0	0	0	0	0	0	0	0
食品中のレジオネラ検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		22,942	16,306	5,625	0	0	459	35	218	299

4 病原細菌研究科検査実績表

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	サーベ	流行予測	病レ	開発試験
医薬品	無菌試験（輸液製剤、注射薬等）	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	無菌試験（生物学的製剤、医療機器、その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌定量培養試験（感冒剤、ビタミン剤等）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌定量培養試験（その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌分離・同定試験（生物学的製剤など）	13	0	0	13	0	0	0	0	0
医部外薬品	無菌試験（輸液製剤、注射薬等）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌定量培養試験（感冒剤、ビタミン剤等）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌定量培養試験（その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌分離・同定試験（生物学的製剤など）	2	0	0	2	0	0	0	0	0
化粧品	細菌定量培養試験（その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌分離・同定試験（生物学的製剤など）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療器	無菌試験（生物学的製剤、医療機器、その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌定量培養試験（その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌分離・同定試験（生物学的製剤など）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
承認規格（上記以外）	定性分析 複雑でないもの	5	5	0	0	0	0	0	0	0
	定量分析（乳酸菌数等）	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	定量分析（ビタミン定量等）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
殺菌効力試験		0	0	0	0	0	0	0	0	0
抗菌力試験		0	0	0	0	0	0	0	0	0
消毒機械器具の効力試験		0	0	0	0	0	0	0	0	0
破傷風検査 抗体価凝集法検査（定量）		728	0	0	0	0	0	728	0	0
呼吸器系細菌（培養検査）		1,005	586	4	0	0	378	0	31	6
その他（血液等）の細菌（培養検査）		78	0	0	0	0	78	0	0	0
薬剤感受性検査 1菌種		205	8	0	0	0	28	0	3	166
菌型試験 複雑でないもの		120	84	0	0	0	28	0	4	4
菌型試験 複雑なもの		713	543	16	0	0	123	0	25	6
寄生虫顕微鏡検査（直接法）		69	69	0	0	0	0	0	0	0
虫卵検出（集卵法）（糞便）		138	138	0	0	0	0	0	0	0
寄生原虫顕微鏡検査		99	87	0	0	0	0	0	0	12
寄生虫鑑別試験		11	2	9	0	0	0	0	0	0
魚介類寄生虫検査		129	115	14	0	0	0	0	0	0
野菜類寄生虫卵検査		594	588	0	0	0	0	0	0	6
寄生原虫の抗体検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄生原虫等抗原検出検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0
食品中の寄生原虫検出検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤痢アメーバ抗体価		0	0	0	0	0	0	0	0	0
核酸検出検査（PCR一回法）		125	48	76	0	0	1	0	0	0
梅毒トレポネーマ抗体（FTA-ABS試験）		0	0	0	0	0	0	0	0	0
梅毒トレポネーマ抗体定性		106	0	104	0	0	0	0	0	2
梅毒トレポネーマ抗体定量		0	0	0	0	0	0	0	0	0
梅毒血清反応（STS）定性（スクリーニング）		1,572	2	1,569	0	0	0	0	0	1
梅毒血清反応（STS）定量		37	0	37	0	0	0	0	0	0
淋菌核酸同定検査		1	0	1	0	0	0	0	0	0
クラミジアトラコマチス及び淋菌核酸同定検査		1,680	2	1,600	0	0	78	0	0	0
グロブリンクラス別クラミジアトラコマチス抗体		0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジアトラコマチス核酸同定検査		584	0	584	0	0	0	0	0	0
遺伝子を増幅しないもの		0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺伝子検査（PCR一回法）		110	58	2	0	0	46	0	4	0
遺伝子検査（PCR二回法）		133	3	1	0	0	129	0	0	0
遺伝子検査精密測定		136	127	0	0	0	1	0	8	0
塗抹検査（蛍光顕微鏡を使用するもの）		8	5	3	0	0	0	0	0	0
抗酸菌分離培養（液体培地法）		8	5	3	0	0	0	0	0	0
同定検査 結核菌群核酸検出		17	5	3	0	0	0	0	0	9
同定検査 抗酸菌核酸同定		0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤感受性検査（4薬剤以上）		57	43	0	0	0	0	0	0	14
結核菌型別検査		291	264	0	0	0	0	0	0	27
結核菌特異的インターフェロノン γ 産生能		622	615	1	0	0	0	0	0	6

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	サーベ	流行予測	病レ	開発試験
ジフテリア（中和）		364	0	0	0	0	0	364	0	0
百日咳菌抗体価精密検査（抗FHA）		364	0	0	0	0	0	364	0	0
百日咳菌抗体価精密検査（抗PT）		364	0	0	0	0	0	364	0	0
抗原その他 抗体検査	凝集法 定性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	凝集法 定量	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	間接蛍光抗体法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	イムノクロマト法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	精密測定 定性（寄生虫）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	精密測定 定性（その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人獣共通 感染症	菌型試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菌型試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬剤感受性検査 1菌種	109	109	0	0	0	0	0	0	0
	細菌学的検査 複雑でないもの（一菌種につき）	74	74	0	0	0	0	0	0	0
	細菌学的検査 複雑なもの（一菌種につき）	334	332	0	0	0	0	0	2	0
	狂犬病検査	12	12	0	0	0	0	0	0	0
	マウスによる試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	遺伝子検査（PCR）一回法	44	42	2	0	0	0	0	0	0
	遺伝子検査（PCR）二回法	8	1	7	0	0	0	0	0	0
	遺伝子検査精密測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他抗原抗体検査凝集法定量 1項目（ウィダール反応）	70	14	42	0	0	0	0	14	0
合計		11,142	3,987	4,080	15	0	890	1,820	91	259

5 ウイルス研究科検査実績

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	サーベ	流行予測	病レ	開発試験
分離試験	つつが虫病リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アデノ	144	0	0	0	0	144	0	0	0
	ポリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクサッキー	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ	724	0	0	0	0	724	0	0	0
	RS	209	0	0	0	0	209	0	0	0
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	パラインフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	エンテロ	817	2	0	0	0	815	0	0	0
	ヘルペス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ムンプス	3	0	0	0	0	3	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	2,645	0	0	0	0	2,645	0	0	0
抗原	アデノ（酵素抗体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロタ（酵素抗体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	デングNs-1（酵素抗体）	10	10	0	0	0	0	0	0	0
計		4,552	12	0	0	0	4,540	0	0	0
PCR	H I V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝炎	139	139	0	0	0	0	0	0	0
	ノロ	118	0	0	0	0	118	0	0	0
	アデノ	79	0	0	0	0	79	0	0	0
	エンテロ	207	11	0	0	0	195	0	1	0
	ポリオ・エンテロ	34	34	0	0	0	0	0	0	0
	ジカ	19	19	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア	20	20	0	0	0	0	0	0	0
	デング	33	33	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルペス	309	4	0	0	0	147	0	104	54
	ヒトパルボ	943	5	0	0	0	113	0	399	426
	インフルエンザ	16	7	0	0	0	9	0	0	0
	RS	4	0	2	0	0	2	0	0	0
	麻しん	663	505	19	0	0	97	0	0	42
	風しん	610	503	10	0	0	97	0	0	0
	ムンプス	19	0	0	0	0	19	0	0	0
	リケッチア	20	8	12	0	0	0	0	0	0
	コロナ	1,066	15	0	0	0	2	40	0	1,009
	その他	26,153	1,007	14	0	0	25,131	0	1	0
	遺伝子検査 一回法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	遺伝子検査 二回法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	遺伝子検査 精密測定	4,719	3,529	196	0	0	987	0	3	4
	遺伝子検査（核酸同時検出）ア	15	9	2	0	0	0	0	2	2
	遺伝子検査（核酸同時検出）ウ	4	0	0	0	0	0	0	2	2
	計	35,190	5,848	255	0	0	26,996	40	512	1,539
SARSコロナウイルス核酸増幅検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0
パルボウイルス（酵素抗体）		0	0	0	0	0	0	0	0	0
B型肝炎（酵素抗体）		364	0	0	0	0	0	364	0	0
HPV（酵素抗体）		190	0	0	0	0	0	190	0	0
その他（酵素抗体）		8	0	8	0	0	0	0	0	0
水痘（酵素抗体）		364	0	0	0	0	0	364	0	0
麻疹（酵素抗体）		364	0	0	0	0	0	364	0	0
（IFA）ツツガ虫病抗体価		0	0	0	0	0	0	0	0	0
（IFA）その他		28	0	0	0	0	0	28	0	0
計		1,318	0	8	0	0	0	1,310	0	0

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	サーベ	流行予測	病レ	開発試験
C F	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクサッキー	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルペス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ムンプス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アデノ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H I	日本脳炎 (J)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本脳炎 (N)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ (1)	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	インフルエンザ (2)	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	インフルエンザ (3)	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	インフルエンザ (4)	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	インフルエンザ (5)	5	0	0	0	0	0	5	0	0
	パラインフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	風しん	359	0	0	0	0	0	359	0	0
	その他	56	0	0	0	0	0	56	0	0
	計	1,876	0	0	0	0	0	1,876	0	0
中 和	ポリオ (1型)	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	ポリオ (2型)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ポリオ (3型)	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	日本脳炎	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	その他	364	0	0	0	0	0	364	0	0
	計	1,456	0	0	0	0	0	1,456	0	0
(PA) 麻疹		0	0	0	0	0	0	0	0	0
蚊の分類		20	0	0	0	0	0	20	0	0
HIV-1. 2抗原・抗体同時測定定量		1,659	14	1,645	0	0	0	0	0	0
HIV-1. 2 特異抗体 (イムノクロマト法)		18	9	9	0	0	0	0	0	0
HIV-1. 2抗体 (ウエスタンブロット法)		0	0	0	0	0	0	0	0	0
HIV-1核酸定量		2	0	2	0	0	0	0	0	0
間接蛍光抗体検査 (IFA法)		0	0	0	0	0	0	0	0	0
HBs抗原定性・半定量		0	0	0	0	0	0	0	0	0
HBs抗体定性・半定量		0	0	0	0	0	0	0	0	0
HCV抗体定性・定量		0	0	0	0	0	0	0	0	0
HCV核酸検出		0	0	0	0	0	0	0	0	0
HA抗体		0	0	0	0	0	0	0	0	0
IgM-HA抗体		0	0	0	0	0	0	0	0	0
リアルタイムPCR検査 (食中毒)		4,438	955	3,443	0	0	0	0	0	40
食中毒ウイルス検査		85	2	83	0	0	0	0	0	0
リアルタイムPCR検査 (感染症)		25	0	25	0	0	0	0	0	0
遺伝子検査精密測定		236	115	115	0	0	6	0	0	0
計		6,483	1,095	5,322	0	0	6	20	0	40
合計		50,875	6,955	5,585	0	0	31,542	4,702	512	1,579

6 食品成分研究科検査実績

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	開発試験
成分分析・天然・中毒・バイオ	定性分析 複雑でないもの	124	121	3	0	0	0
	定性分析 複雑なもの	2,700	2,697	3	0	0	0
	定性分析 特に複雑なもの	95	20	5	0	0	70
	定量分析 複雑でないもの	39	29	0	0	0	10
	定量分析 複雑なもの	2,907	2,754	0	0	0	153
	定量分析 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	定量分析 特殊なもの	0	0	0	0	0	0
	有害性金属試験 複雑でないもの	837	357	0	0	0	480
	有害性金属試験 複雑なもの	963	278	0	0	0	685
	有害性物質試験 複雑でないもの	162	43	8	0	0	111
	有害性物質試験 複雑なもの	4	4	0	0	0	0
	有害性物質試験 特に複雑なもの	1,806	176	3	0	0	1,627
	肉種鑑別試験	0	0	0	0	0	0
	かび毒試験	798	128	6	0	0	664
計		10,435	6,607	28	0	0	3,800
栄養	定性分析 複雑でないもの	254	150	0	0	0	104
	定性分析 複雑なもの	1,910	124	0	0	0	1,786
	定性分析 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	定量分析 複雑でないもの	195	141	0	0	0	54
	定量分析 複雑なもの	722	312	0	0	0	410
	定量分析 より複雑なもの	339	13	0	0	0	326
	定量分析 特に複雑なもの	1,108	1	0	0	0	1,107
	有害性金属試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
	有害性金属試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	計	4,528	741	0	0	0	3,787
組換え遺伝子検査 定性分析		369	230	0	0	0	139
組換え遺伝子検査 定量分析		35	15	0	0	0	20
合計		15,367	7,593	28	0	0	7,746

7 食品添加物研究科検査実績表

項目			総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	開発試験
食品添加物	定性分析	複雑でないもの	253	160	0	0	0	93
	定性分析	複雑なもの	9,959	9,205	0	0	0	754
	定性分析	特に複雑なもの	17,204	9,835	5	0	0	7,364
	定性分析	特殊なもの	8	5	0	0	0	3
	定量分析	複雑でないもの	13	13	0	0	0	0
	定量分析	複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	定量分析	特に複雑なもの	6,242	216	5	0	0	6,021
	定量分析	特殊なもの	2	0	0	0	0	2
	有害性金属試験	複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
	有害性金属試験	複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	有害性物質試験	複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
	有害性物質試験	複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	有害性物質試験	特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	計		33,681	19,434	10	0	0	14,237
添加物品質	定性分析	複雑でないもの	23	13	0	0	0	10
	定性分析	複雑なもの	2	1	0	0	0	1
	定性分析	特に複雑なもの	23	17	0	0	0	6
	定量分析	複雑でないもの	5	4	0	0	0	1
	定量分析	複雑なもの	3	1	0	0	0	2
	定量分析	特に複雑なもの	11	9	0	0	0	2
容器包装	計		67	45	0	0	0	22
	定性分析	複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
	定性分析	複雑なもの	6	3	3	0	0	0
	定性分析	特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0
	定量分析	複雑でないもの	17	2	0	0	0	15
	定量分析	複雑なもの	3	3	0	0	0	0
	定量分析	特に複雑なもの	378	205	0	0	0	173
	有害性物質試験	特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0
合計			34,152	19,692	13	0	0	14,447

8 残留物質研究科検査実績表

項目	総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	TBT0等	開発試験
定性分析 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0
定性分析 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
定性分析 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
定量分析 複雑でないもの	76	76	0	0	0	0	0
定量分析 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
定量分析 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
有害性物質試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0
有害性物質試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
有害性物質試験 特に複雑なもの	516	76	0	0	0	48	392
有害性物質試験（定量分析 複雑でないもの）	0	0	0	0	0	0	0
残留農薬定量分析	71,061	34,238	0	0	0	0	36,823
ダイオキシン類分析	0	0	0	0	0	0	0
動物用医薬品試験 複雑でないもの(細菌学的試験)	3,037	3,037	0	0	0	0	0
動物用医薬品試験 複雑なもの(理化学的試験)	12,842	4,302	0	0	0	0	8,540
動物用医薬品試験 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
PCB食品中の定量分析	677	404	0	0	0	0	273
合計	88,209	42,133	0	0	0	48	46,028

9 医薬品研究科検査実績表

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	開発試験
医薬品・危険製造所・ゲノム・健康食品・捜査等	医薬品承認審査	0	0	0	0	0	0
	定性分析 複雑でないもの	1,921	1,871	50	0	0	0
	定性分析 複雑なもの	102	12	68	0	0	22
	定性分析 特に複雑なもの	1,734	1,538	183	0	0	13
	定性分析 特殊なもの	8,127	8,123	0	0	0	4
	定量分析 複雑でないもの	911	896	15	0	0	0
	定量分析 複雑なもの	65	13	49	0	0	3
	定量分析 特に複雑なもの	369	76	191	0	0	102
	定量分析 特殊なもの	32	18	0	0	0	14
	物理試験 複雑でないもの	19	2	16	0	0	1
	物理試験 複雑なもの	41	6	32	0	0	3
	生薬鑑別試験	21	21	0	0	0	0
	植物鑑別試験	688	688	0	0	0	0
	食品衛生試験：有害性物質試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0
計		14,030	13,264	604	0	0	162
部外品・化粧品・医療機器・家庭用品・苦情等	定性分析 複雑でないもの	174	85	89	0	0	0
	定性分析 複雑なもの	2,088	1,778	310	0	0	0
	定性分析 特に複雑なもの	3	3	0	0	0	0
	定性分析 特殊なもの	0	0	0	0	0	0
	定量分析 複雑でないもの	136	87	49	0	0	0
	定量分析 複雑なもの	186	108	78	0	0	0
	定量分析 特に複雑なもの	637	505	73	0	0	59
	医薬品等試験：定量分析 特殊なもの	5	2	3	0	0	0
	物理試験 複雑でないもの	70	22	48	0	0	0
	物理試験 複雑なもの	86	65	21	0	0	0
	食品衛生試験：有害性金属試験 複雑でないもの	46	24	16	0	0	6
	食品衛生試験：有害性金属試験 複雑なもの	23	12	8	0	0	3
計		3,454	2,691	695	0	0	68
医薬品・指定医薬部外品製造承認試験		29	0	0	0	29	0
医薬部外品製造承認試験		340	0	0	0	340	0
(受託) 後発医薬品品質試験		24	24	0	0	0	0
下水又は廃水等試験：定量分析 複雑なもの (シアン)		86	19	67	0	0	0
合計		17,963	15,998	1,366	0	369	230

10 環境衛生研究科検査実績表

項目		総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	受託	開発試験
塵埃	塵埃検査（大きさ、数）	0	0	0	0	0	0	0
	塵埃検査（量、種類）	0	0	0	0	0	0	0
有毒ガス	有毒ガス試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0
	有毒ガス試験 複雑なもの	345	345	0	0	0	0	0
	有毒ガス試験 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
有害性化学物質等	有害性金属試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0
	有害性金属試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
	有害性金属試験 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
	有害性物質試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0
	有害性物質試験 複雑なもの	1,429	1,429	0	0	0	0	0
	有害性物質試験 特に複雑なもの	427	342	0	0	0	0	85
	ダイオキシン類の分析	1,886	1,681	0	0	0	0	205
計		4,087	3,797	0	0	0	0	290
上水	定性分析 複雑でないもの	358	358	0	0	0	0	0
	定性分析 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
	定量分析 複雑でないもの	564	512	0	0	0	0	52
	定量分析 複雑なもの	4,854	2,934	0	0	0	0	1,920
	定量分析 特に複雑なもの	2,830	1,922	0	0	0	0	908
	定量分析 特殊なもの	12,953	11,297	0	0	0	0	1,656
	省略不可試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0	0
	省略不可試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
	省略不可試験 特に複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
	食品衛生法にかかる水質検査	0	0	0	0	0	0	0
	ダイオキシン類の分析	0	0	0	0	0	0	0
計		21,559	17,023	0	0	0	0	4,536
下水	定性分析 複雑でないもの	599	599	0	0	0	0	0
	定量分析 複雑でないもの	1,270	1,270	0	0	0	0	0
	定量分析 複雑なもの	312	312	0	0	0	0	0
	定量分析 特に複雑なもの	288	288	0	0	0	0	0
	定量分析 特殊なもの	96	96	0	0	0	0	0
	定量分析 消毒副生成物	0	0	0	0	0	0	0
	BOD試験 複雑でないもの	24	24	0	0	0	0	0
	BOD試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0	0
	有害性物質試験 内分泌かく乱科学物質	342	342	0	0	0	0	0
計		2,931	2,931	0	0	0	0	0
省略不可細菌試験（一般細菌及び大腸菌）		0	0	0	0	0	0	0
細菌及び生物試験 複雑でないもの		1,354	1,294	0	0	0	0	60
細菌及び生物試験 複雑なもの		78	78	0	0	0	0	0
細菌及び生物試験 特に複雑なもの		153	153	0	0	0	0	0
細菌及び生物試験 特殊なもの		0	0	0	0	0	0	0
菌型試験 ア 複雑でないもの		0	0	0	0	0	0	0
菌型試験 イ 複雑なもの		60	0	0	0	0	0	60
下水又は廃水（レジオネラ検査 浴槽水、プール水、給湯水）		1,104	878	11	0	0	0	215
下水又は廃水（レジオネラ検査 冷却塔水、その他）		82	78	3	0	0	0	1
遺伝子精密測定		0	0	0	0	0	0	0
遺伝子検査（PCR一回法）		113	34	14	0	0	0	65
クリプトスポリジウム等原虫検出検査（環境水）		28	28	0	0	0	0	0
クリプトスポリジウム等原虫検出検査（飲料水）		28	28	0	0	0	0	0
空中落下細菌数		0	0	0	0	0	0	0
空中浮遊細菌数		0	0	0	0	0	0	0
害虫検査 複雑でないもの		5,354	1,260	27	0	0	0	4,067
害虫検査 複雑なもの		0	0	0	0	0	0	0
おしぼり衛生検査		0	0	0	0	0	0	0
計		8,354	3,831	55	0	0	0	4,468
放射能検査等		5,036	3,102	0	0	0	1,934	0
合計		41,967	30,684	55	0	0	1,934	9,294

1 1 生体影響研究科検査実績表

(1) 東京都健康安全研究センター関係手数料条例施行規則別表第一に項目のある検査

項目	総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	その他
定性分析	0	0	0	0	0	0
発熱性物質試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
発熱性物質試験 複雑なもの	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0

(2) 東京都健康安全研究センター関係手数料条例施行規則別表第一に項目のない検査

項目	総数	行政検査	区市依頼	一般依頼	準依頼	その他
危険ドラッグ試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
危険ドラッグ試験 複雑なもの	17,272	17,272	0	0	0	0
細胞毒性試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
細胞毒性試験 複雑なもの	10	10	0	0	0	0
大気汚染物質試験 複雑でないもの	0	0	0	0	0	0
大気汚染物質試験 複雑なもの	6262	6,262	0	0	0	0
合計	23,544	23,544	0	0	0	0

第5節 精度管理調査事業

精度管理調査は、精度管理実施機関が試験検査機関に試料を配付し、その試料の試験検査の結果を評価し、試験検査上の問題点を把握・改善することにより、各機関の試験検査精度の維持、向上を図ることを目的に実施している。

「東京都衛生検査所精度管理調査」、「医療機関に対するPCR等検査の精度管理調査」、「東京都水道水質管理計画に基づく水道水質検査機関に対する精度管理調査」、「都区精度管理調査」の令和7年度実績は下記のとおりである。

1 東京都衛生検査所精度管理調査

福祉保健局医療政策部の事業に基づき、東京都医師会等と協力して都内の登録衛生検査所等、合計66施設を対象に「東京都衛生検査所精度管理調査」を実施した。

(1) オープン方式及びブラインド方式による調査

当センターから直接試料を配付するオープン方式による調査と、医療機関を通じて試料を配付し、調査であることを伏せて行うブラインド方式による調査を行った。

区 分		オープン方式			ブラインド方式		
		参加施設数	内 訳		検査項目別の参加施設数	調 査 施設数 (延べ) *	検 査 項 目 別 の 調 査 施 設 数 (延 べ)
			都内 施設	都外 施設			
生化学的検査		6 6	3 2	4	3 6	2 7	2 7
血液学的検査			3 3	4	3 7		2 7
免疫学的検査			2 9	4	3 3		2 7
微生物学的検査			1 5	4	1 9		2 0
細胞診検査	実施状況		1 4	1	1 5		
	標本抜き取り		1 3	1	1 4		
病理組織検査	実施状況		1 4	1	1 5		
	標本作製技術		1 4	1	1 5		
	標本抜き取り		1 1	1	1 2		
寄生虫学的検査			9	3	1 2		
遺伝子検査		1 7	5	2 2	2 7	9	

*登録衛生検査所数延べ数(医療機関数)

2 医療機関に対するPCR等検査の精度管理調査

令和7年4月1日までに都と医療措置協定を締結した医療機関のうち、自院内で検査の採取から検査の実施までが可能である検査措置協定を兼ねて締結している診療所を対象に、日本臨床検査薬協会と協力して都内の診療所および病院の計771施設を対象に「医療機関に対するPCR等検査の精度管理調査」として遺伝子検査に関する文書調査、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）遺伝子検査の技能試験ならびに実地における技術支援を実施した。

3 東京都水道水質管理計画に基づく水道水質検査機関に対する精度管理調査

都内の水道事業体（東京都水道局を含む）及び水道法第20条第3項に規定する登録検査機関のうち水質検査を行う区域に東京都を含む検査機関における水質検査の信頼性の確保及び向上を図るため、環境衛生研究科が主体となり外部精度管理調査を実施し、その結果について講評会を開催している。令和7年度は、無機物として亜硝酸態窒素、有機物としてホルムアルデヒドを対象項目とした。亜硝酸態窒素の参加検査機関数は34機関で、そのうち1機関は参加申し込みを行ったが報告書提出を辞退したため、評価の対象とならなかった。また、評価基準を満たさない機関が4機関あった。これら5機関に対し、原因究明及び改善報告書の提出を求めた。ホルムアルデヒドの参加検査機関数は32機関で、そのうち1機関がGrubbsの棄却検定により棄却されたため、原因究明及び改善報告書の提出を求めた。本調査の実施結果については、講評会にて報告を行うとともに、東京都健康安全研究センターのホームページ（水道水質精度管理）にて公表した。

4 都区精度管理調査

都区協定に基づく都及び区の保健衛生検査機関を対象とした「都区精度管理調査」を実施した。当センター及び区職員からなる専門委員会が作成した精度管理調査計画に基づき、担当研究科を中心に精度管理試料の調製及び配付、結果の解析を行い、参加機関を対象として講評を行った。

項 目		特別区	都	担当研究科
腸内細菌	赤痢菌、チフス菌・パラチフスA菌を含むサルモネラ及び腸管出血性大腸菌（O157、O26及びO111）の分離・同定	施設 1 2	施設 5	食品微生物研究科
水質	塩化物イオン、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、TOC、過マンガン酸カリウム消費量、濁度の定量試験（全て自由参加）	6	1	環境衛生研究科
食品化学	着色料（食用タール色素）の分析（自由参加）	5	1	食品添加物研究科
食品細菌	細菌数の測定、大腸菌群及び黄色ブドウ球菌の測定	1 3	1	食品微生物研究科
合 計		3 6	8	

第6節 病原体レファレンス事業

地方衛生研究所は、地方衛生研究所設置要綱（昭和51年9月10日付厚生事務次官通知（厚生省発衛第173号））に基づき、試験検査に不可欠な標準品及び標準株を確保・提供するレファレンスセンターとしての役割を担うこととされている。当センターにおいても平成20年度から新規事業として病原体レファレンス事業を立ち上げ、都内で発生する感染症の病原体を積極的に収集し、当該病原体を分析して遺伝子変異、薬剤耐性や流行菌型の変化等を解明することで、有効な感染拡大防止対策や予防措置に資する情報を都民や医療機関等に提供している。

1 病原体レファレンス事業の概要

(1) 協力医療機関からの病原体収集事業

感染症法第12条第1項に規定する届出対象感染症以外の病原体であって、かつセンターが指定する病原体が協力医療機関の検査により分離された場合、センターが当該病原体を収集し、疫学解析を実施する。協力医療機関として、都立病院及び公益財団法人東京都保健医療公社病院と協定を締結し、事業協力を受けている。また、事業の開始に当たっては、当センター及び各協力医療機関の倫理審査委員会による審査・承認を得た。令和7年度に収集した病原体は表1のとおりである。

(2) 都区市保健所の積極的疫学調査の一環として実施される病原体検査の支援事業

都内で特異的な感染症の流行が観測された場合には、必要なサンプル数を確保し、全都又は特定地域における疫学的解析を実施する必要がある。そこで、保健所の積極的疫学調査として実施される病原体検査の一部について、病原体の運搬、検査及び疫学的解析を当センターが担当し、総合的な解析を行う。

(3) 病原体所持機関とその都度連携し、情報共有及びレファレンス機能強化に資する病原体を収集する事業

他自治体の地方衛生研究所や国立感染症研究所等の病原体所持機関とその都度協議し、当該機関の協力のもと、当センターのレファレンス機能強化に資する病原体の収集・解析等を行う。

(4) 協力医療機関又は保健所等と連携し、生体試料・疫学情報を収集する事業

感染症が発生し、診断確定のための生体試料の検査や疫学情報の解析等が必要と認められる場合、関係する医療機関や保健所等と協議し、生体試料等の検査・分析を行う。

2 事業結果

(1) 協力医療機関からの病原体収集事業

本事業で収集した病原体の概要を表1に示した。収集した病原体は、微生物部各研究科で解析し、その結果は、協力医療機関にその都度、検査成績として提供した。また、病原体の疫学的解析結果のまとめは、当センターのホームページ（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/epid/>）に、東

京都微生物検査情報等として提供している。

表1 協力医療機関等から収集した病原体の概要（令和7年4月～令和8年3月）

対 象 病 原 体		収集菌株数
1	溶血性レンサ球菌（劇症型溶血性レンサ球菌を除く。）	11
2	肺炎球菌（侵襲性を除く。）	7
3	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（感染症由来菌株を除く。）	1
4	カンピロバクター	65
5	大腸菌（下痢症患者由来とし、腸管出血性大腸菌を除く。）	103
6	サルモネラ	46
7	エルシニア	6
8	リステリア	1
9	インフルエンザ菌	1
10	その他協力医療機関等の院内検査で、菌種等の同定が困難なもの （センターとの事前協議を経たものに限る。）	10

(2) 都区市保健所の積極的疫学調査の一環として実施される病原体検査の支援事業

積極的疫学調査として実施された麻しん及び風しん検査の陰性例を対象に類症鑑別検査を実施した。検査陰性例429検体について遺伝子検査を行った結果、ヒトパルボウイルス B19遺伝子が30検体、ヒトヘルペスウイルス6型が16検体、ヒトヘルペスウイルス7型が5検体から検出された。

(3) 病原体所持機関とその都度連携し、情報共有及びレファレンス機能強化に資する病原体を収集する事業

他自治体の地方衛生研究所、特別区の衛生検査機関等と連携し、サルモネラ52株及び赤痢菌1株を収集、型別試験及び薬剤感受性試験を行った。

(4) 協力医療機関又は保健所等と連携し、生体試料・疫学情報を収集する事業

髄膜炎菌接触者検査を目的として、鼻咽頭ぬぐい液4検体の培養検査および遺伝子検査を実施した結果、全検体陰性であった。また、レプトスピラ遺伝子陽性1症例からの抗体検査（ペア血清）を実施した結果、陽性であった。

